

世田谷区ひとり親家庭調査 調査報告書

令和6年3月

世田谷区

目次

第1章 調査概要	1
1 調査目的	3
2 調査対象	3
3 調査方法	3
4 調査時期	3
5 回収数(回収率)	3
6 調査項目	4
第2章 調査結果	7
1 回答者について	9
2 住居について	11
3 ふだんの生活について	16
4 仕事について	26
5 経済状況について	36
6 子育てについて	43
7 相談支援について	53
8 自由意見	70
資料編	79

第1章 調査概要

1 調査目的

「(仮称)世田谷区子ども・若者総合計画(第3期)」の策定にあたり、世田谷区のひとり親家庭の実態を把握し、今後の区のひとり親家庭支援等の検討に資することを目的とする。

2 調査対象

児童育成手当受給世帯のうち、申請理由が離婚、死亡、生死不明、遺棄、未婚である世帯の保護者 3,816人

3 調査方法

郵送配布、郵送回収・インターネット回答(礼状兼督促状1回)

4 調査時期

令和5年11月1日(水)～11月22日(水)

5 回収数(回収率)

発送数	回収・回答数 (率)	内訳	
		郵送 回収数(率)	インターネット 回答数(率)
3,816	1,845 (48.3%)	921 (24.1%)	924 (24.2%)

6 調査項目

大項目	問番号	質問
A 回答者について	1	回答者
	2	年齢
	3	居住地域
	4	同居家族
B 住居について	5	住居状況
	5-1	住居を借りる際に最も必要とする設備
	5-2	希望する間取り
	5-3	借りる際に困ったこと
	5-4	必要な居住に関する支援
	6	住居の選択にあたって優先すること
C ふだんの生活について	6-1	毎月負担している住居費
	7	ひとり親になったときの年齢
	8	ひとり親になったときの末子の年齢
	9	ひとり親になった理由
	9-1	子どもの認知状況について
	10	養育費を受け取っているか
	10-1	養育費の月額
	10-2	養育費についての取り決め
	10-3	養育費の支払いの履行状況
	10-4	養育費を受け取っていない理由
	11	面会等の状況
D 仕事について	11-1	子どもが相手方と会っていない理由
	11-2	面会交流についての取り決め
	12	現在、仕事をしているか
	12-1	雇用形態
	12-2	就業時間(1日の就労時間、1週間あたりの就労日数、平均的な帰宅時間)
	12-3	仕事を選ぶ優先度
	12-4	現在の仕事の継続意向
	12-5	仕事をしていない人の現在の状況
	12-6	今後、希望する雇用形態
13	新しく仕事を始めるときに必要な支援	
E 経済状況について	14	最終学歴
	15	資格(①持っている資格・技術、②これから取得したい資格・技術)
	16	生計を立てている収入
	17	年間の世帯の総収入(①年間の世帯の総収入、②年間の総収入のうちの就労収入)
	18	家計(①家計の中で多くを占める費用、②もっとお金をかけたいと思う費用)

大項目	問番号	質問
F 子育てについて	19	お子さんの人数(20歳未満のお子さんについて)
	19-1	お子さんについて(性別、生年月、同居・別居、学齢・就学・就労状況等)(20歳未満のお子さんがある家庭のみ)
	20(1)	定期的な子どもの預け先(未就学児のお子さんがある家庭のみ)
	20(2)	子どもが体調不良のときの預け先(未就学児のお子さんがある家庭のみ)
	21	子どもとのコミュニケーション方法(小学生のお子さんがある家庭のみ)
	22-1 ~3	経済的な理由でできていないこと(小学生、中学生、高校生世代のお子さんがある家庭のみ)
	23	現在の子どもや自分のことでの悩みごと
G 相談支援について	24	周囲の人との関わり方
	25	ひとり親になる前後の悩みごとの相談先
	26	相談したくてもできなかった理由
	27	ひとり親になる時に知りたかったこと
	28	総合支所の子ども家庭支援センター窓口の利用の有無
	28-1	総合支所の子ども家庭支援センター窓口を利用しなかった理由
	28-2	どうしたら区の窓口が利用しやすくなると思うか
	29	公的制度・施設等の認知状況
	30	支援情報の入手先
	31	便利だと思う支援情報の入手方法
	32	ひとり親施策の中で、区に特に取り組んでほしいこと
33	悩みや不安、必要と感じる支援等(自由回答)	

※平成 30 年度調査の調査概要

調査対象	有効回収数(率)	調査方法	調査時期
平成30年1月時点、児童育成手当受給世帯のうち、申請理由が離婚、死亡、生死不明、遺棄、未婚である世帯の保護者 4,202人	1,442 (34.3%)	郵送配布・ 郵送回収	平成30年 11月21日~ 12月12日

第2章 調査結果

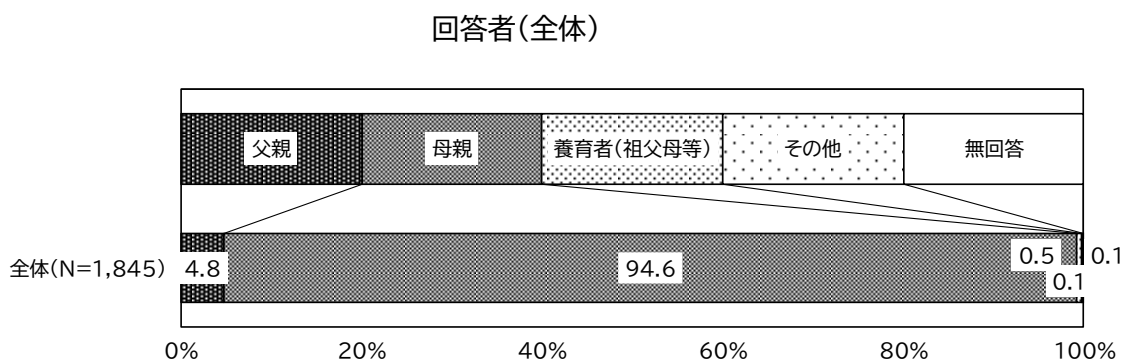
<図表のみかた>

- 1 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN(Number of case)、それ以外の場合にはnと表記している。
- 2 %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合(例えば99.9%、100.1%)がある。
- 3 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は100%にならないことがある。また、グラフは原則多い順に並び替えている(「その他」、「ない」、「無回答」以外)、順番に意味がある場合は、選択肢順としている。
- 4 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されている。

1 回答者について

(1)回答者(問1)

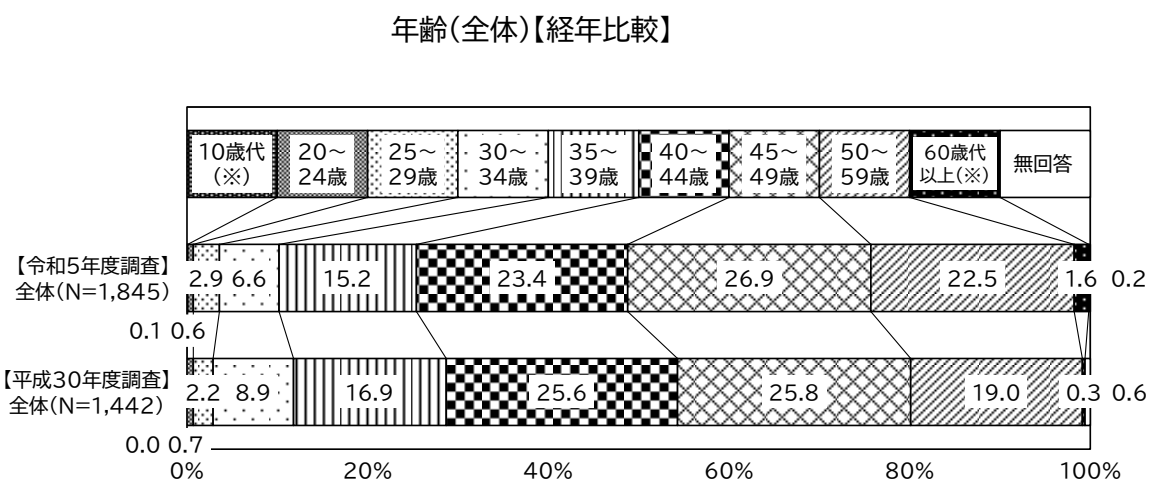
回答者は、「父親」が 4.8%、「母親」が 94.6%、「養育者(祖父母等)」が 0.5%、「その他」が 0.1%となっている。



(2)年齢(問2)

年齢は、「45～49 歳(26.9%)」が最も高く、「40～44 歳(23.4%)」、「50～59 歳(22.5%)」が続いている。

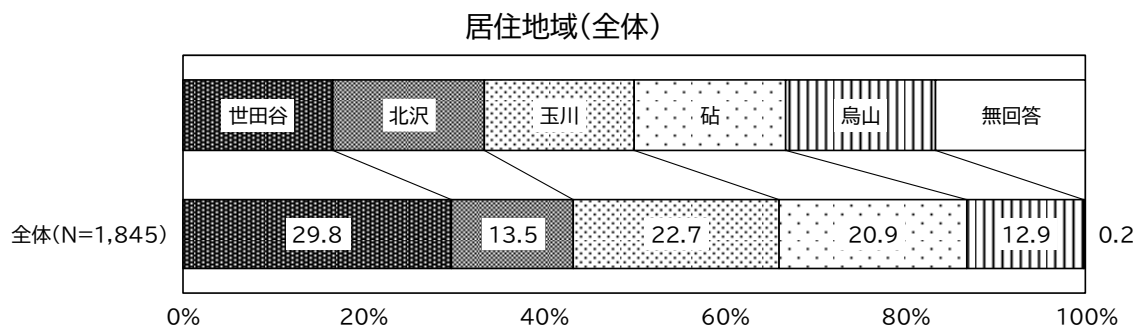
平成 30 年度調査と比較すると、令和5年度は 45 歳以上の割合が高くなっている。



※平成 30 年度は、選択肢が「10 代」、「60 代以上」となっている。

(3) 居住地域(問3)

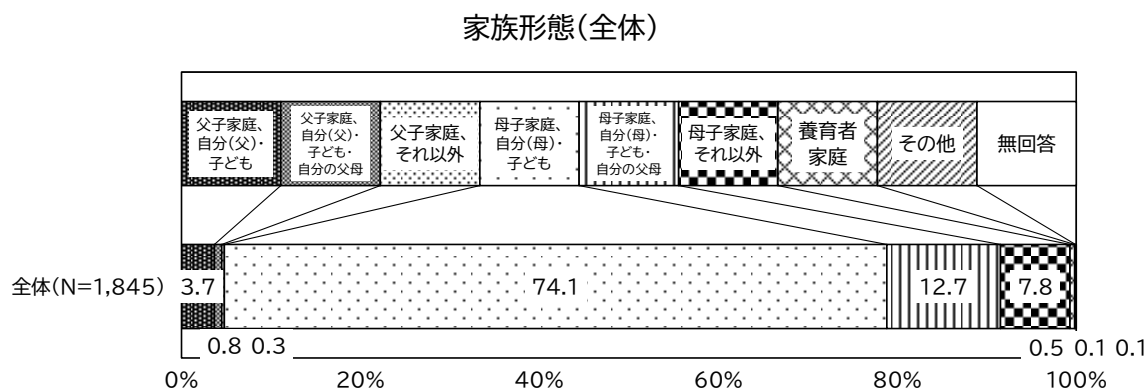
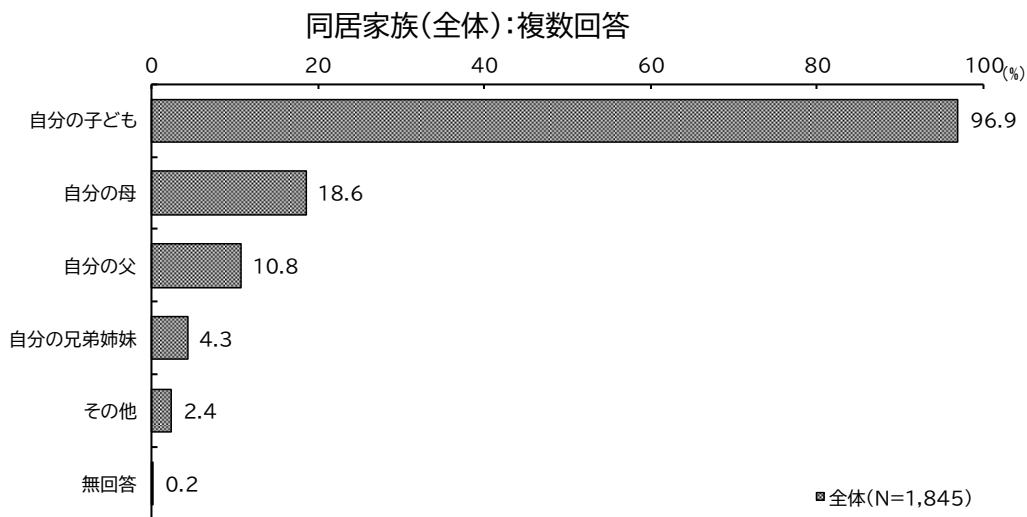
居住地域は、「世田谷」が29.8%、「北沢」が13.5%、「玉川」が22.7%、「砧」が20.9%、「烏山」が12.9%となっている。



(4) 同居家族(問4)

同居家族は、「自分の子ども(96.9%)」が最も高く、「自分の母(18.6%)」、「自分の父(10.8%)」が続いている。

家族形態は、「母子家庭、自分(母)・子ども(74.1%)」が最も高く、「母子家庭、自分(母)・子ども・自分の父母(12.7%)」、「母子家庭、それ以外(7.8%)」が続いている。



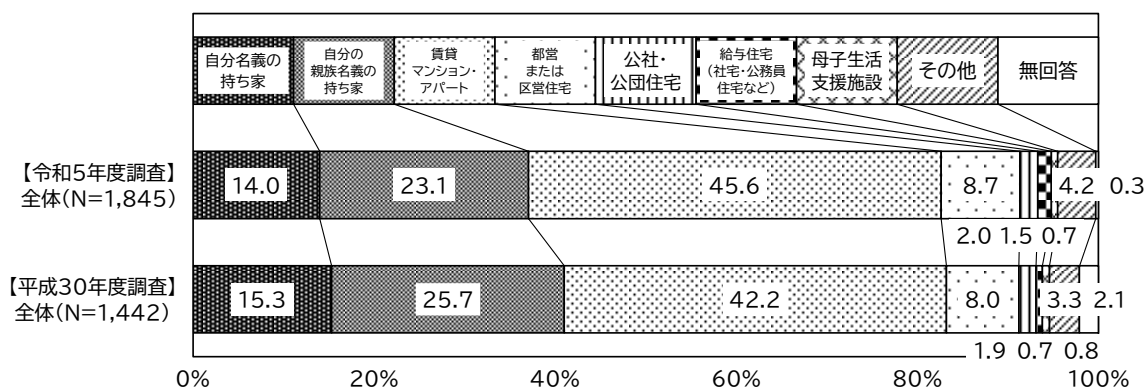
2 住居について

(1)住居状況(問5)

住居状況は、「賃貸マンション・アパート(45.6%)」が最も高く、「自分の親族名義の持ち家(23.1%)」、「自分名義の持ち家(14.0%)」が続いている。

平成30年度調査と比較すると、令和5年度では持ち家の割合が低くなり、賃貸等の持ち家以外の割合が高くなっている。

住居状況(全体)【経年比較】



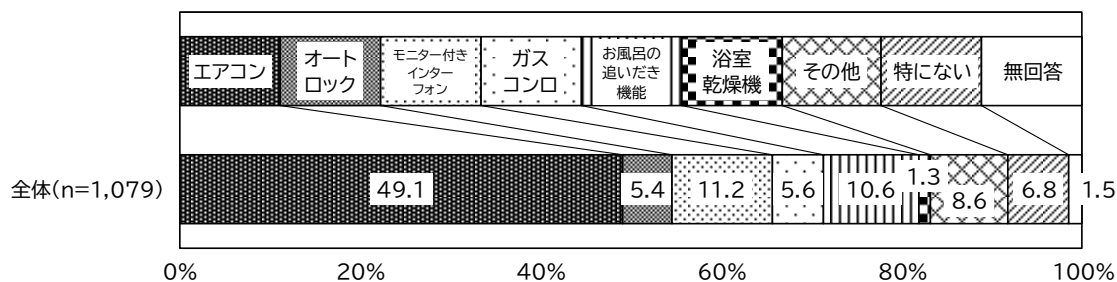
※平成30年度は、質問が『住居についてお伺いします。』となっている。

(2)住居を借りる際に最も必要とする設備(問5-1)

問5で持ち家以外の住居と回答した人に、住居を借りる際に最も必要とする設備についてたずねたところ、「エアコン(49.1%)」が最も高く、「モニター付きインターフォン(11.2%)」、「お風呂の追いだき機能(10.6%)」が続いている。

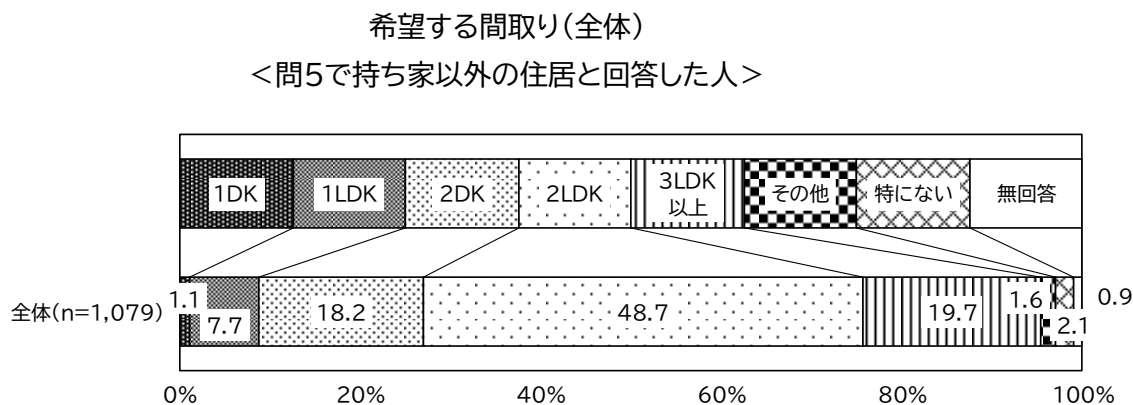
住居を借りる際に最も必要とする設備(全体)

<問5で持ち家以外の住居と回答した人>



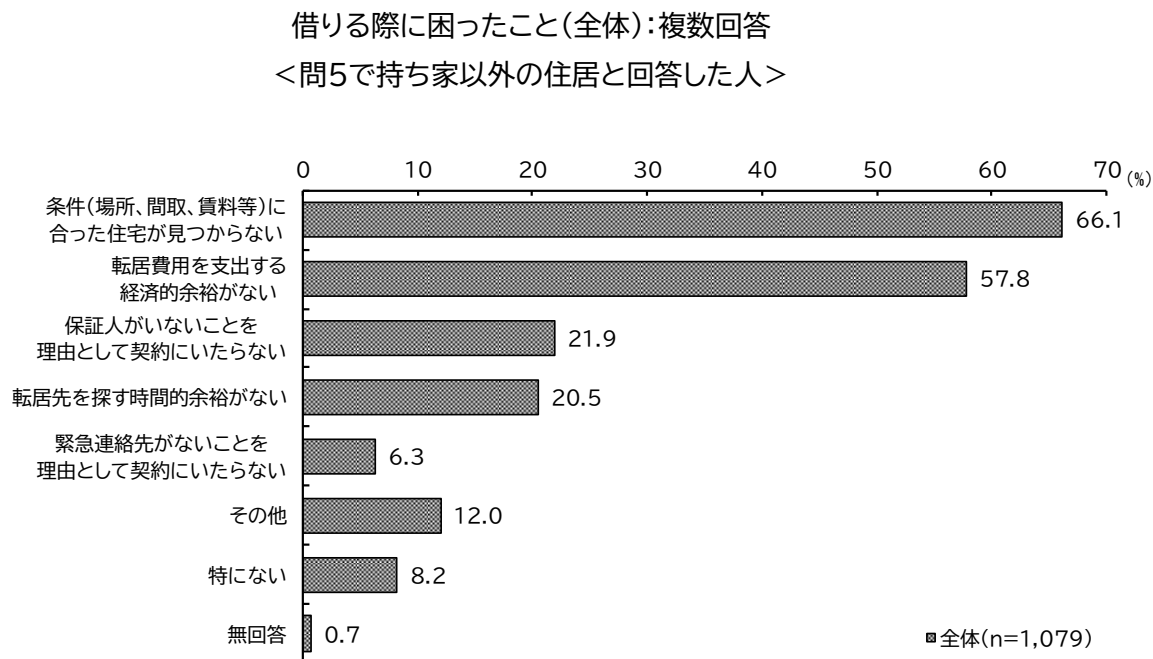
(3)希望する間取り(問 5-2)

問5で持ち家以外の住居と回答した人に、希望する間取りについてたずねたところ、「2LDK (48.7%)」が最も高く、「3LDK以上(19.7%)」、「2DK(18.2%)」が続いている。



(4)借りる際に困ったこと(問 5-3)

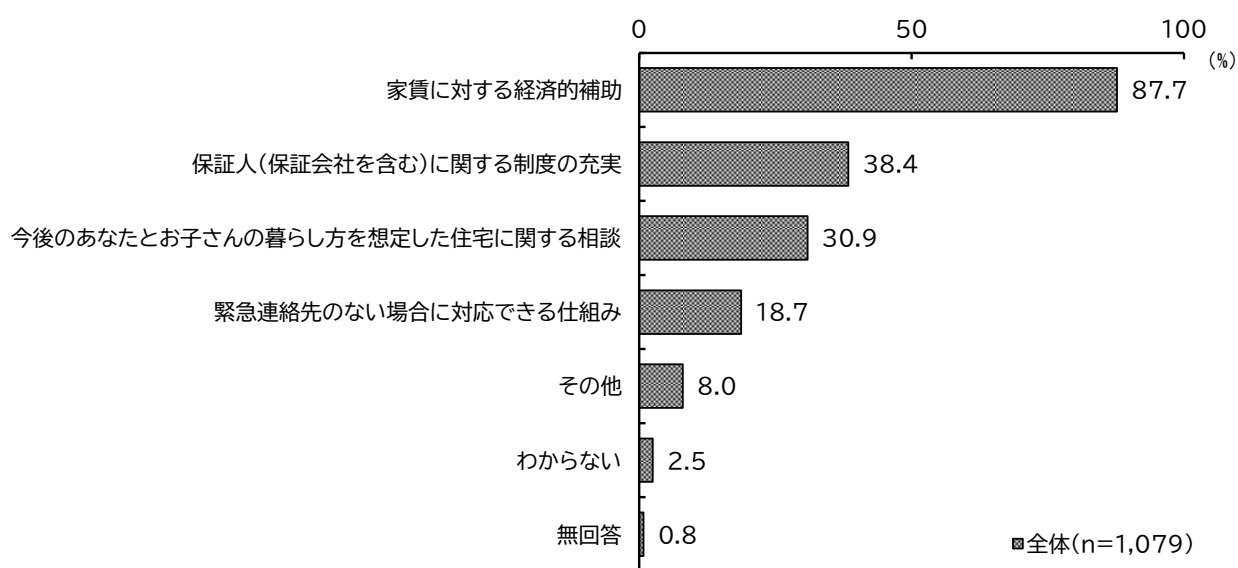
問5で持ち家以外の住居と回答した人に、借りる際に困ったことについてたずねたところ、「条件(場所、間取、賃料等)に合った住宅が見つからない(66.1%)」が最も高く、「転居費用を支出する経済的余裕がない(57.8%)」、「保証人がいないことを理由として契約にいたらない(21.9%)」が続いている。



(5)必要な居住に関する支援(問 5-4)

問5で持ち家以外の住居と回答した人に、必要な居住に関する支援についてたずねたところ、「家賃に対する経済的補助(87.7%)」が最も高く、「保証人(保証会社を含む)に関する制度の充実(38.4%)」、「今後のあなたとお子さんの暮らし方を想定した住宅に関する相談(30.9%)」が続いている。

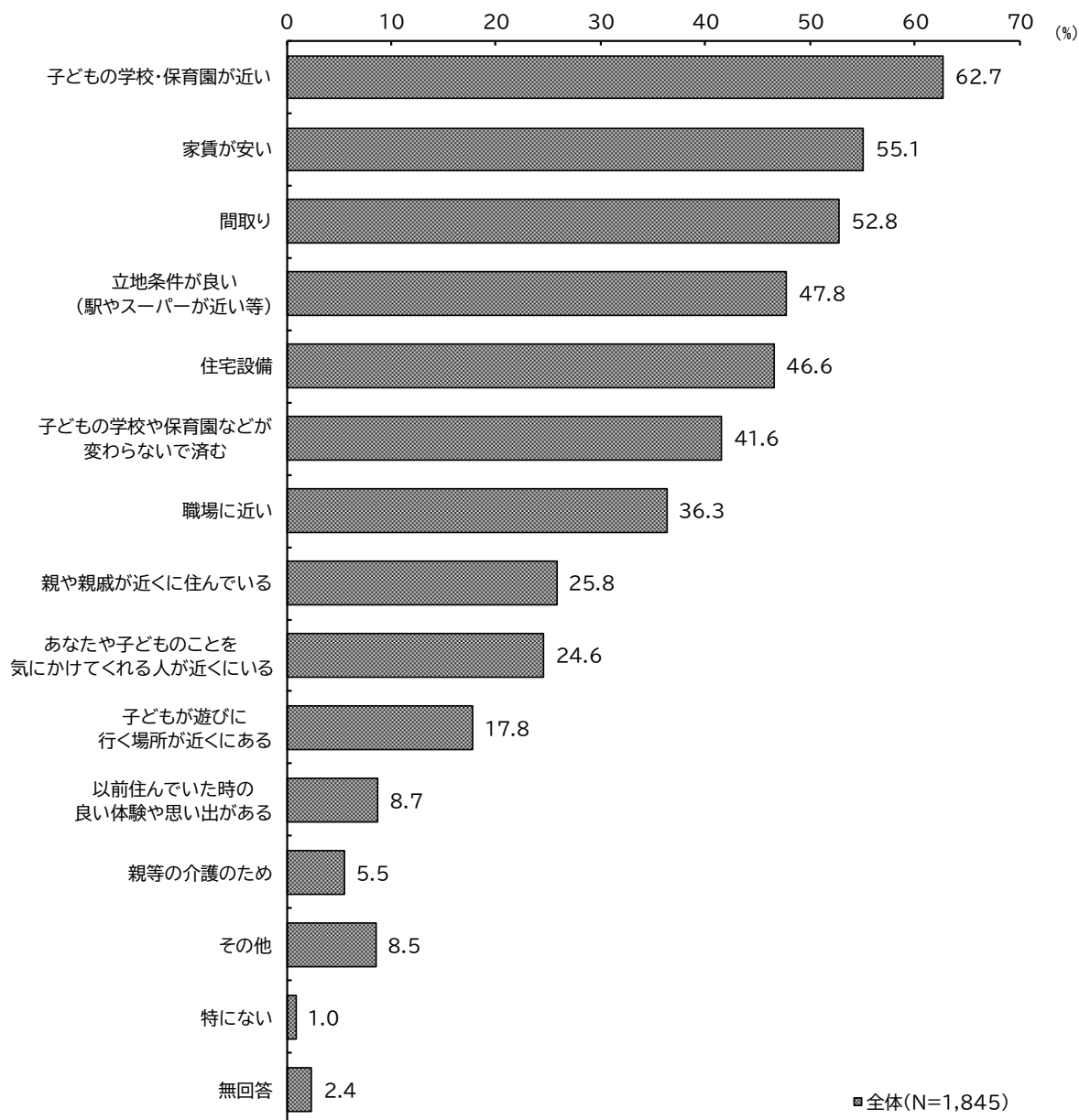
必要な居住に関する支援(全体):複数回答
 <問5で持ち家以外の住居と回答した人>



(6)住居の選択にあたって優先すること(問6)

住居の選択にあたって優先することは、「子どもの学校・保育園が近い(62.7%)」が最も高く、「家賃が安い(55.1%)」、「間取り(52.8%)」が続いている。

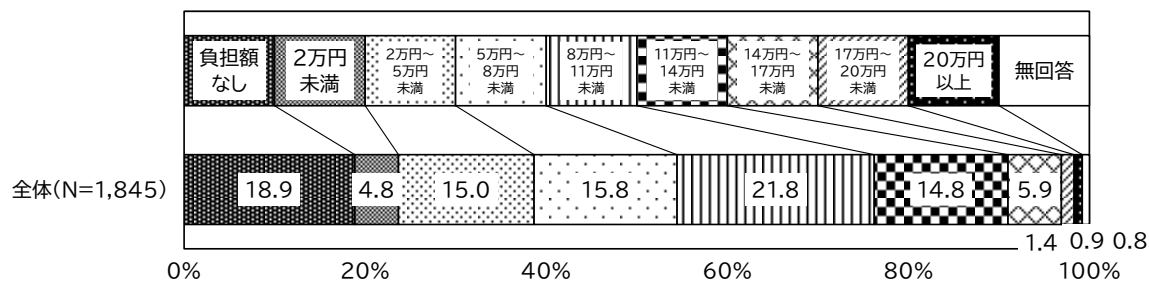
住居の選択にあたって優先すること(全体):複数回答



(7)毎月負担している住居費(問 6-1)

毎月負担している住居費は、「8万円～11万円未満(21.8%)」が最も高く、「負担額なし(18.9%)」、「5万円～8万円未満(15.8%)」が続いている。

毎月負担している住居費(全体)

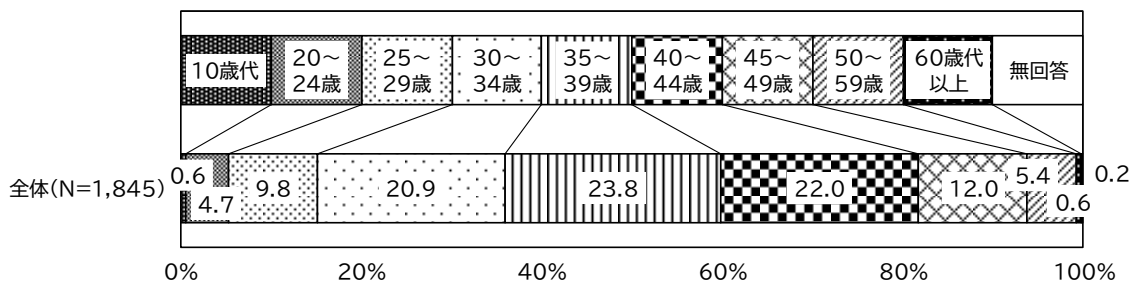


3 ふだんの生活について

(1)ひとり親になったときの年齢(問7)

ひとり親になったときの年齢は、「35～39歳(23.8%)」が最も高く、「40～44歳(22.0%)」、「30～34歳(20.9%)」が続いている。

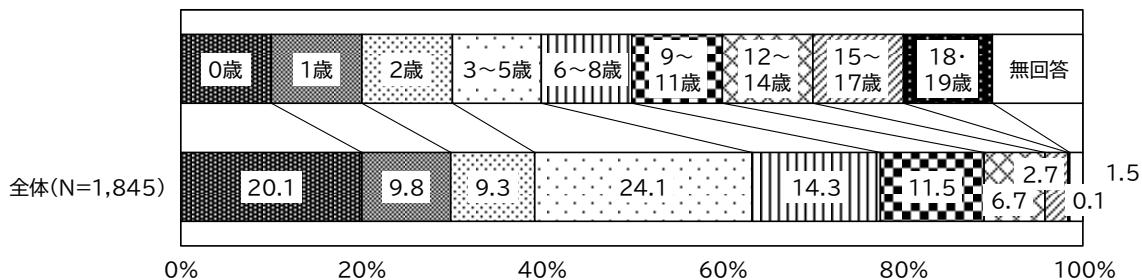
ひとり親になったときの年齢(全体)



(2)ひとり親になったときの末子の年齢(問8)

ひとり親になったときの末子の年齢は、「3～5歳(24.1%)」が最も高く、「0歳(20.1%)」、「6～8歳(14.3%)」が続いている。

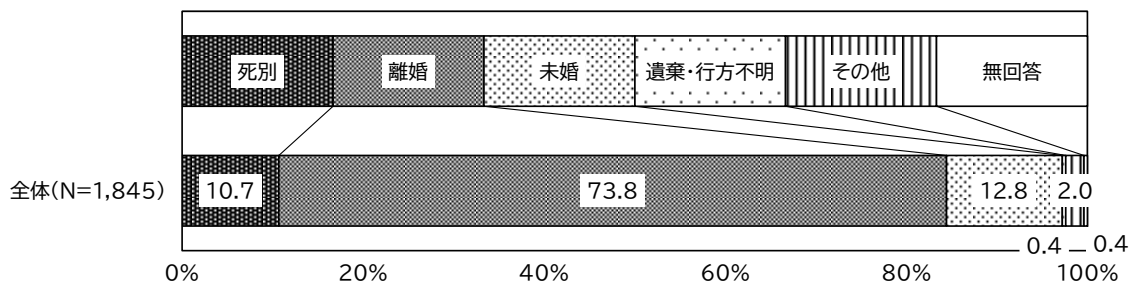
ひとり親になったときの末子の年齢(全体)



(3)ひとり親になった理由(問9)

ひとり親になった理由は、「離婚(73.8%)」が最も高く、「未婚(12.8%)」、「死別(10.7%)」が続いている。

ひとり親になった理由(全体)



回答者別(問1)にみると、父親では「死別(23.9%)」の割合が母親に比べて高い。母親では「離婚(74.6%)」、「未婚(13.5%)」の割合が父親に比べて高い。

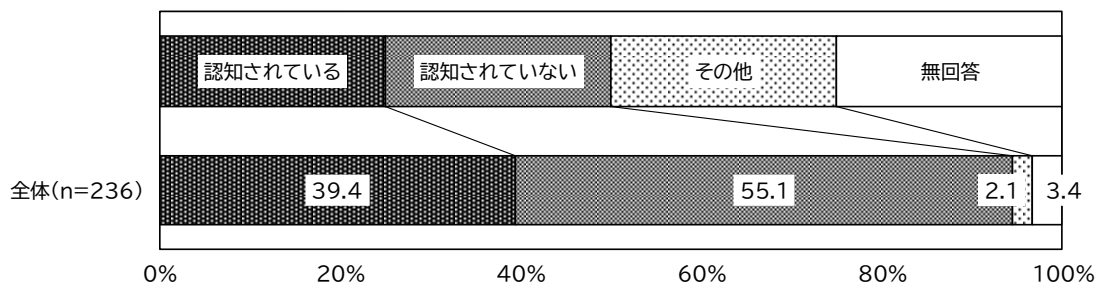
ひとり親になった理由(全体、回答者別)

		(%)					
		死別	離婚	未婚	不遺棄・行方不明	その他	無回答
全	体 (N=1,845)	10.7	73.8	12.8	0.4	2.0	0.4
回答者別	父親 (n= 88)	23.9	64.8	1.1	1.1	8.0	1.1
	母親 (n=1,745)	9.9	74.6	13.5	0.3	1.4	0.3
	養育者(祖父母等) (n= 9)	33.3	11.1	0.0	11.1	44.4	0.0

(4)子どもの認知状況について(問 9-1)

問 9 で「3. 未婚」と回答した人に、子どもの認知状況についてたずねたところ、「認知されている」が 39.4%、「認知されていない」が 55.1%、「その他」が 2.1%となっている。

子どもの認知状況について(全体)
<問 9 で「3. 未婚」と回答した人>



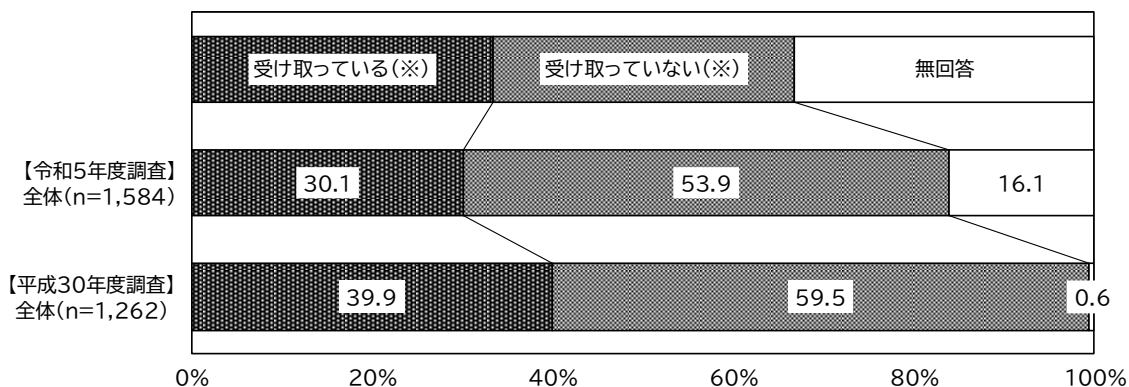
(5)養育費を受け取っているか(問 10)

問 9 で「2. 離婚」又は問9で「3. 未婚」かつ問 9-1 で認知について回答した人に、養育費を受け取っているかについてたずねたところ、「受け取っている」が 30.1%、「受け取っていない」が 53.9%となっている。

平成 30 年度調査と比較すると、令和5年度では「受け取っている」の割合が低くなっている。

養育費を受け取っているか(全体)【経年比較】

<問 9 で「2. 離婚」又は問9で「3. 未婚」かつ問 9-1 で認知について回答した人>



※平成 30 年度は、選択肢が「はい」、「いいえ」となっている。

面会等の状況別(問 11)にみると、【子どもだけ、相手方と会っている】人と【子どもと自分が一緒に、相手方と会っている】人は、子どもまたは子どもも自分も相手方と会っていない人に比べ、養育費を「受け取っている」の割合が高い。

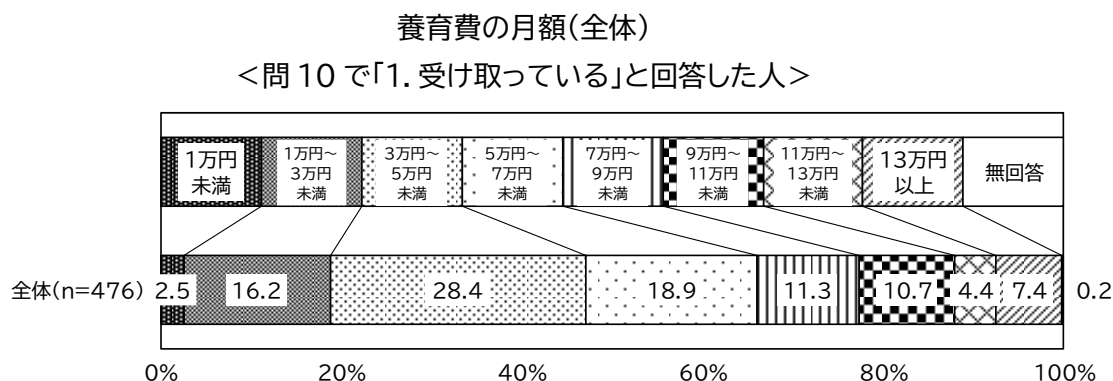
養育費を受け取っているか(全体、面会等の状況別)

<問 9 で「2. 離婚」又は問9で「3. 未婚」かつ問 9-1 で認知について回答した人>

		(%)		
		い受 るけ 取っ て	い受 ない 取っ て	無 回 答
全	体 (n=1,584)	30.1	53.9	16.1
お 子 さ ん と お 子 さ ん の 親 の 状 況 別 の 面 会 等 の 状 況 別	子どもだけ、相手方と会っている (n=420)	46.9	33.8	19.3
	子どもと自分が一緒に、相手方と会っている (n=262)	38.2	41.6	20.2
	子どもは、相手方と会ってはいないが、電話やメール、SNS等で連絡をしている (n= 45)	20.0	60.0	20.0
	子どもも自分も、相手方と会ってはいないが、電話やメール、SNS等で連絡はしている (n=124)	29.0	54.0	16.9
	子どもも自分も、相手方と会っていないし、電話やメール、SNS等で連絡もしていない (n=615)	15.4	73.3	11.2
そ	の 他 (n=101)	35.6	52.5	11.9

(6) 養育費の月額(問 10-1)

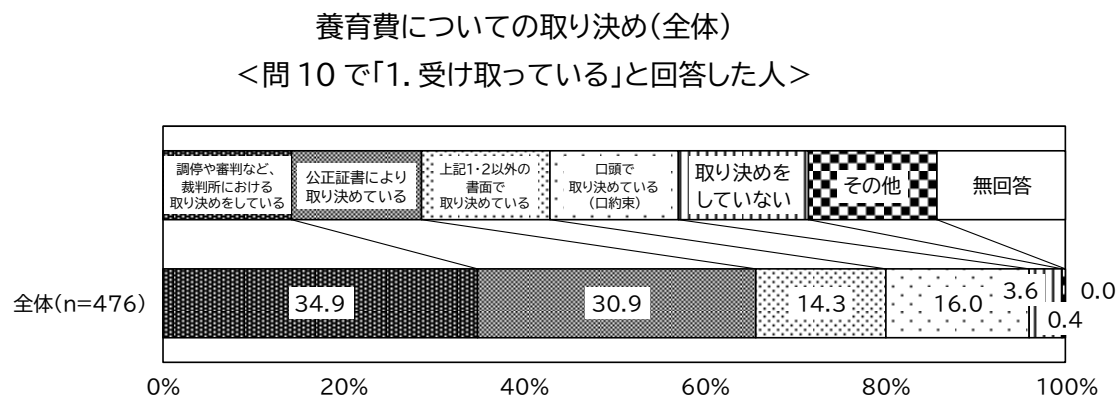
問 10 で「1. 受け取っている」と回答した人に、養育費の月額についてたずねたところ、「3万円～5万円未満(28.4%)」が最も高く、「5万円～7万円未満(18.9%)」、「1万円～3万円未満(16.2%)」が続いている。



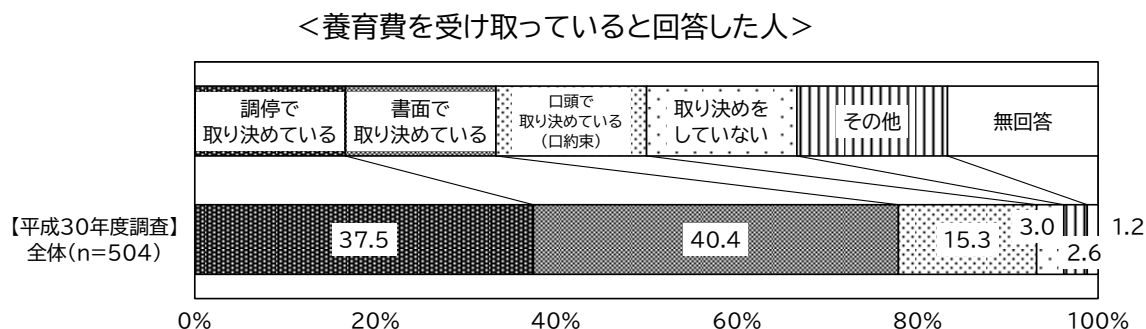
(7) 養育費についての取り決め(問 10-2)

問 10 で「1. 受け取っている」と回答した人に、養育費についての取り決めについてたずねたところ、「調停や審判など、裁判所における取り決めをしている(34.9%)」が最も高く、「公正証書により取り決めてしている(30.9%)」、「口頭で取り決めてしている(口約束)(16.0%)」が続いている。

平成 30 年度調査では、「書面で取り決めてしている(40.4%)」が最も多く、「調停で取り決めてしている(37.5%)」が続いている。



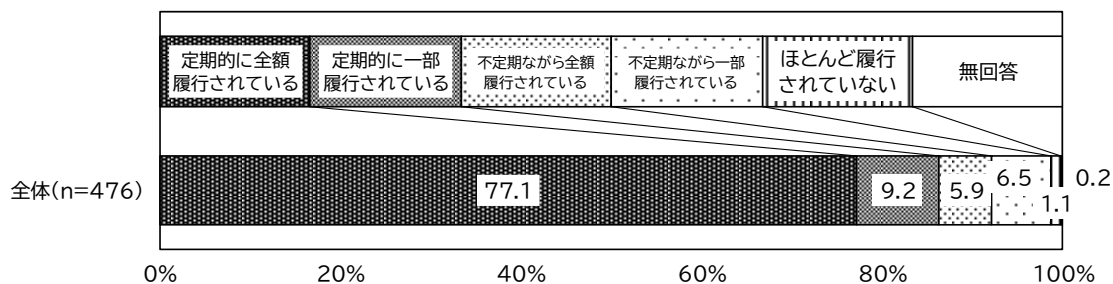
養育費についての取り決め(全体)【参考:平成 30 年度調査】



(8)養育費の支払いの履行状況(問 10-3)

問 10 で「1. 受け取っている」と回答した人に、養育費の支払いの履行状況についてたずねたところ、「定期的に全額履行されている(77.1%)」が最も高く、「定期的に一部履行されている(9.2%)」、「不定期ながら一部履行されている(6.5%)」が続いている。

養育費の支払いの履行状況(全体)
 <問 10 で「1. 受け取っている」と回答した人>



養育費の取り決め方法別(問 10-2)にみると、養育費について何らかの取り決めをしている人は、「定期的に全額履行されている」が7割を超えている。

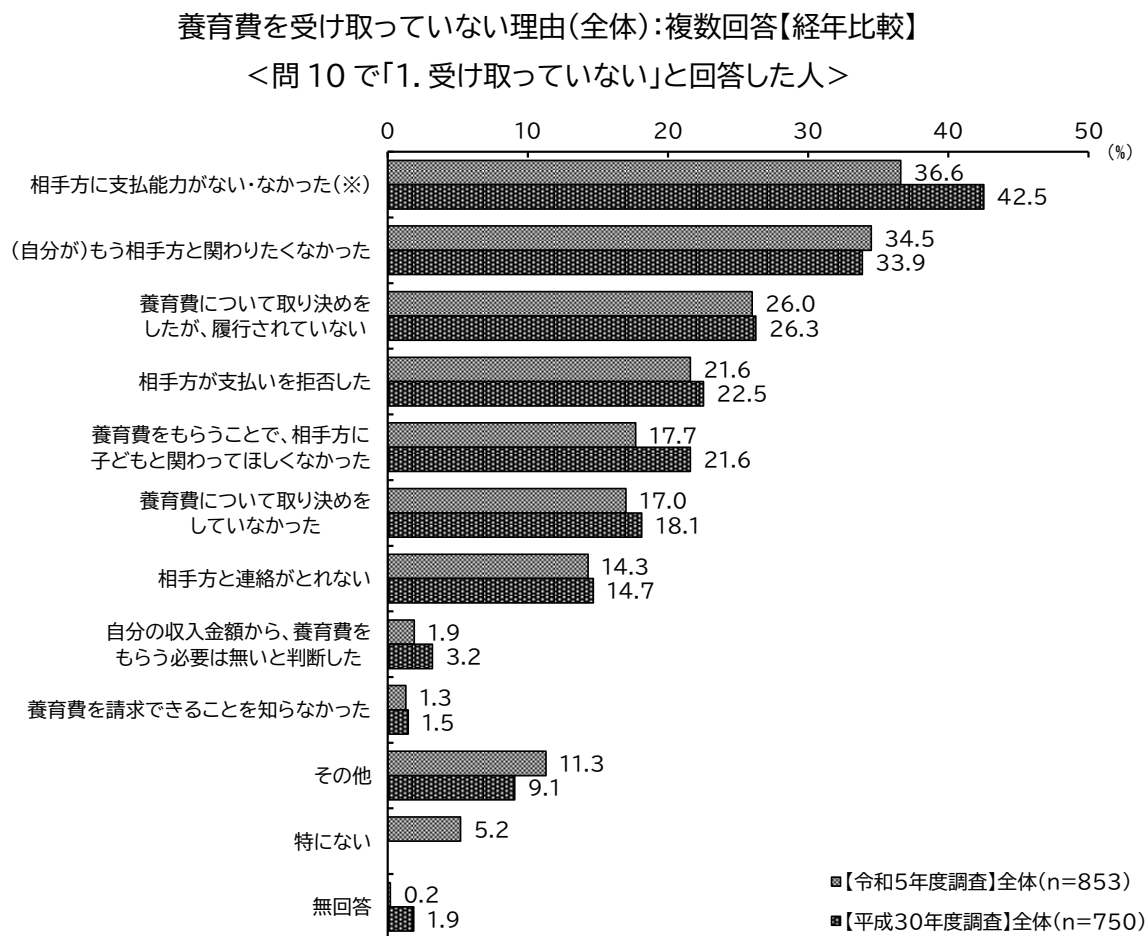
養育費の支払いの履行状況(全体、養育費の取り決め方法別)
 <問 10 で「1. 受け取っている」と回答した人>

		定期的に全額履行	定期的に一部履行	不定期ながら全額	不定期ながら一部	ほとんど履行されない	無回答	
		(%)						
全	体 (n=476)	77.1	9.2	5.9	6.5	1.1	0.2	
養育費 取り決め 方法別	調停や審判など、裁判所における 取り決めをしている (n=166)	78.9	7.8	8.4	3.0	1.8	0.0	
	公正証書により取り決めている (n=147)	76.9	10.2	3.4	9.5	0.0	0.0	
	上記1・2以外の書面で 取り決めている (n= 68)	83.8	5.9	2.9	5.9	1.5	0.0	
	口頭で取り決めている(口約束) (n= 76)	71.1	14.5	5.3	6.6	1.3	1.3	
	取り決めをしていない (n= 17)	64.7	5.9	17.6	11.8	0.0	0.0	
	そ の 他 (n= 2)	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	

(9) 養育費を受け取っていない理由(問 10-4)

問 10 で「1. 受け取っていない」と回答した人に、養育費を受け取っていない理由についてたずねたところ、「相手方に支払能力がない・なかった(36.6%)」が最も高く、「(自分が)もう相手方と関わりたくなかった(34.5%)」、「養育費について取り決めをしたが、履行されていない(26.0%)」が続いている。

平成 30 年度調査も令和5年度と上位は同様である。



※平成 30 年度は、選択肢が「相手方に支払い能力がなかった」となっている。また、「特にない」は非聴取。

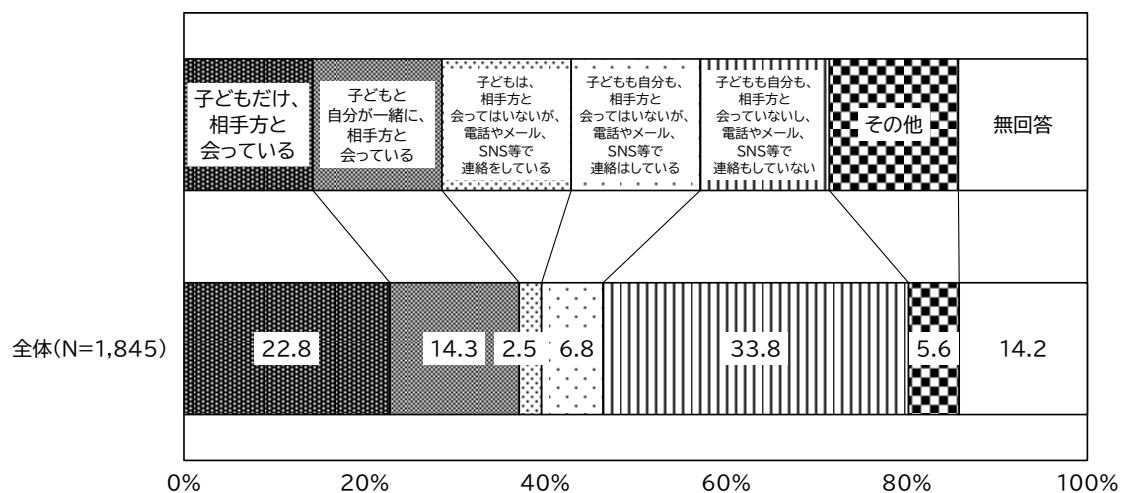
(10)面会等の状況(問 11)

面会等の状況は、「子どもも自分も、相手方と会っていないし、電話やメール、SNS等で連絡もしていない(33.8%)」が最も高く、「子どもだけ、相手方と会っている(22.8%)」、「子どもと自分が一緒に、相手方と会っている(14.3%)」が続いている。

平成 30 年度調査では選択肢が異なっているが、「子どもも自分も、相手方と会っていないし、電話やメールもしていない(38.2%)」が最も多くなっている。

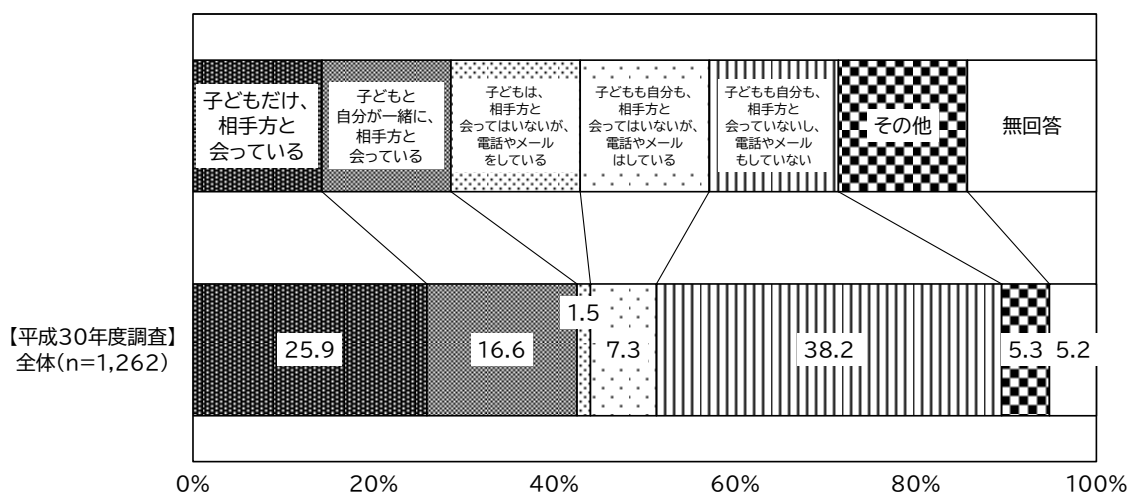
面会等の状況(全体)

<問 9 で「2. 離婚」又は問9で「3. 未婚」と回答した人>



面会等の状況(全体)【参考:平成 30 年度調査】

<離婚、未婚によりひとり親になった人>



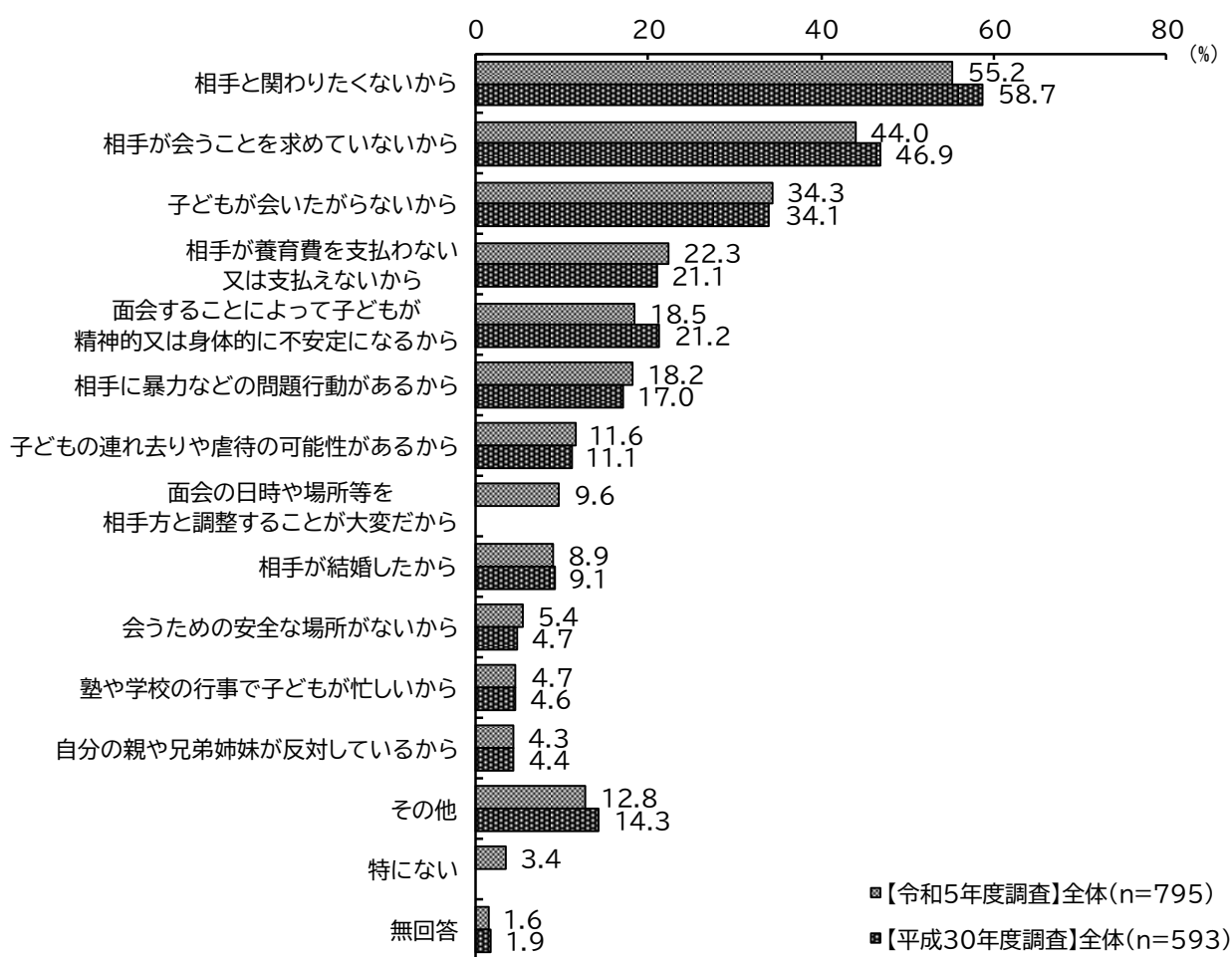
(11)子どもが相手方と会っていない理由(問 11-1)

問 11 で子どもが相手方と会っていないと回答した人に、子どもが相手方と会っていない理由についてたずねたところ、「相手と関わりたくないから(55.2%)」が最も高く、「相手が会うことを求めていないから(44.0%)」、「子どもが会いたがらないから(34.3%)」が続いている。

平成 30 年度調査も令和5年度と上位は同様である。

子どもが相手方と会っていない理由(全体):複数回答【経年比較】

<問 11 で子どもが相手方と会っていないと回答した人>



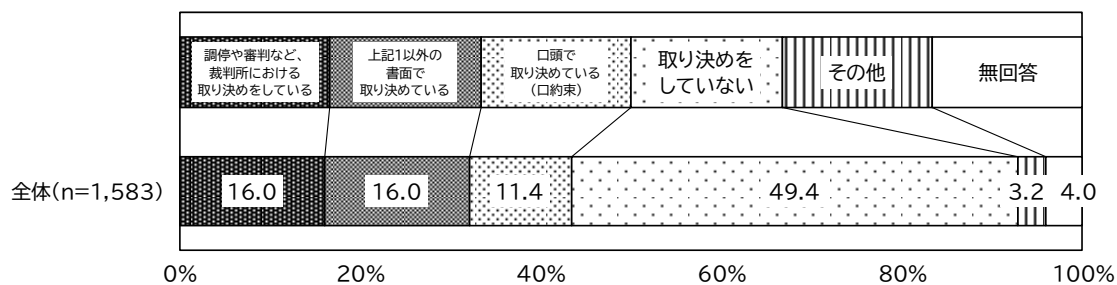
※平成 30 年度は、質問が『お子さんの親(相手方)と会っていない理由として、あてはまる答えの番号すべてに○をつけてください。』となっている。また、選択肢の「面会の日時や場所等を相手方と調整するのが大変だから」、「特にない」は非聴取。

(12)面会交流についての取り決め(問 11-2)

問11で「6. その他」以外を回答した人に、面会交流についての取り決めについてたずねたところ、「取り決めをしていない(49.4%)」が最も高く、「調停や審判など、裁判所における取り決めをしている」、「上記1以外の書面で取り決めている」が各 16.0%、「口頭で取り決めている(口約束)」が 11.4%と続いている。何らかの取り決めをしている割合は 43.4%となっている。

面会交流についての取り決め(全体)

<問 11 で「6. その他」以外を回答した人>



面会等の状況別(問 11)にみると、【子どもだけ、相手方と会っている】人は、何らかの取り決めをしている割合(63.7%)が高く、「取り決めをしていない(33.7%)」の割合が低くなっている。また、【子どもも自分も、相手方と会っていないし、電話やメール、SNS等で連絡もしていない】人は、何らかの取り決めをしている割合(27.6%)が低く、「取り決めをしていない(61.9%)」の割合が高くなっている。

面会交流についての取り決め(全体、面会等の状況別)

<問 11 で「6. その他」以外を回答した人>

		お調 停や 取 審 判 決 な め ど を し 裁 て 判 い 所 に	め 上 て 記 い る 1 以 外 の 書 面 で 取 り 決	約 口 束 頭 で 取 り 決 め て い る (口	取 り 決 め を し て い な い	そ の 他	無 回 答
全 体 (n=1,583)		16.0	16.0	11.4	49.4	3.2	4.0
お 子 さ ん と お 子 さ ん の 親 と の 面 会 等 の 状 況 別	子どもだけ、相手方と会っている (n=421)	21.9	24.0	17.8	33.7	1.4	1.2
	子どもと自分が一緒に、相手方と会っている (n=263)	10.6	19.0	19.0	49.4	1.9	0.0
	子どもは、相手方と会ってはいないが、電話やメール、SNS等で連絡をしている (n= 46)	19.6	13.0	13.0	45.7	0.0	8.7
	子どもも自分も、相手方と会ってはいないが、電話やメール、SNS等で連絡はしている (n=125)	11.2	18.4	12.8	51.2	1.6	4.8
	子どもも自分も、相手方と会っていないし、電話やメール、SNS等で連絡もしていない (n=624)	14.4	9.0	4.2	61.9	3.4	7.2
	そ の 他 (n=104)	20.2	16.3	6.7	37.5	16.3	2.9

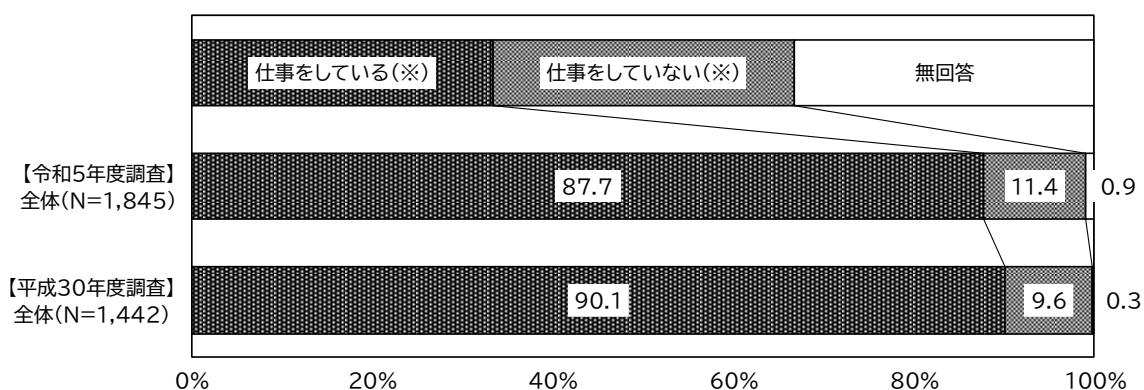
4 仕事について

(1)現在、仕事をしているか(問 12)

現在、仕事をしているかは、「仕事をしている」が 87.7%、「仕事をしていない」が 11.4%となっている。

平成 30 年度調査では、「仕事をしている」が 90.1%となっている。

現在、仕事をしているか(全体)【経年比較】



※平成 30 年度は、選択肢が「はい」、「いいえ」となっている。

回答者別(問1)にみると、父親は母親と比べて、「仕事をしている」の割合が低い。

現在、仕事をしているか(全体、回答者別)

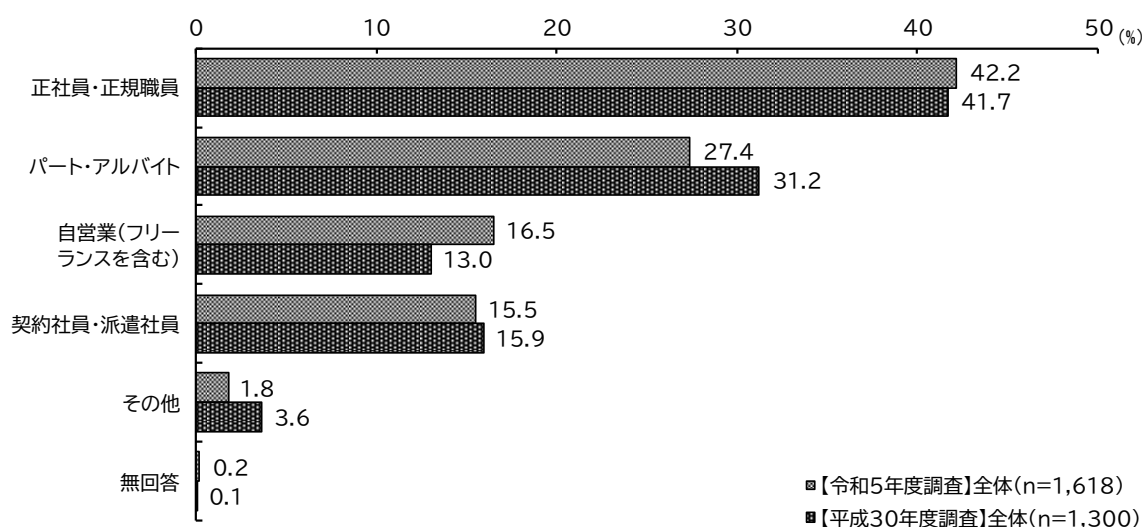
		(%)		
		い仕 る事 をし て	い仕 ない 事 をし て	無 回 答
全	体 (N=1, 845)	87.7	11.4	0.9
回 答 者 別	父 親 (n= 88)	79.5	15.9	4.5
	母 親 (n=1, 745)	88.4	11.1	0.6
	養 育 者 (祖 父 母 等) (n= 9)	44.4	44.4	11.1

(2)雇用形態(問 12-1)

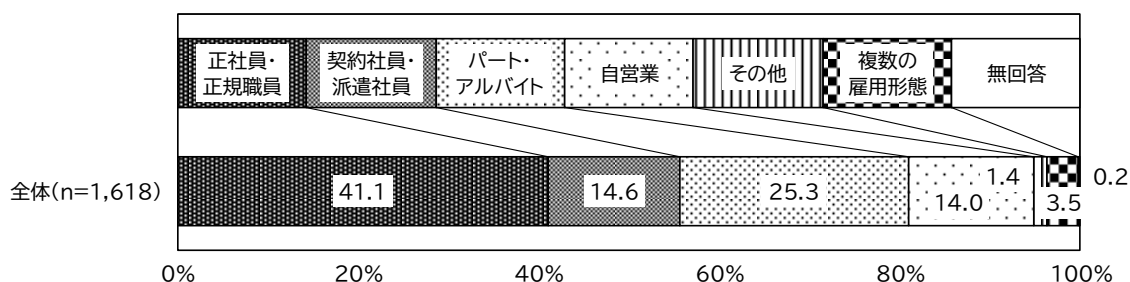
問 12 で「1. 仕事をしている」と回答した人に、雇用形態(複数回答)についてたずねたところ、「正社員・正規職員(42.2%)」が最も高く、「パート・アルバイト(27.4%)」、「自営業(フリーランスを含む)(16.5%)」が続いている。平成 30 年度調査も同様の傾向である。

雇用形態についてひとつの雇用形態のみを選んだ回答別にまとめると(複数選んだ場合は「複数の雇用形態」として整理)、「正社員・正規職員(41.1%)」が最も高く、「パート・アルバイト(25.3%)」、「契約社員・派遣社員(14.6%)」が続いている。

雇用形態(全体):複数回答【経年比較】
 <問 12 で「1. 仕事をしている」と回答した人>



雇用形態(全体)
 <問 12 で「1. 仕事をしている」と回答した人>



第2章 調査結果

回答者別(問1)にみると、父親は母親と比べて、「自営業」の割合が高い。母親は父親と比べて、「パート・アルバイト」の割合が高い。

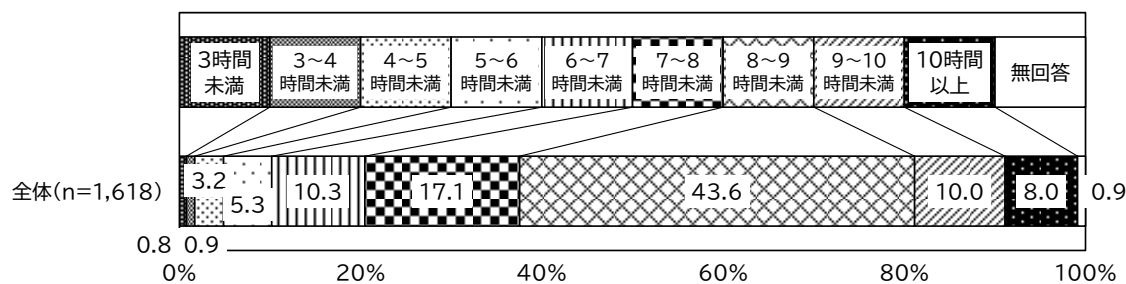
雇用形態(全体、回答者別)
 <問12で「1. 仕事をしている」と回答した人>

		正規社員・正	派遣社員・	契約社員・ア	ルパート・ア	自営業	その他	形態数の雇用	無回答
全	体 (n=1,618)	41.1	14.6	25.3	14.0	1.4	3.5	0.2	
別回答者	父 親 (n= 70)	42.9	15.7	7.1	28.6	1.4	4.3	0.0	
	母 親 (n=1,542)	41.2	14.5	26.1	13.2	1.4	3.4	0.2	
	養育者(祖父母等) (n= 4)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	

(3)就業時間(1日の時間、1週間あたり日数、帰宅時間)(問12-2)

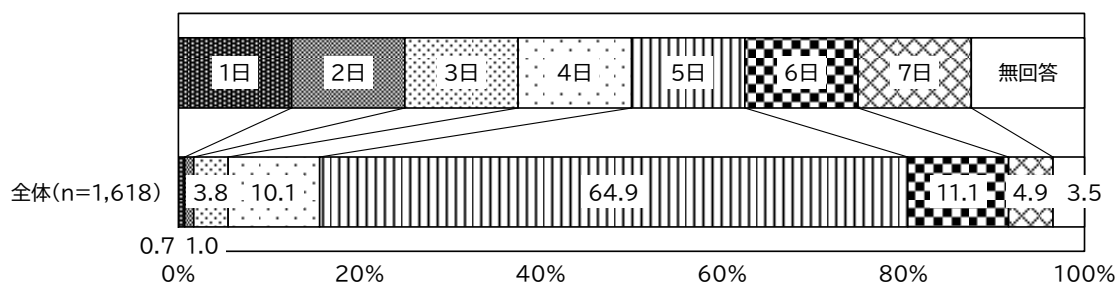
問12で「1. 仕事をしている」と回答した人に、1日の就労時間についてたずねたところ、「8～9時間未満(43.6%)」が最も高く、「7～8時間未満(17.1%)」、「6～7時間未満(10.3%)」が続いている。

1日の就労時間(全体)
 <問12で「1. 仕事をしている」と回答した人>



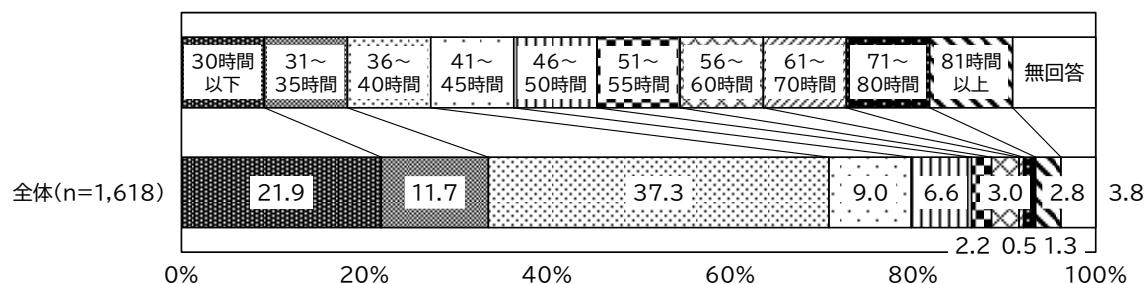
問12で「1. 仕事をしている」と回答した人に、1週間あたりの就労日数についてたずねたところ、「5日(64.9%)」が最も高く、「6日(11.1%)」、「4日(10.1%)」が続いている。

1週間あたりの就労日数(全体)
 <問12で「1. 仕事をしている」と回答した人>



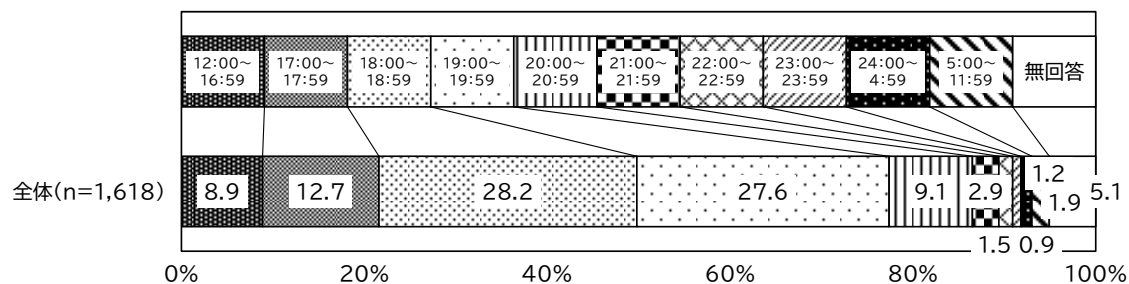
問12で「1. 仕事をしている」と回答した人に、1日の就労時間と1週間あたりの就労日数をたずね、1週間あたりの就業時間(時間×日数)として整理したところ、「36～40時間(37.3%)」が最も高く、「30時間以下(21.9%)」、「31～35時間(11.7%)」が続いている。

1週間あたりの就業時間(時間×日数)(全体)
 <問12で「1. 仕事をしている」と回答した人>



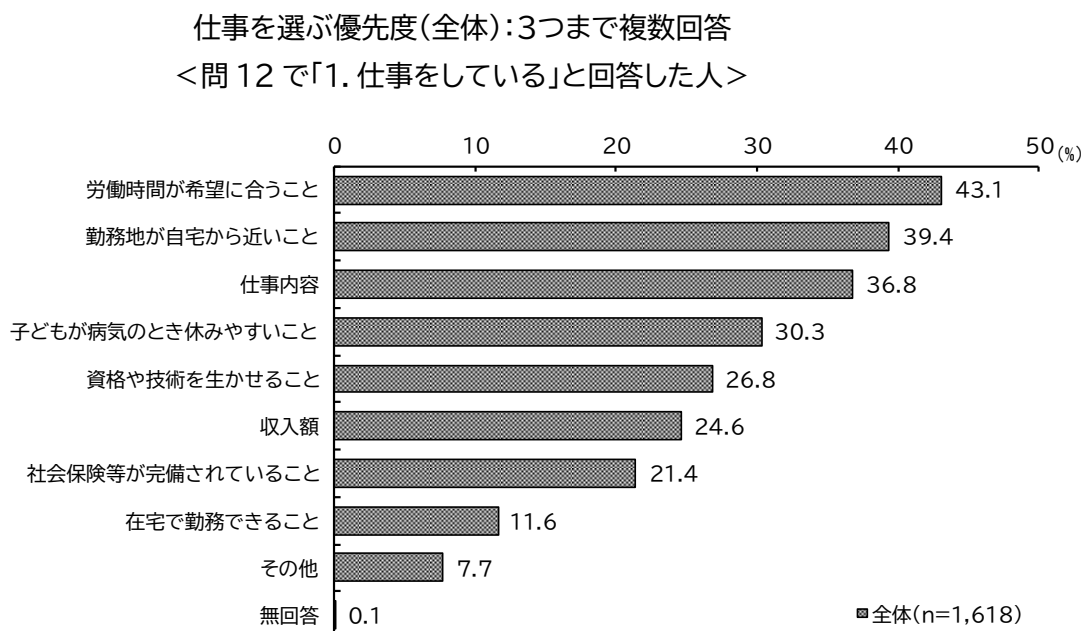
問12で「1. 仕事をしている」と回答した人に、平均的な帰宅時間についてたずねたところ、「18:00～18:59(28.2%)」が最も高く、「19:00～19:59(27.6%)」、「17:00～17:59(12.7%)」が続いている。

平均的な帰宅時間(全体)
 <問12で「1. 仕事をしている」と回答した人>



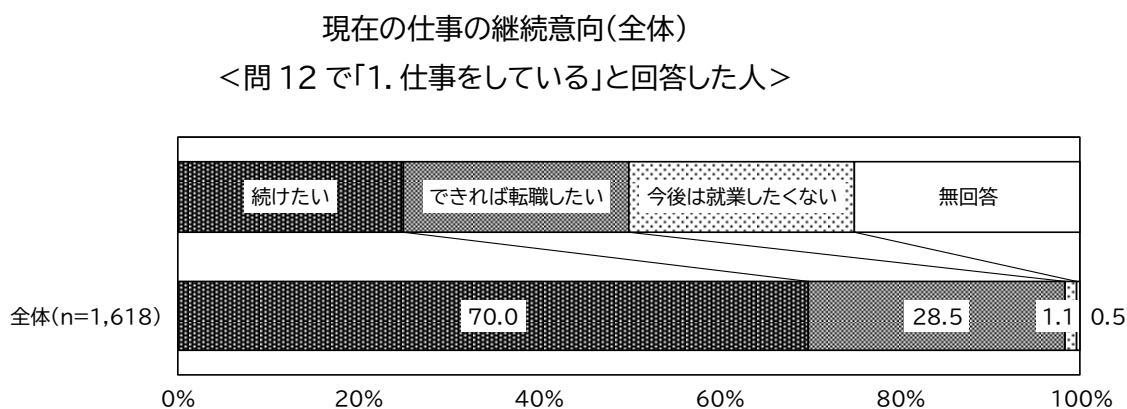
(4) 仕事を選ぶ優先度(問 12-3)

問 12 で「1. 仕事をしている」と回答した人に、仕事を選ぶ優先度についてたずねたところ、「労働時間が希望に合うこと(43.1%)」が最も高く、「勤務地が自宅から近いこと(39.4%)」、「仕事内容(36.8%)」が続いている。



(5) 現在の仕事の継続意向(問 12-4)

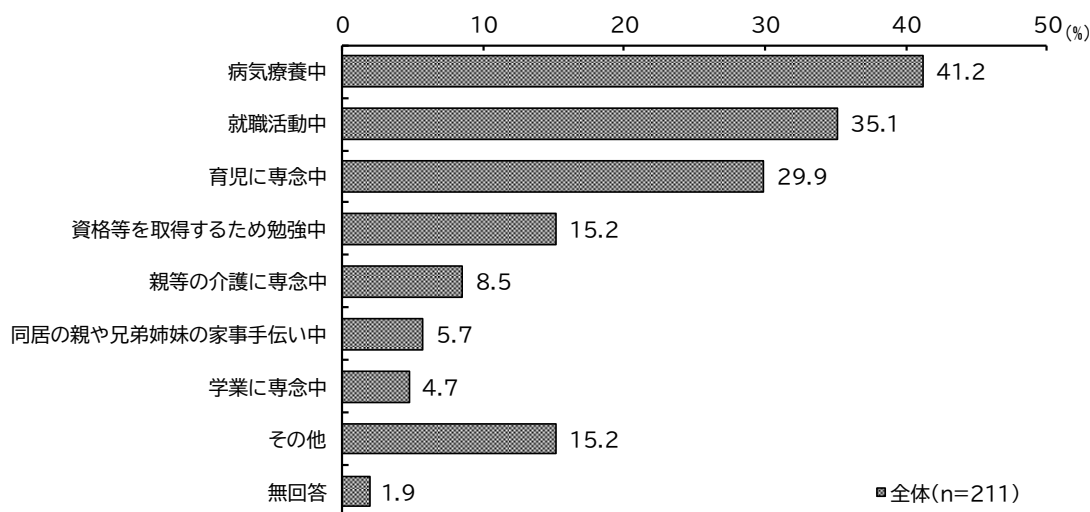
問 12 で「1. 仕事をしている」と回答した人に、現在の仕事の継続意向についてたずねたところ、「続けたい」が 70.0%、「できれば転職したい」が 28.5%、「今後は就業したくない」が 1.1%となっている。



(6) 仕事をしていない人の現在の状況(問 12-5)

問 12 で「2. 仕事をしていない」と回答した人に、現在の状況についてたずねたところ、「病気療養中(41.2%)」が最も高く、「就職活動中(35.1%)」、「育児に専念中(29.9%)」が続いている。

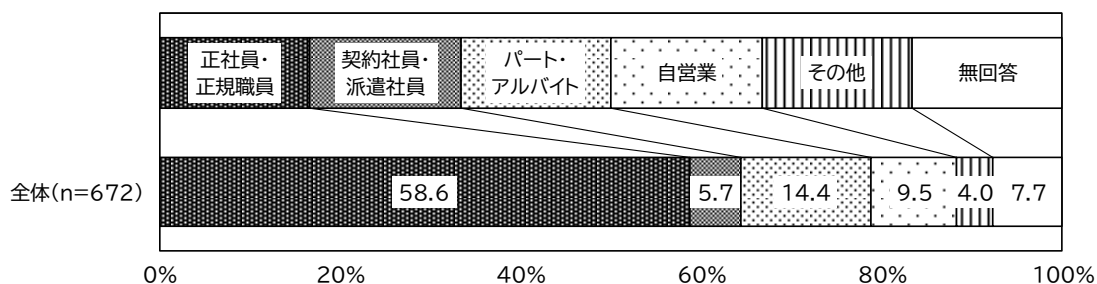
仕事をしていない人の現在の状況(全体):複数回答
 <問 12 で「2. 仕事をしていない」と回答した人>



(7) 今後、希望する雇用形態(問 12-6)

問 12 で「2. 仕事をしていない」又は問 12-4 で「2. できれば転職したい」と回答した人に、今後、希望する雇用形態についてたずねたところ、「正社員・正規職員(58.6%)」が最も高く、「パート・アルバイト(14.4%)」、「自営業(9.5%)」が続いている。

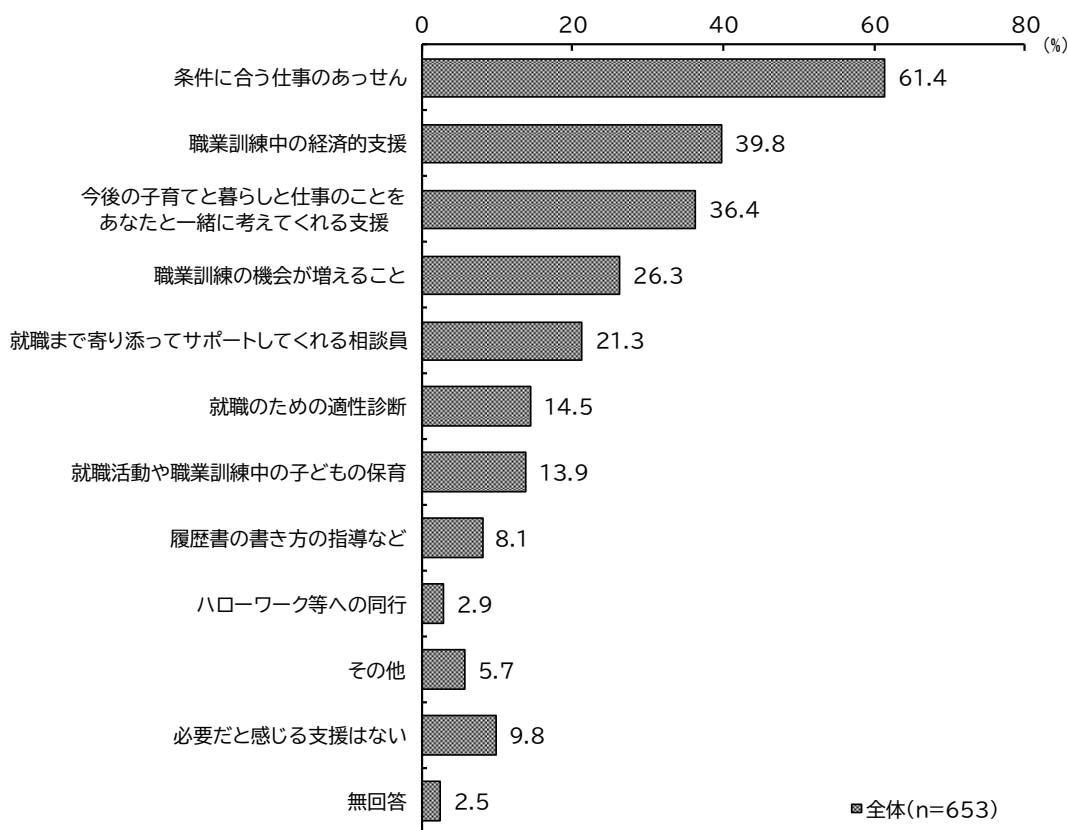
今後、希望する雇用形態(全体)
 <問 12 で「2. 仕事をしていない」又は問 12-4 で「2. できれば転職したい」と回答した人>



(8)新しく仕事を始めるときに必要な支援(問 13)

問 12-4 で「2. できれば転職したい」又は問 12-6(転職希望)で雇用形態の希望がある(1～5)と回答した人に、新しく仕事を始めるときに必要な支援についてたずねたところ、「条件に合う仕事があっせん(61.4%)」が最も高く、「職業訓練中の経済的支援(39.8%)」、「今後の子育てと暮らしと仕事のことをあなたと一緒に考えてくれる支援(36.4%)」が続いている。

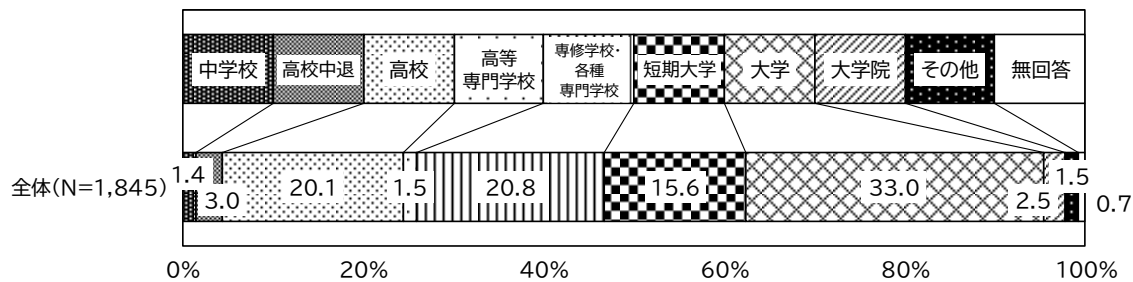
新しく仕事を始めるときに必要な支援(全体):複数回答
 <問 12-4 で「2. できれば転職したい」又は
 問 12-6(転職希望)で雇用形態の希望がある(1～5)と回答した人>



(9)最終学歴(問 14)

最終学歴は、「大学(33.0%)」が最も高く、「専修学校・各種専門学校(20.8%)」、「高校(20.1%)」が続いている。

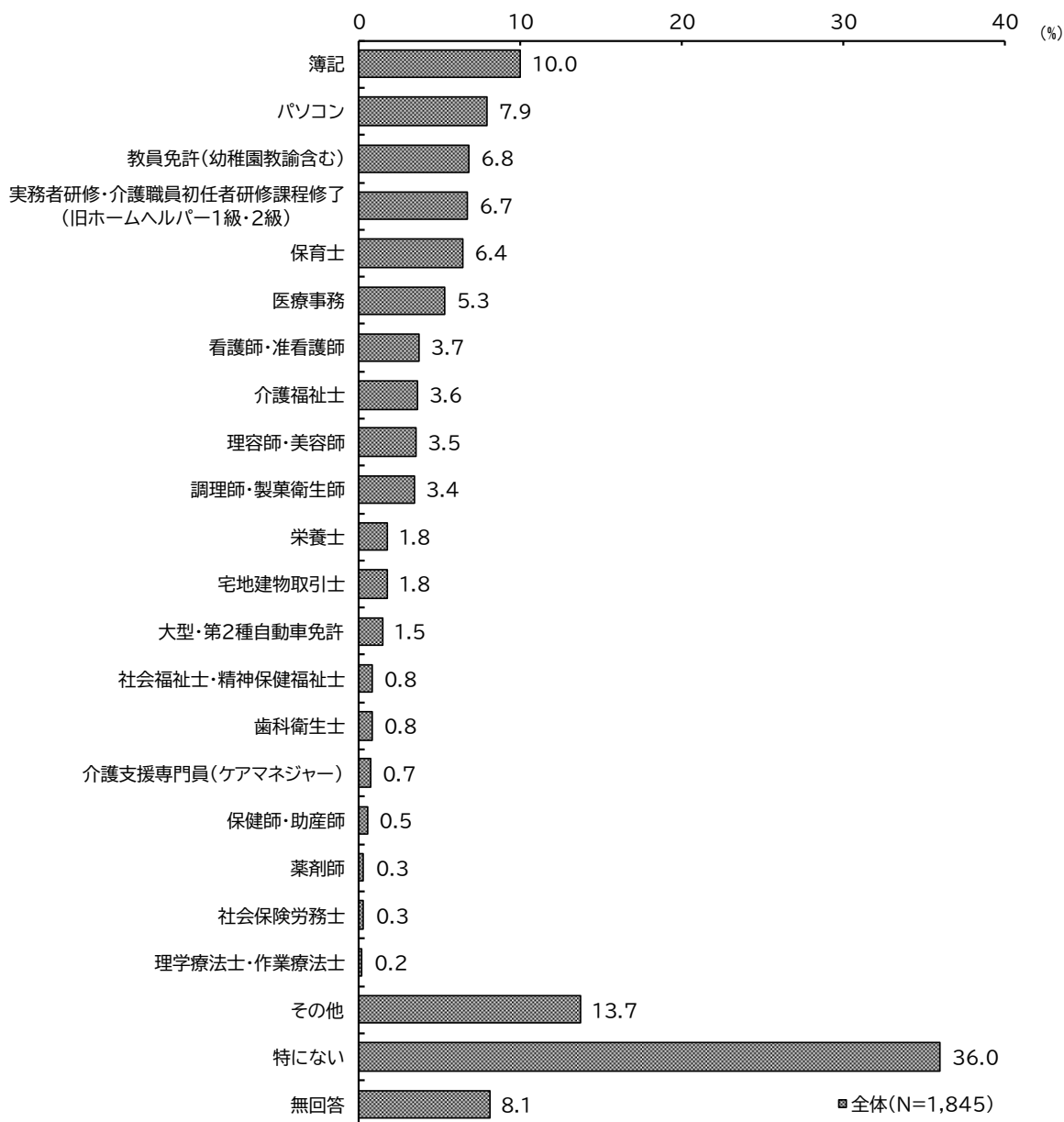
最終学歴(全体)



(10)資格(問 15)

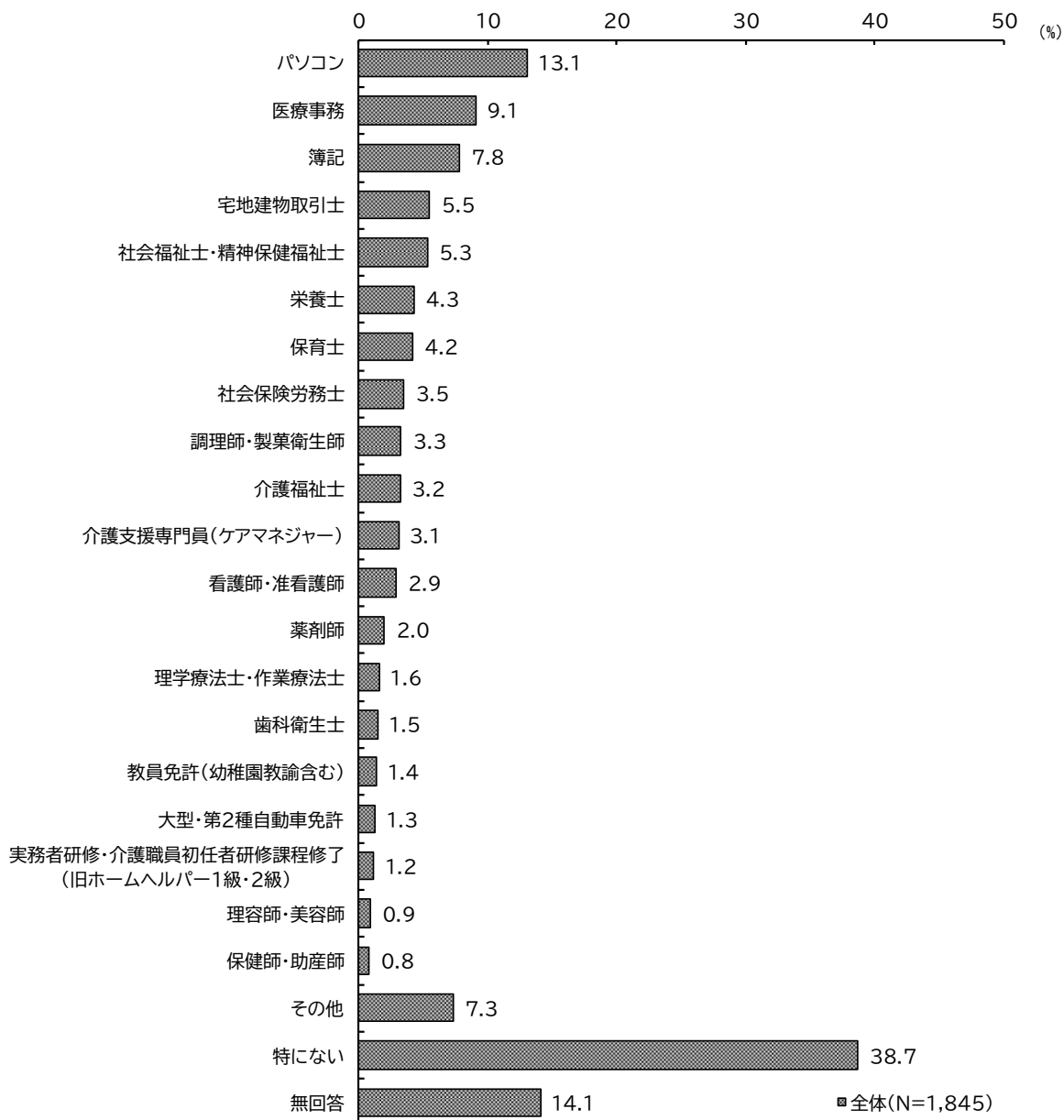
資格についてたずねたところ、『①持っている資格・技術』は、「簿記(10.0%)」が最も高く、「パソコン(7.9%)」、「教員免許(幼稚園教諭含む)(6.8%)」が続いている。

資格(①持っている資格・技術)(全体):各4つまで複数回答



資格について、『②これから取得したい資格・技術』は、「パソコン(13.1%)」が最も高く、「医療事務(9.1%)」、「簿記(7.8%)」が続いている。

資格(②これから取得したい資格・技術)(全体):各4つまで複数回答

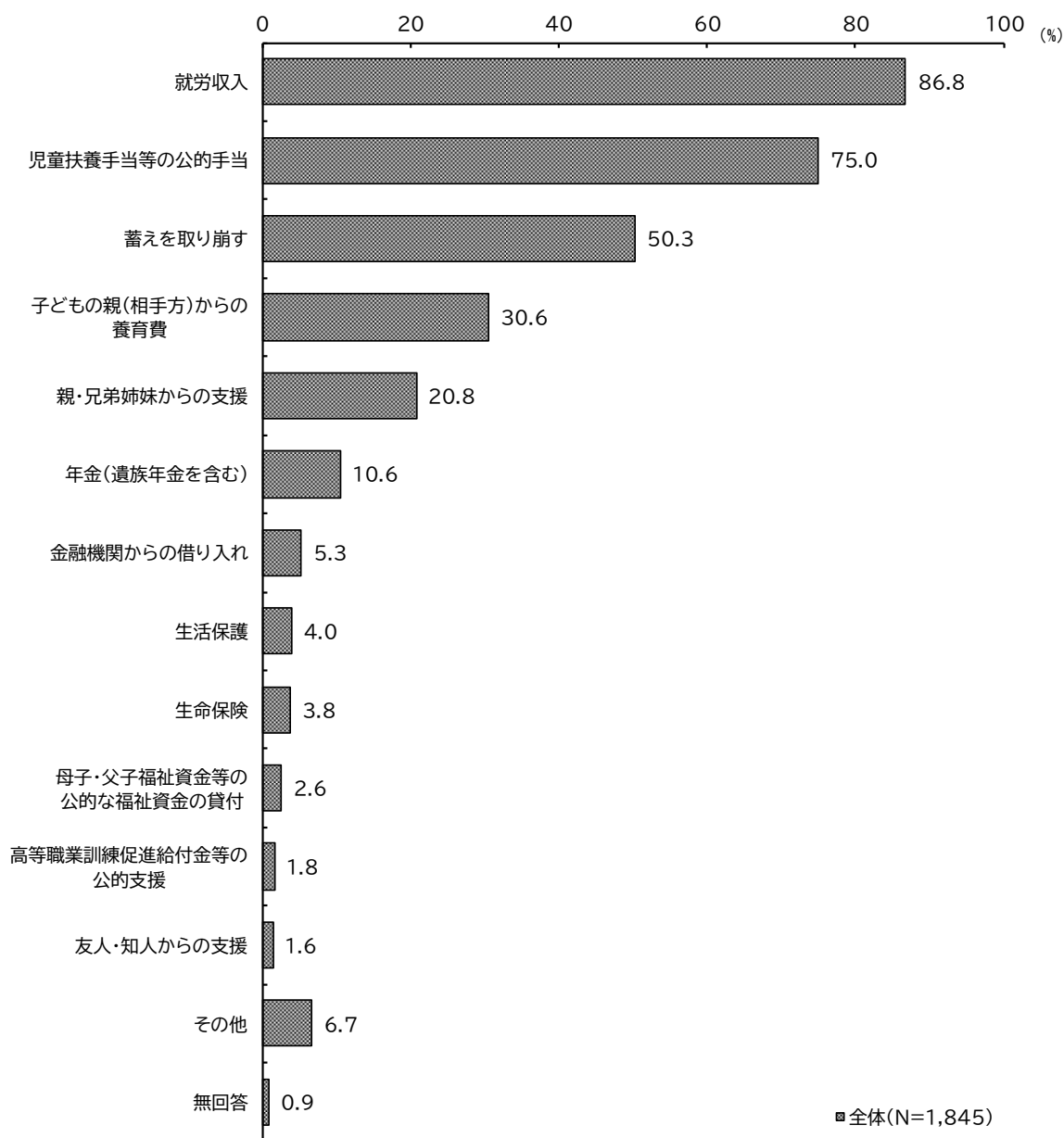


5 経済状況について

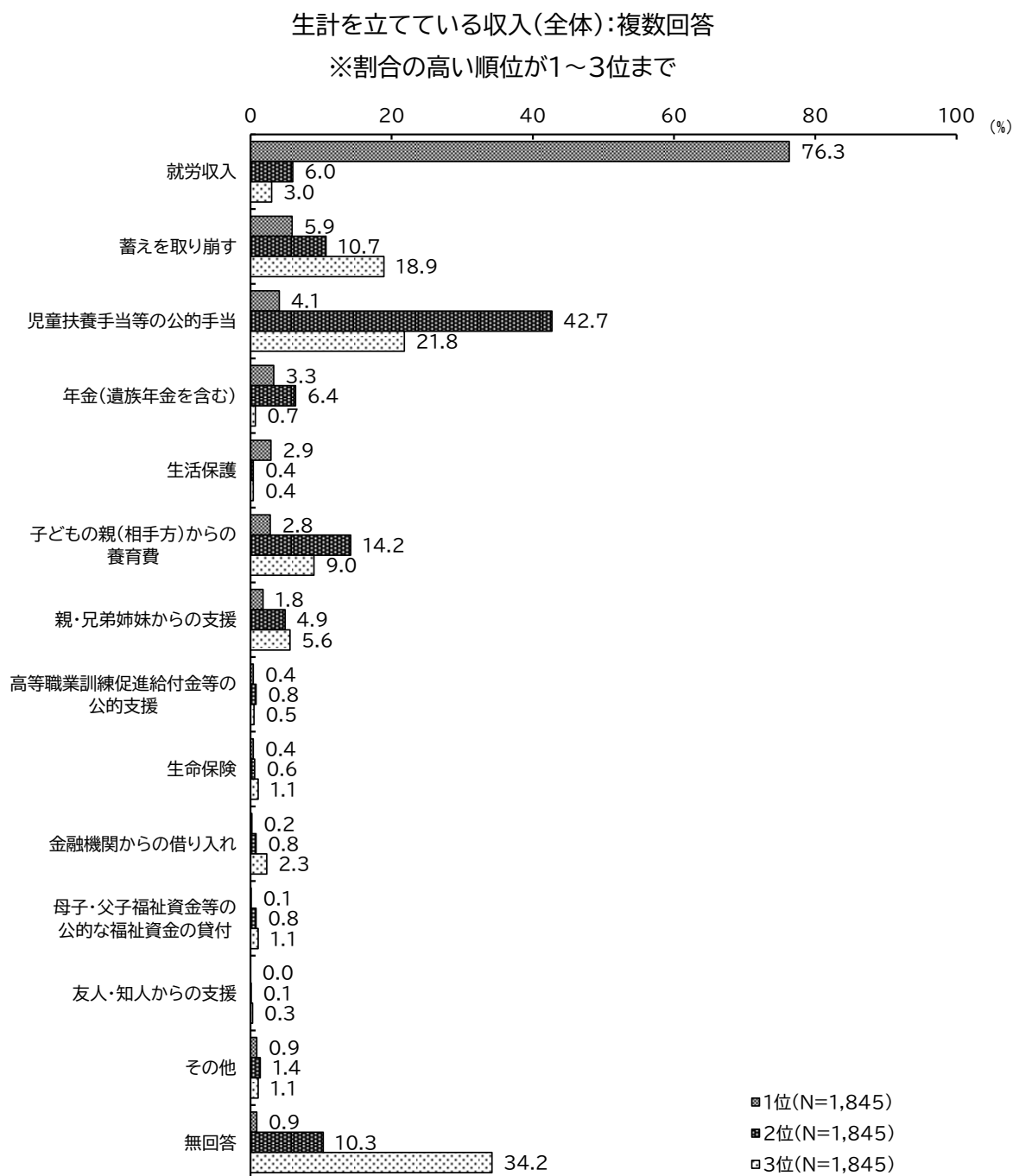
(1) 生計を立てている収入(問 16)

生計を立てている収入は、1～5位の合算は「就労収入(86.8%)」が最も高く、「児童扶養手当等の公的手当(75.0%)」、「蓄えを取り崩す(50.3%)」が続いている。

生計を立てている収入(全体):複数回答
※割合の高い順位の1～5位の合算



生計を立てている収入として割合の高い順位が1位では、「就労収入(76.3%)」が最も高く、「蓄えを取り崩す(5.9%)」、「児童扶養手当等の公的手当(4.1%)」が続いている。割合の高い順位が2位では、「児童扶養手当等の公的手当(42.7%)」が最も高く、「子どもの親(相手方)からの養育費(14.2%)」、「蓄えを取り崩す(10.7%)」が続いている。割合の高い順位が3位では、「児童扶養手当等の公的手当(21.8%)」が最も高く、「蓄えを取り崩す(18.9%)」、「子どもの親(相手方)からの養育費(9.0%)」が続いている。

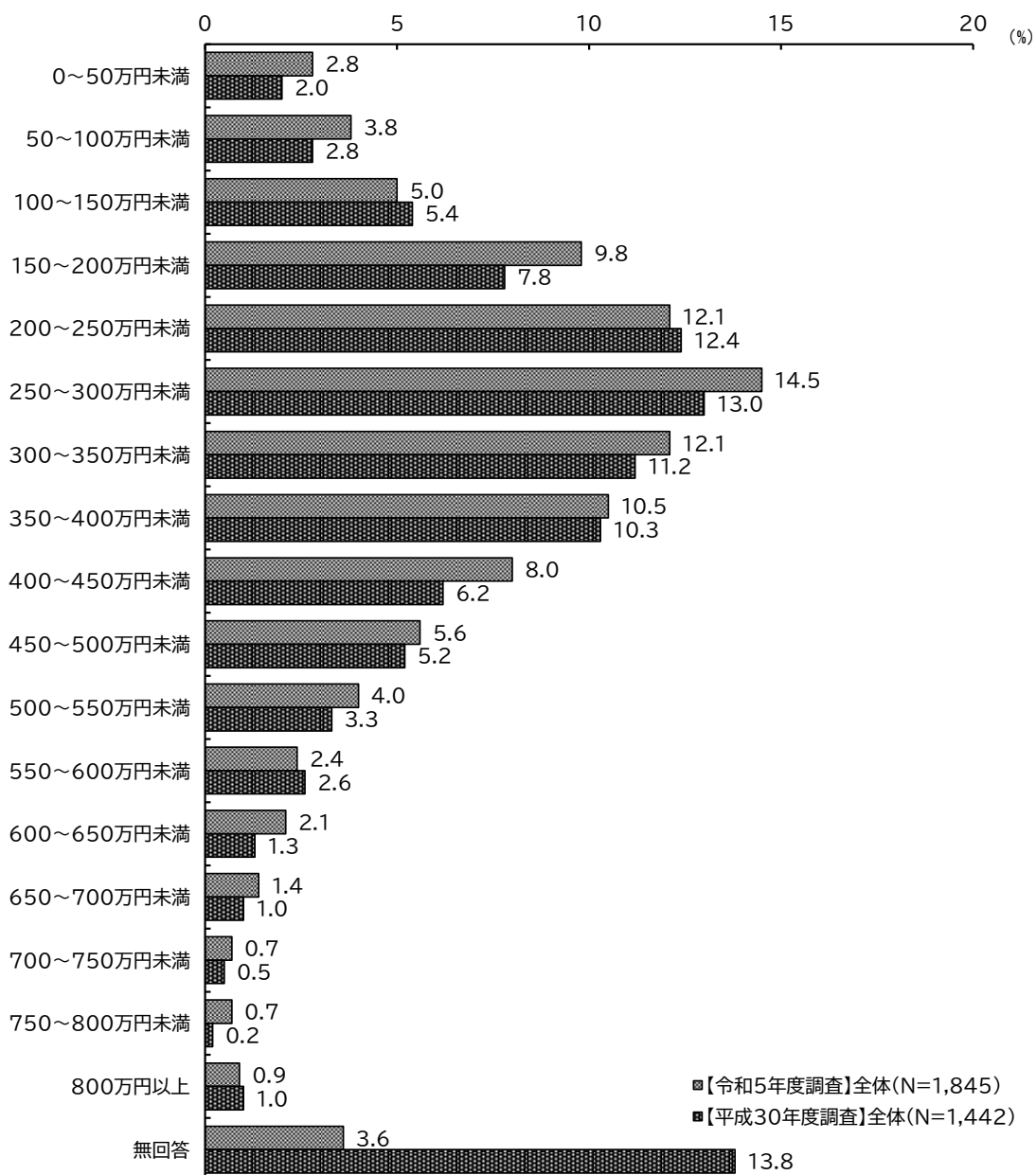


(2)年間の世帯の総収入(問 17)

年間の世帯の総収入についてたずねたところ、『①年間の世帯の総収入』は、「250～300万円未満(14.5%)」が最も高く、「200～250万円未満」「300～350万円未満」が各 12.1%、「350～400万円未満(10.5%)」が続いている。

平成 30 年度調査も同様の傾向となっている。

年間の世帯の総収入(①年間の世帯の総収入)(全体)【経年比較】



回答者別(問1)にみると、100万円未満の割合は、父親で11.4%、母親で6.4%となっている。400万円以上の割合は、父親で41.9%、母親で24.8%となっている。

年間の世帯の総収入(①年間の世帯の総収入)(全体、回答者別)

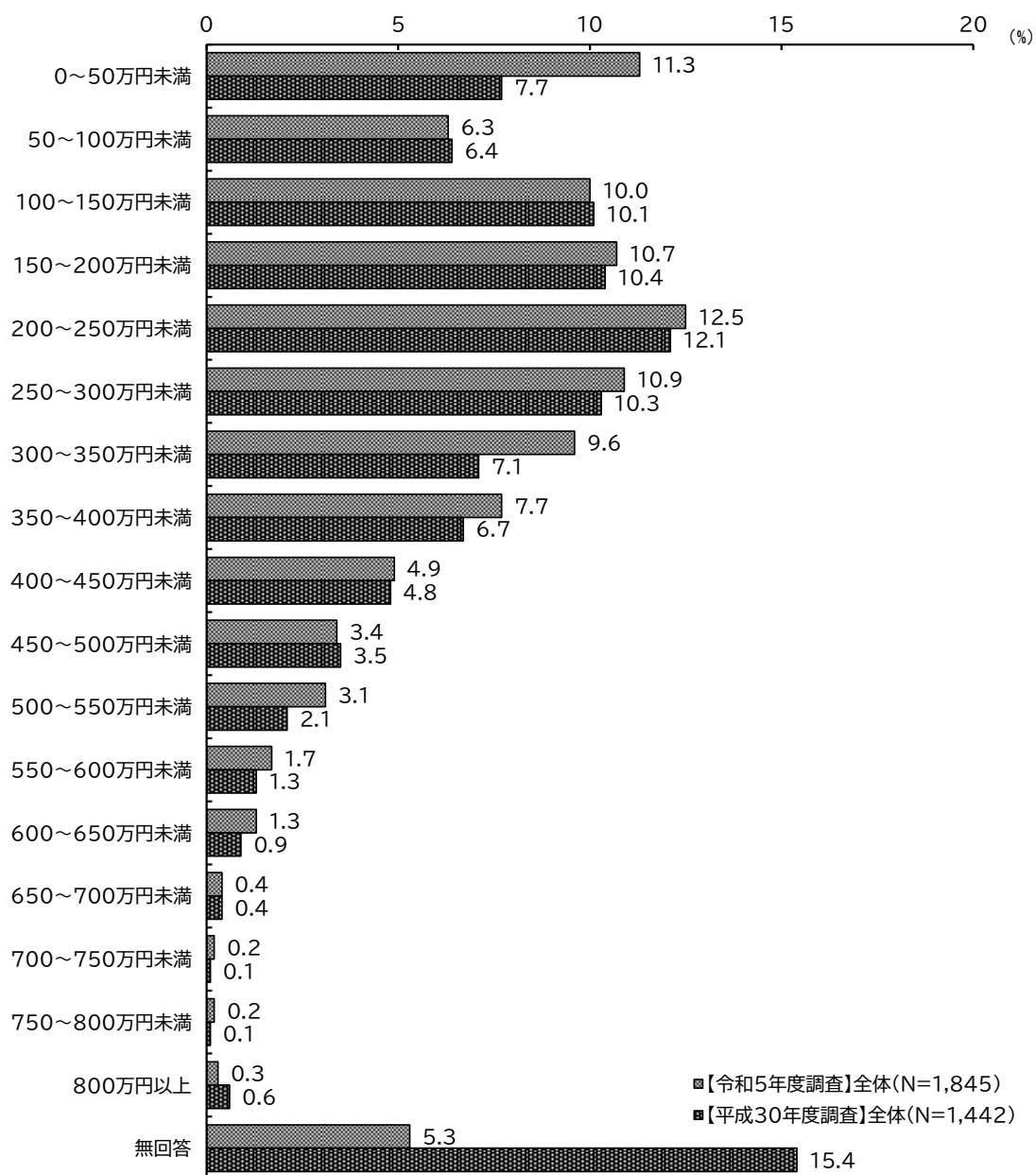
		(%)								
		0 5 0 万円 未満	5 0 1 0 0 万円 未満	1 0 1 0 5 万円 未満	1 5 2 0 0 万円 未満	2 0 2 5 0 万円 未満	2 5 3 0 0 万円 未満	3 0 3 5 0 万円 未満	3 5 4 0 0 万円 未満	4 0 4 5 0 万円 未満
全	体 (N=1,845)	2.8	3.8	5.0	9.8	12.1	14.5	12.1	10.5	8.0
回 別 答 者	父 親 (n= 88)	5.7	5.7	4.5	5.7	8.0	10.2	8.0	6.8	9.1
	母 親 (n=1,745)	2.7	3.7	5.1	10.0	12.4	14.8	12.3	10.6	8.0
	養 育 者 (祖 父 母 等) (n= 9)	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0	11.1	22.2	0.0
		4 5 0 5 0 0 万円 未満	5 0 5 5 0 0 万円 未満	5 5 6 0 0 万円 未満	6 0 6 5 0 0 万円 未満	6 5 7 0 0 万円 未満	7 0 7 5 0 0 万円 未満	7 5 8 0 0 万円 未満	8 0 0 万円 以上	無 回 答
全	体 (N=1,845)	5.6	4.0	2.4	2.1	1.4	0.7	0.7	0.9	3.6
回 別 答 者	父 親 (n= 88)	10.2	6.8	5.7	1.1	5.7	1.1	1.1	1.1	3.4
	母 親 (n=1,745)	5.4	3.8	2.3	2.1	1.1	0.6	0.6	0.9	3.5
	養 育 者 (祖 父 母 等) (n= 9)	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2

第2章 調査結果

年間の世帯の総収入について、『②年間の総収入のうちの就労収入』は、「200～250万円未満(12.5%)」が最も高く、「0～50万円未満(11.3%)」、「250～300万円未満(10.9%)」が続いている。

平成30年度調査と比較すると、令和5年度では「0～50万円未満(7.7%→11.3%)」が1割を超えている。

年間の世帯の総収入(②年間の総収入のうちの就労収入)(全体)【経年比較】

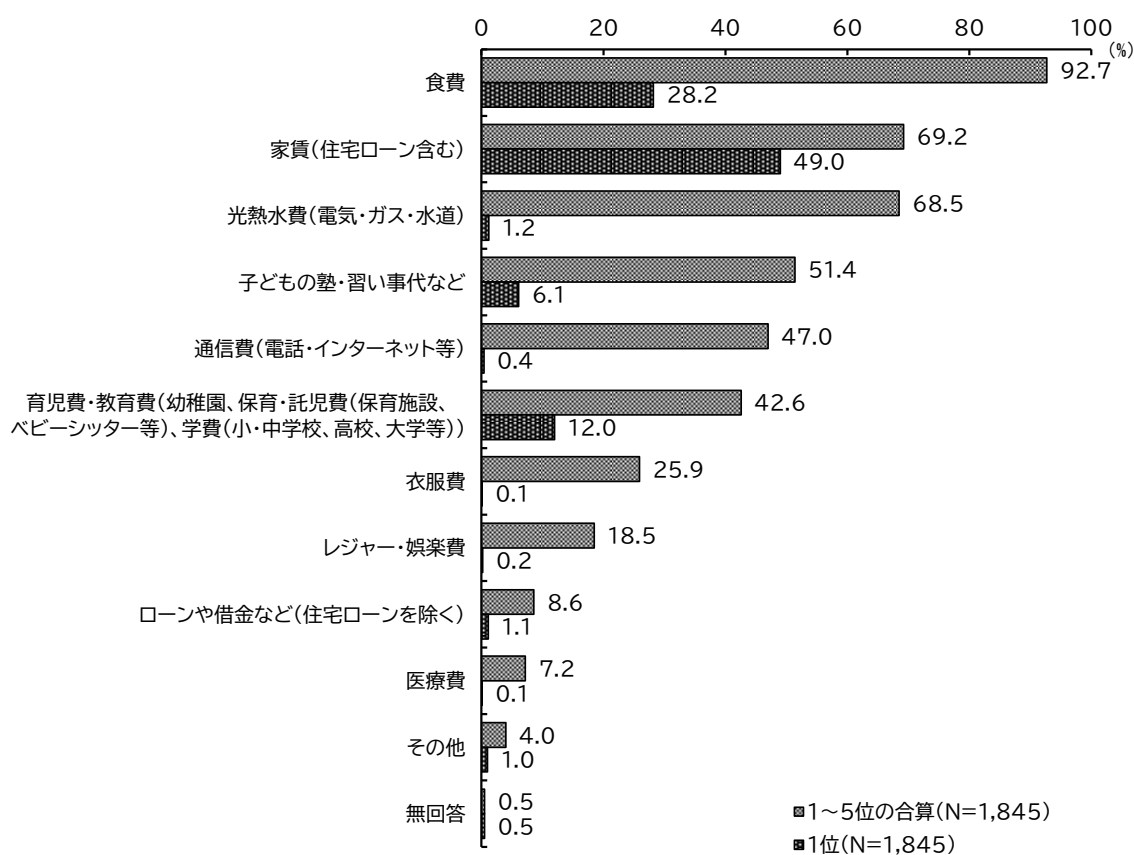


(3)家計(問 18)

家計についてたずねたところ、『①家計の中で多くを占める費用』について、1～5位の合算は、「食費(92.7%)」が最も高く、「家賃(住宅ローン含む)(69.2%)」、「光熱水費(電気・ガス・水道)(68.5%)」が続いている。1位としては「家賃(住宅ローン含む)(49.0%)」が最も高く、「食費(28.2%)」、「育児費・教育費(幼稚園、保育・託児費(保育施設、ベビーシッター等)、学費(小・中学校、高校、大学等))(12.0%)」が続いている。

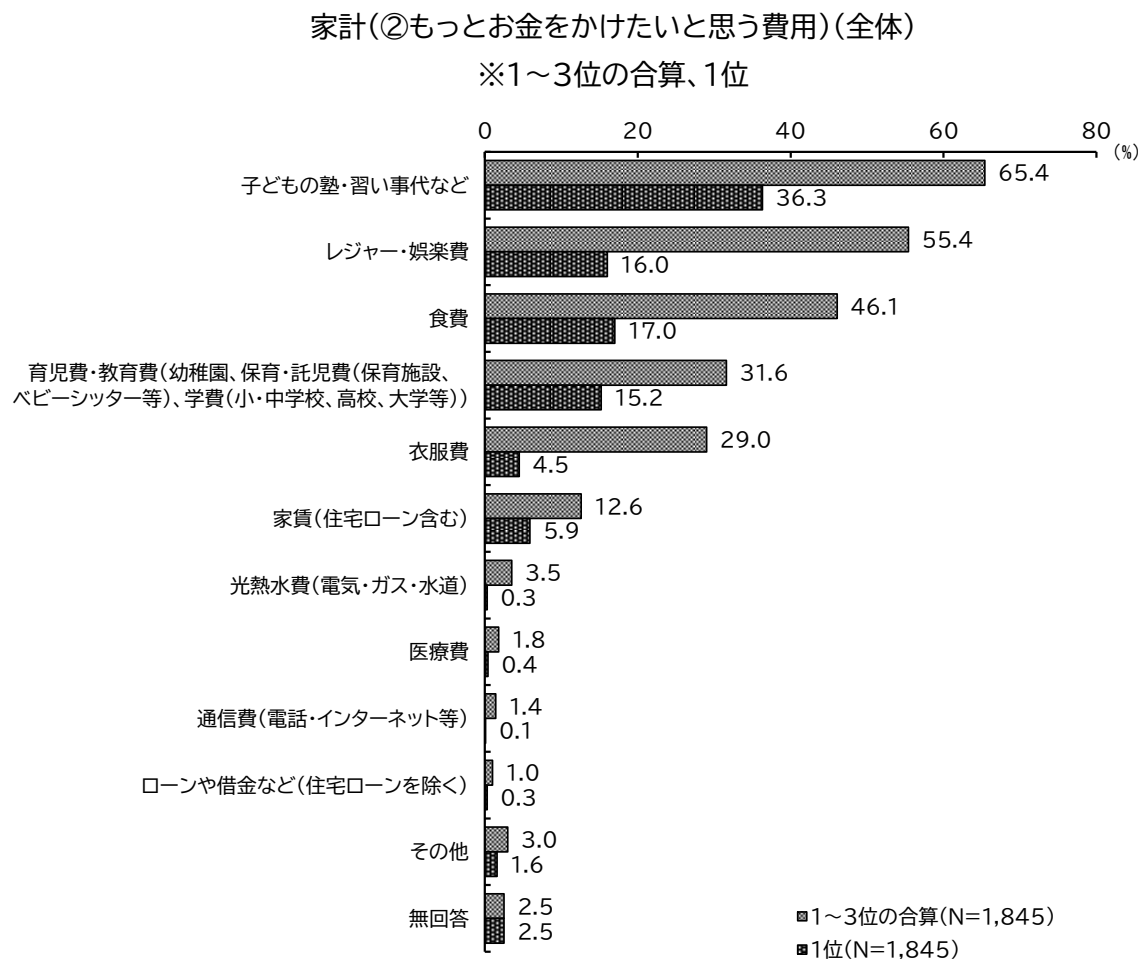
家計(①家計の中で多くを占める費用)(全体)

※1～5位の合算、1位



第2章 調査結果

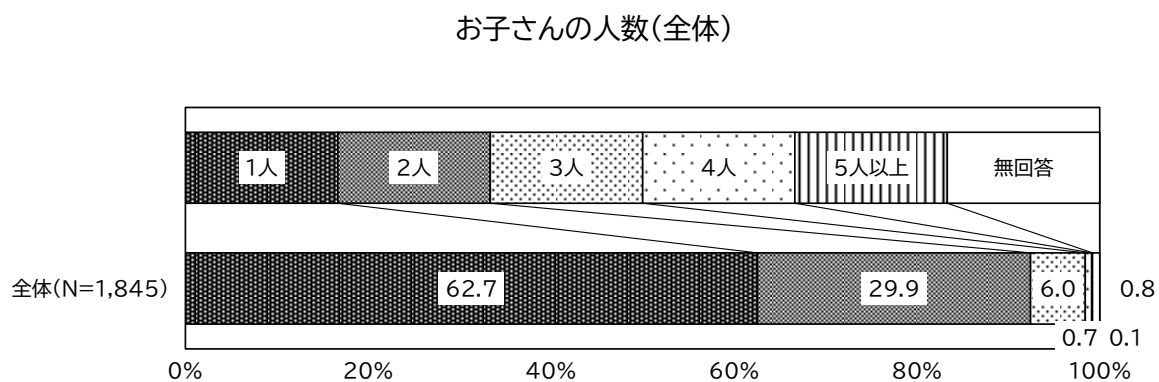
家計について、『②もっとお金をかけたいと思う費用』について、1～3位の合算は、「子どもの塾・習い事代など(65.4%)」が最も高く、「レジャー・娯楽費(55.4%)」、「食費(46.1%)」が続いている。1位としては「子どもの塾・習い事代など(36.3%)」が最も高く、「食費(17.0%)」、「レジャー・娯楽費(16.0%)」が続いている。



6 子育てについて

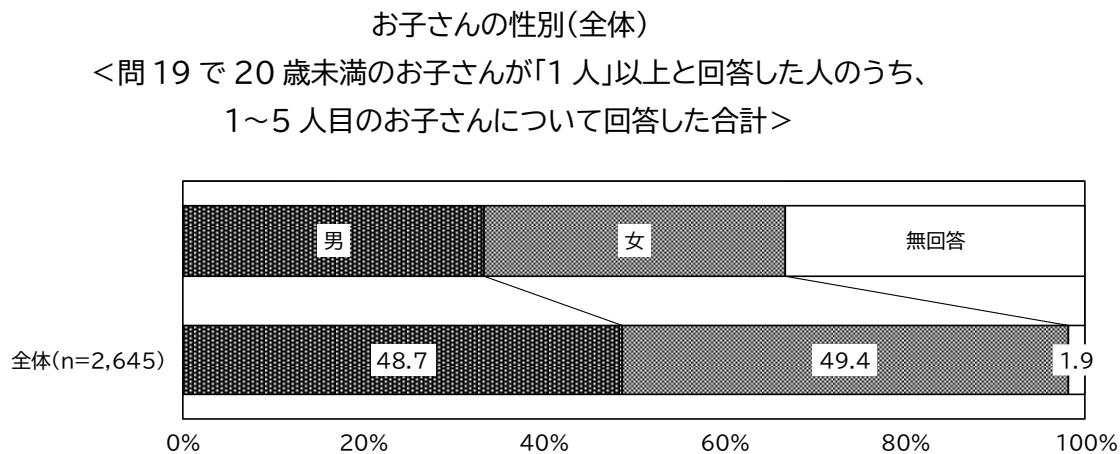
(1)お子さんの人数(20歳未満のお子さんについて)(問19)

20歳未満のお子さんの人数は、「1人(62.7%)」が最も高く、「2人(29.9%)」、「3人(6.0%)」が続いている。

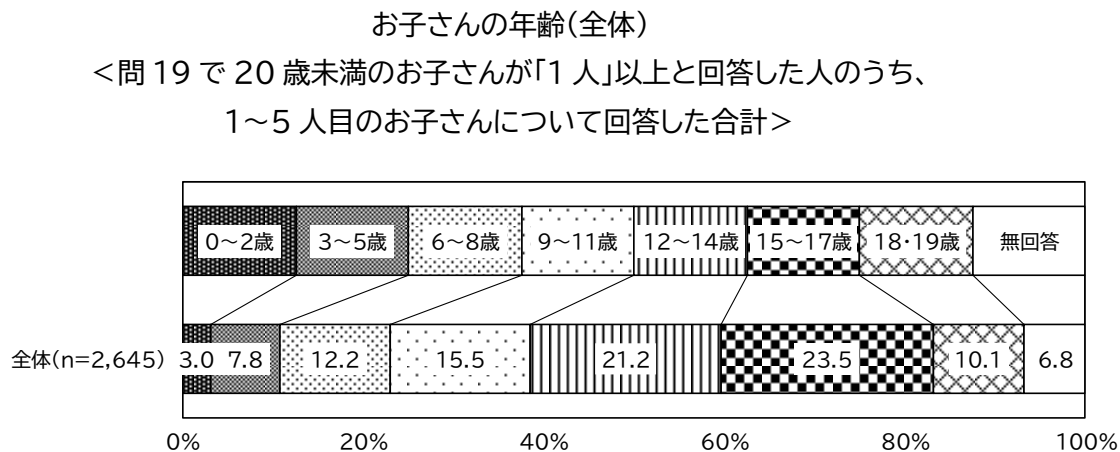


(2)20 歳未満のお子さんについて(問 19-1)

問 19 で 20 歳未満のお子さんが「1 人」以上と回答した人に、20 歳未満のお子さんひとり一人についてたずねたところ、性別は、「男」が 48.7%、「女」が 49.4%となっている。



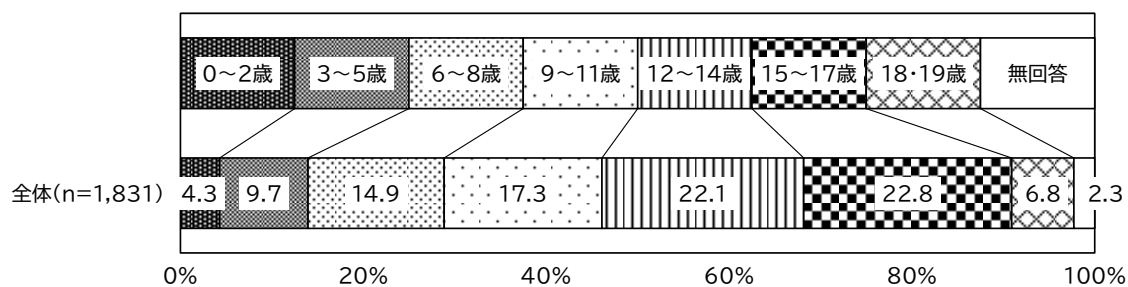
問 19 で 20 歳未満のお子さんが「1 人」以上と回答した人に、20 歳未満のお子さんひとり一人についてたずねたところ、年齢は、「15～17 歳(23.5%)」が最も高く、「12～14 歳(21.2%)」、「9～11 歳(15.5%)」が続いている。



問 19 で 20 歳未満のお子さんが「1 人」以上と回答した人に、20 歳未満のお子さんひとり一人についてたずねたところ、末子の年齢は、「15～17歳(22.8%)」が最も高く、「12～14歳(22.1%)」、「9～11歳(17.3%)」が続いている。

末子の年齢(全体)

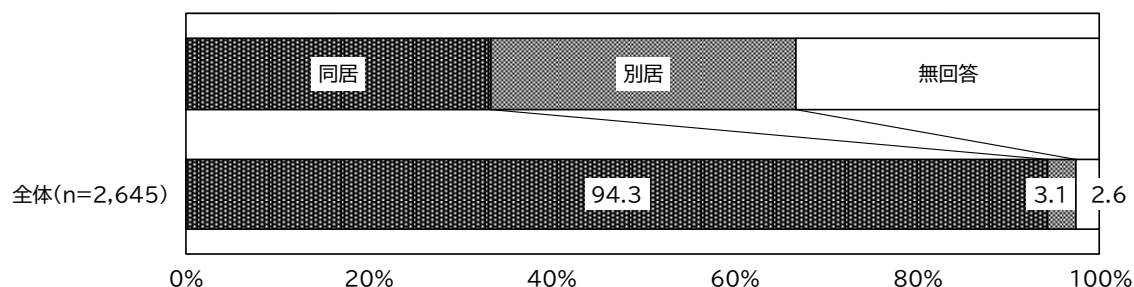
<問 19 で 20 歳未満のお子さんが「1 人」以上と回答した人>



問 19 で 20 歳未満のお子さんが「1 人」以上と回答した人に、20 歳未満のお子さんひとり一人についてたずねたところ、同居・別居は、「同居」が 94.3%、「別居」が 3.1%となっている。

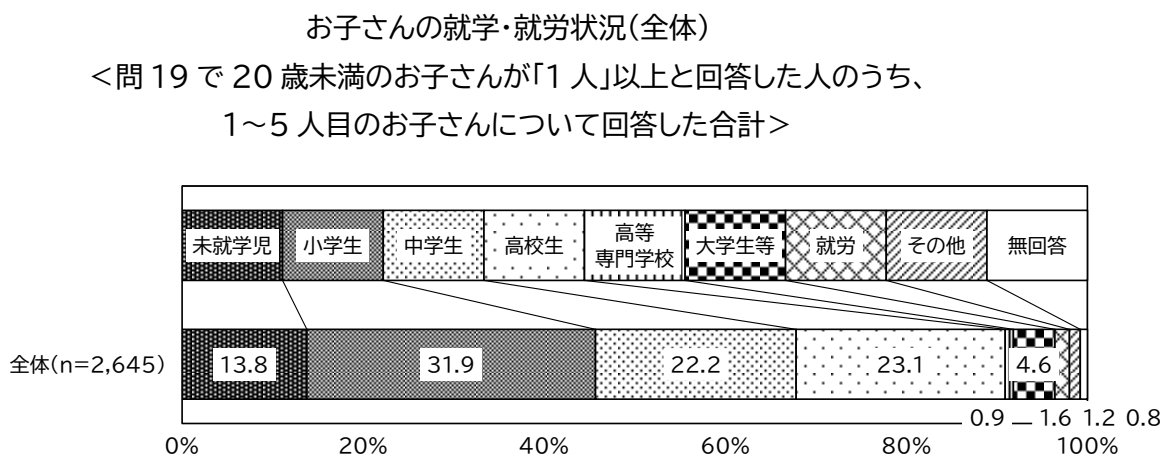
お子さんの同居・別居(全体)

<問 19 で 20 歳未満のお子さんが「1 人」以上と回答した人のうち、1～5 人目のお子さんについて回答した合計>



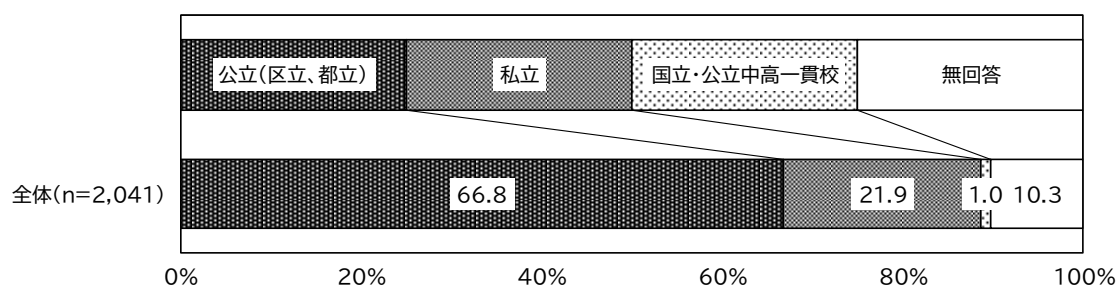
第2章 調査結果

問 19 で 20 歳未満のお子さんが「1 人」以上と回答した人に、20 歳未満のお子さんひとり一人についてたずねたところ、就学・就労状況は、「小学生(31.9%)」が最も高く、「高校生(23.1%)」、「中学生(22.2%)」が続いている。



問 19-1(就学・就労状況)で 20 歳未満のお子さんが「2. 小学生」「3. 中学生」「4. 高校生」と回答した人に、学校の種類についてたずねたところ、「公立(区立、都立)」が 66.8%、「私立」が 21.9%、「国立・公立中高一貫校」が 1.0%となっている。

お子さんの学校の種類(全体)
 <問 19-1(就学・就労状況)で 20 歳未満のお子さんが「2. 小学生」「3. 中学生」「4. 高校生」と
 回答した人のうち、1～5 人目のお子さんについて回答した合計>



【参考】ひとり親世帯における子どもの進学率

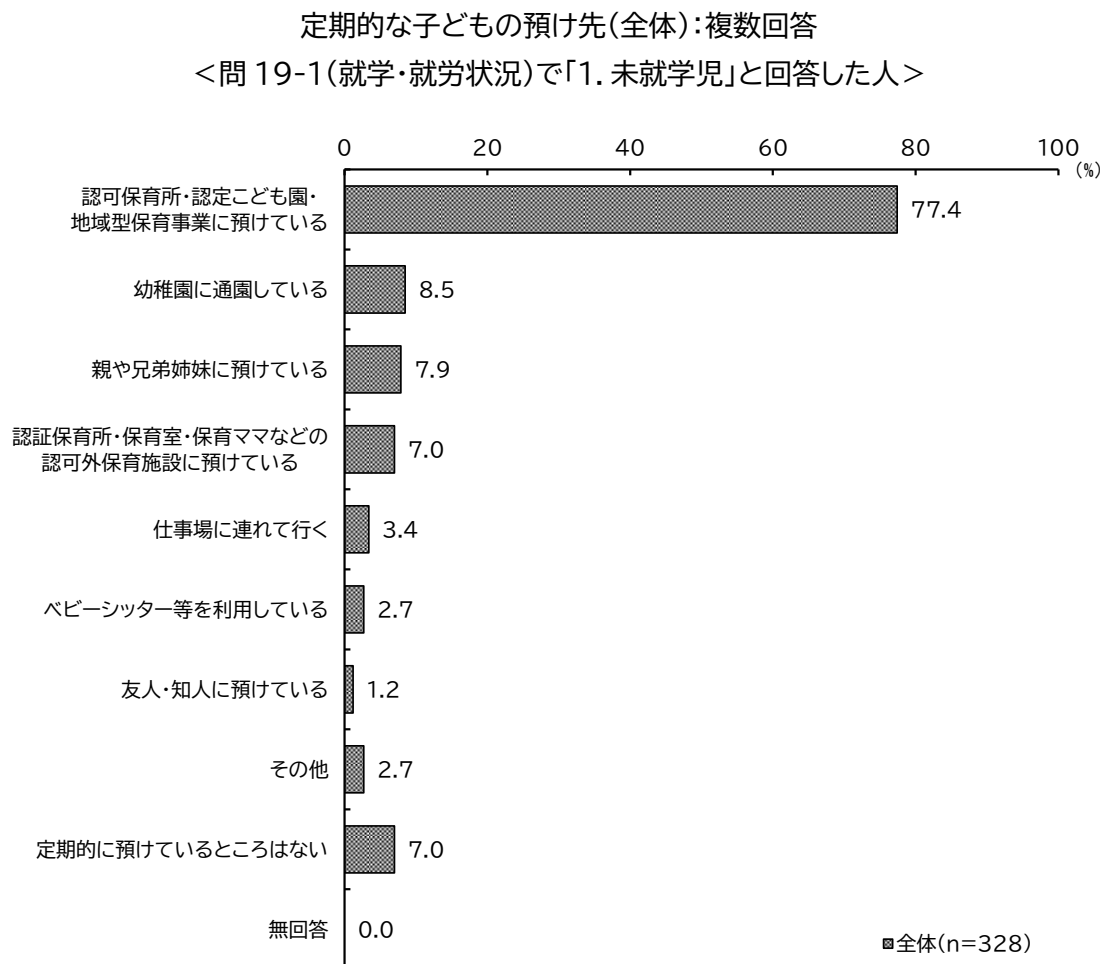
	世田谷区 (本調査)	国 (令和3年度全国ひとり親世帯等調査)
中学校卒業後の進路 (進学率)※1	99.1%	母子世帯 94.5% 父子世帯 96.2%
高等学校卒業後の進路 (進学率)※2	85.1%	母子世帯 66.5% 父子世帯 57.9%

※1:16 歳のうち、高等学校(本調査では「高校生」)または高等専門学校に在籍

※2:19 歳のうち、大学、短大又は専修学校・各種学校(本調査では「大学等」)に在籍

(3) 定期的な子どもの預け先(問 20(1))

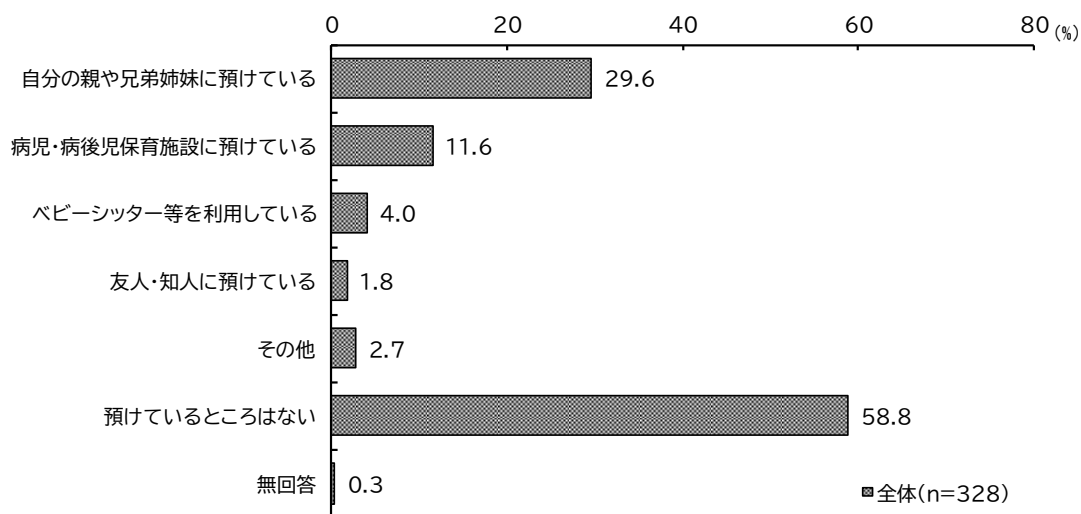
問 19-1(就学・就労状況)で「1. 未就学児」と回答した人に、定期的な子どもの預け先についてたずねたところ、「認可保育所・認定こども園・地域型保育事業に預けている(77.4%)」が最も高く、「幼稚園に通園している(8.5%)」、「親や兄弟姉妹に預けている(7.9%)」が続いている。



(4)子どもが体調不良のときの預け先(問 20(2))

問 19-1(就学・就労状況)で「1. 未就学児」と回答した人に、子どもが体調不良のときの預け先についてたずねたところ、「自分の親や兄弟姉妹に預けている(29.6%)」が最も高く、「病児・病後児保育施設に預けている(11.6%)」、「ベビーシッター等を利用している(4.0%)」が続いている。なお、「預けているところはない」が 58.8%となっている。

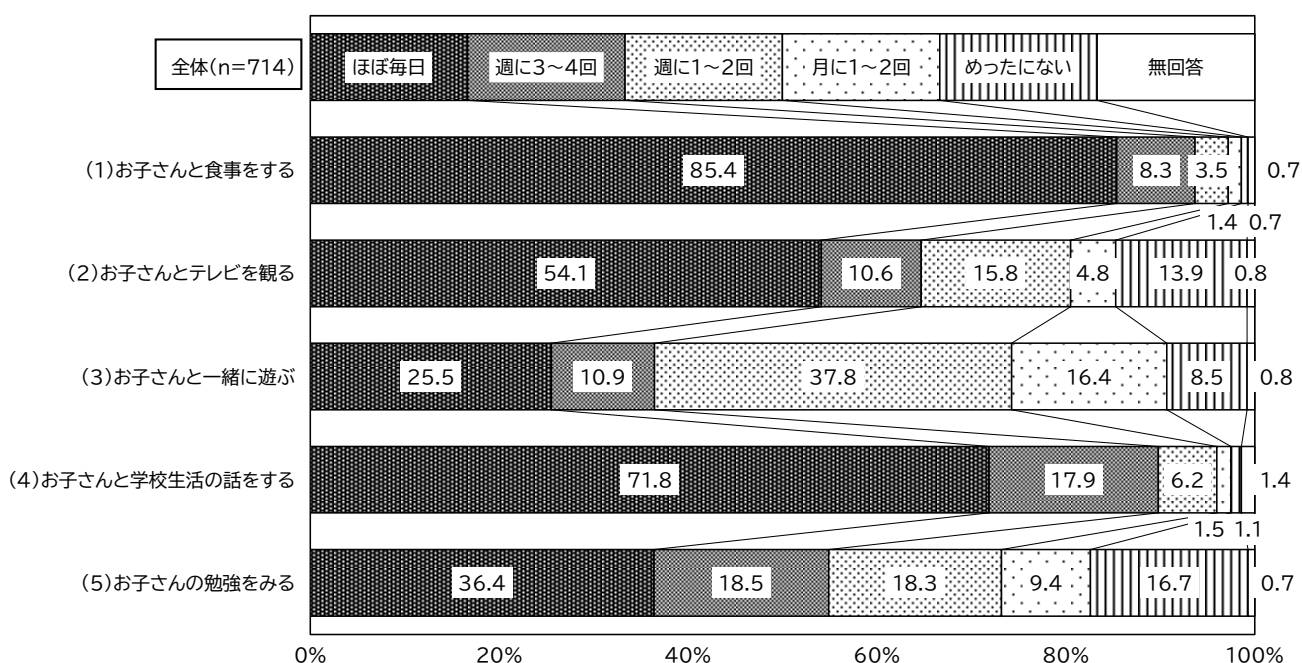
子どもが体調不良のときの預け先(全体):複数回答
 <問 19-1(就学・就労状況)で「1. 未就学児」と回答した人>



(5)子どもとのコミュニケーション方法(問 21)

問 19-1(就学・就労状況)で「2. 小学生」と回答した人に、子どもとのコミュニケーション方法についてたずねたところ、「ほぼ毎日」の割合が『(1)お子さんと食事をする(85.4%)』で最も高く、『(4)お子さんと学校生活の話をする(71.8%)』、『(2)お子さんとテレビを観る(54.1%)』が続いている。「めったにない」の割合は『(5)お子さんの勉強をみる(16.7%)』で最も高く、『(2)お子さんとテレビを観る(13.9%)』、『(3)お子さんと一緒に遊ぶ(8.5%)』が続いている。

子どもとのコミュニケーション方法(全体)
 <問 19-1(就学・就労状況)で「2. 小学生」と回答した人>

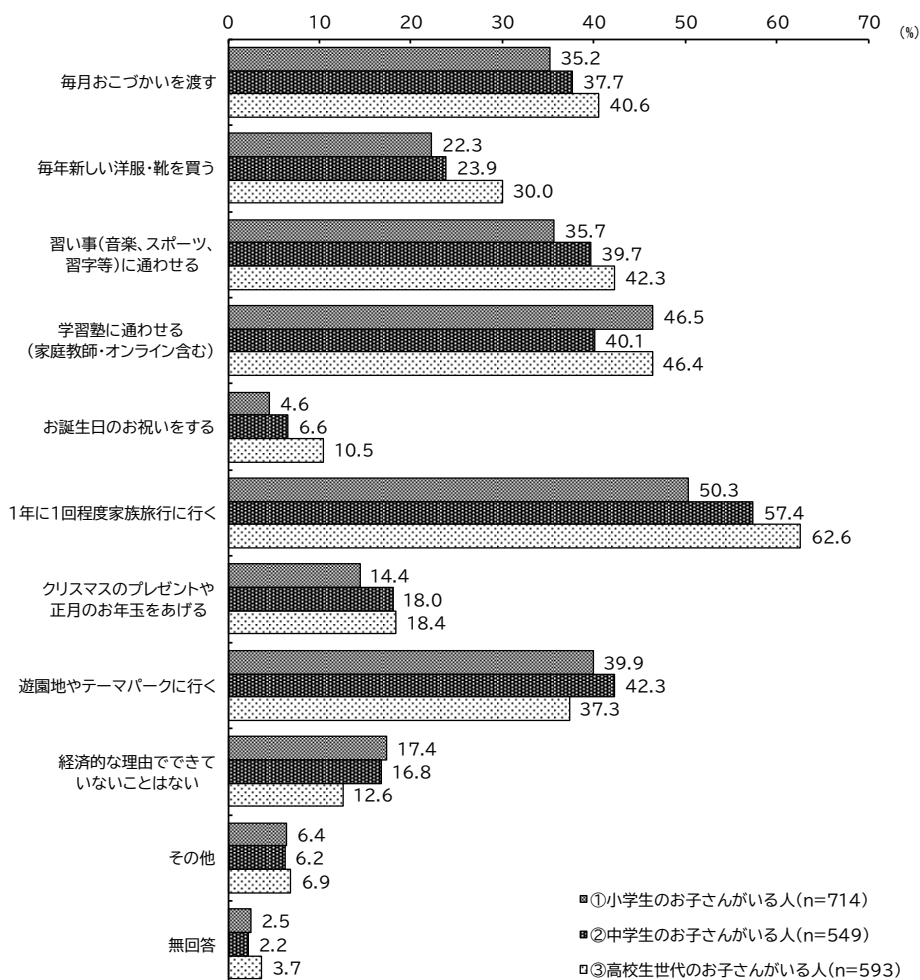


(6) 経済的な理由でできていないこと(問 22)

問 19-1(就学・就労状況)で該当する年齢の子どもがいると回答した人のそれぞれに、経済的な理由でできていないことについてたずねたところ、『①小学生のお子さんがある人』は「1年に1回程度家族旅行に行く(50.3%)」が最も高く、「学習塾に通わせる(家庭教師・オンライン含む)(46.5%)」、「遊園地やテーマパークに行く(39.9%)」が続いている。『②中学生のお子さんがある人』は「1年に1回程度家族旅行に行く(57.4%)」が最も高く、「遊園地やテーマパークに行く(42.3%)」、「学習塾に通わせる(家庭教師・オンライン含む)(40.1%)」が続いている。『③高校生世代のお子さんがある人』は「1年に1回程度家族旅行に行く(62.6%)」が最も高く、「学習塾に通わせる(家庭教師・オンライン含む)(46.4%)」、「習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる(42.3%)」が続いている。

経済的な理由でできていないこと(全体):各複数回答

<問 19-1(就学・就労状況)で該当する年齢の子どもがいると回答した人>

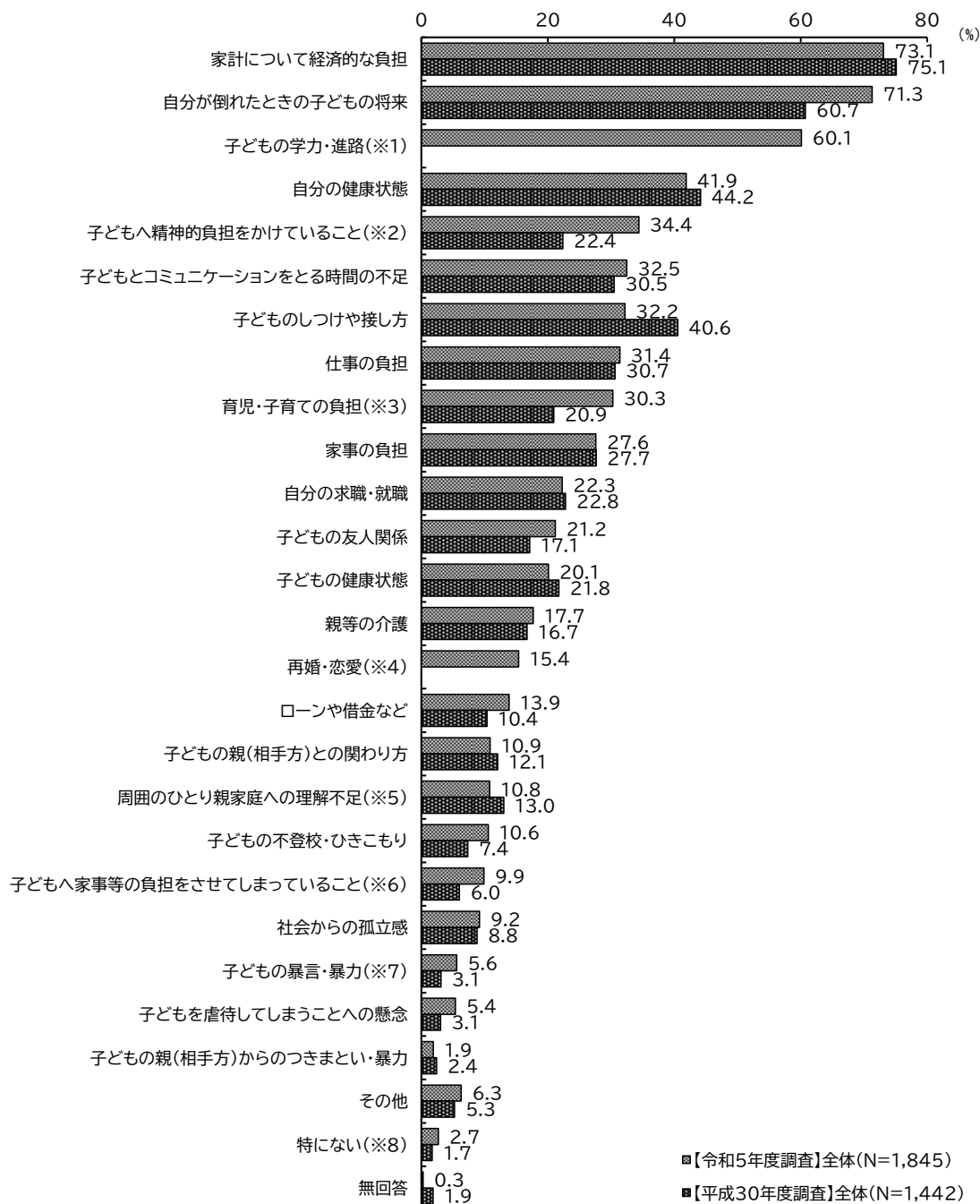


(7)現在の子どもや自分のことでの悩みごと(問 23)

現在の子どもや自分のことでの悩みごとは、「家計について経済的な負担(73.1%)」が最も高く、「自分が倒れたときの子どもの将来(71.3%)」、「子どもの学力・進路(60.1%)」が続いている。

平成 30 年度調査も令和5年度と上位は同様である。また、令和5年度では「子どもへの精神的負担をかけていること(22.4%→34.4%)」が 12.0 ポイント高くなっている。

現在の子どもや自分のことでの悩みごと(全体):複数回答【経年比較】



平成 30 年度は、選択肢が以下のとおりとなっている

※1:「子どもの学力(55.5%)」、「子どもの進路(39.8%)」と2つの選択肢で聴取、※2:子どもへの精神的負担、※3:育児の負担、※4:「再婚(12.5%)」、「恋愛(7.2%)」と2つの選択肢で聴取、※5:ひとり親家庭への理解不足、※6:子どもへの家事等の負担、※7:子どもの暴力、※8:特になし

第2章 調査結果

末子の年齢別(問19-1から算出)にみると、9～11歳では「自分が倒れたときの子どもの将来(76.6%)」が最も高く、他の年齢では「家計について経済的な負担」が最も高くなっている。

末子の年齢が低いほど「仕事の負担」、「育児・子育ての負担」、「家事の負担」の割合は高くなる傾向にある。3～5歳、6～8歳では、「子どもとコミュニケーションをとる時間の不足」、「子どものしつけや接し方」で4割を超えて高くなっている。

また、6～8歳では「子どもの親(相手方)との関わり方(21.2%)」、12～14歳では「子どもの学力・進路(71.3%)」、18・19歳では「親等の介護(29.0%)」が全体より10ポイント以上高くなっている。

現在の子どもや自分のことでの悩みごと(全体、末子の年齢別)

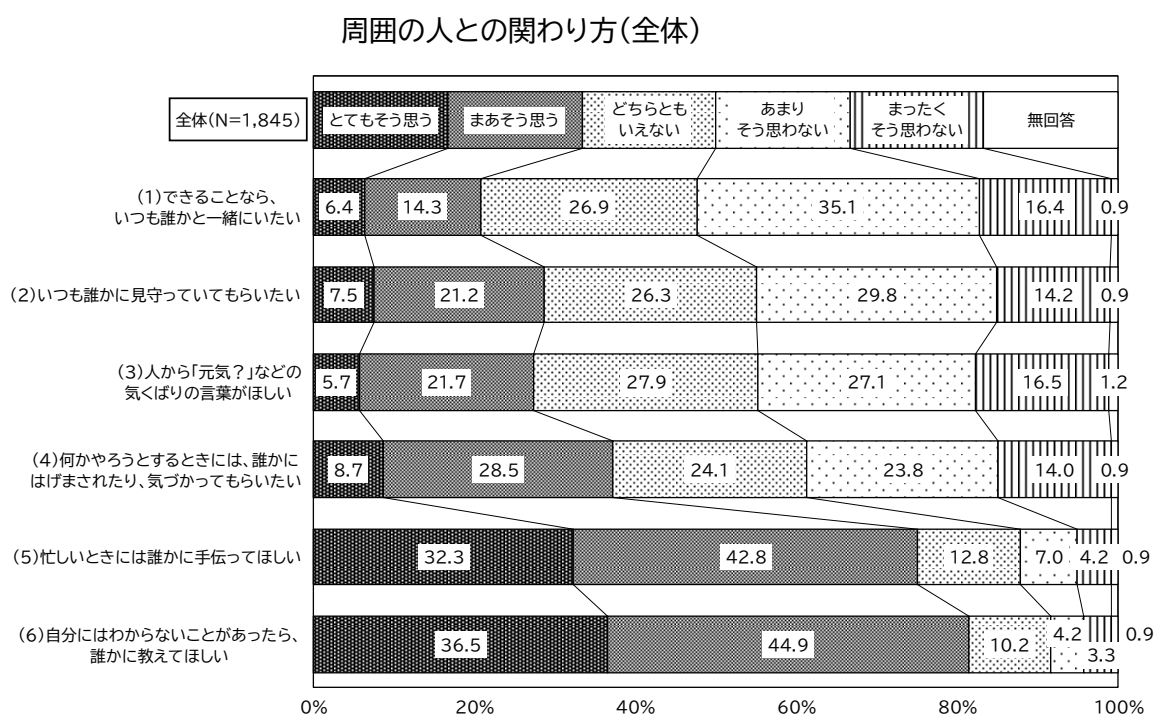
																(%)
		家計について経済的な負担	自分が倒れたときの子ども	子どもの学力・進路	自分の健康状態	子どもへ精神的負担をか	子どもとコミュニケーションの不足	子どものしつけや接し方	仕事の負担	育児・子育ての負担	家事の負担	自分の求職・就職	子どもの友人関係	子どもの健康状態	親等の介護	
全	体(N=1,845)	73.1	71.3	60.1	41.9	34.4	32.5	32.2	31.4	30.3	27.6	22.3	21.2	20.1	17.7	
末子の年齢別	0～2歳 (n=78)	79.5	64.1	34.6	30.8	34.6	28.2	37.2	42.3	57.7	46.2	16.7	9.0	25.6	9.0	
	3～5歳 (n=177)	78.5	74.6	36.7	39.5	32.8	44.1	42.4	43.5	56.5	35.0	20.3	15.8	23.7	12.4	
	6～8歳 (n=273)	75.1	71.4	59.7	40.7	38.5	44.0	49.8	35.2	42.5	30.8	26.7	28.9	20.1	13.2	
	9～11歳 (n=316)	73.4	76.6	69.0	41.1	36.1	37.3	35.4	30.1	31.6	29.4	23.4	28.8	21.5	18.7	
	12～14歳 (n=404)	73.0	72.3	71.3	45.5	34.4	31.7	31.9	30.7	29.0	25.7	20.8	22.5	20.8	18.6	
	15～17歳 (n=417)	70.3	69.5	63.3	44.4	33.6	23.3	18.9	26.4	15.3	22.8	22.5	16.5	18.5	20.1	
18～19歳 (n=124)	72.6	65.3	41.9	42.7	27.4	18.5	11.3	27.4	6.5	21.8	21.8	15.3	14.5	29.0		

		再婚・恋愛	ローンや借金など	子どもの親(相手方)との関わり方	周囲のひとり親家庭への理解不足	子どもの不登校・ひきこもり	子どもへ家事等の負担をさせてしまっていること	社会からの孤立感	子どもの暴言・暴力	子どもへの懸念	子どもの親(相手方)からのつきまとい・暴力	その他	特になし	無回答
全	体(N=1,845)	15.4	13.9	10.9	10.8	10.6	9.9	9.2	5.6	5.4	1.9	6.3	2.7	0.3
末子の年齢別	0～2歳 (n=78)	14.1	12.8	11.5	16.7	3.8	5.1	12.8	6.4	9.0	1.3	7.7	7.7	1.3
	3～5歳 (n=177)	21.5	14.7	9.6	14.7	1.7	2.8	11.3	3.4	7.9	0.6	6.2	2.3	0.0
	6～8歳 (n=273)	22.3	12.8	21.2	13.2	7.0	9.9	11.7	8.1	10.6	4.4	5.9	1.5	0.0
	9～11歳 (n=316)	17.4	13.3	13.6	12.3	12.7	13.9	10.1	6.0	7.6	1.9	6.3	3.2	0.0
	12～14歳 (n=404)	11.6	14.6	10.6	11.1	17.1	10.1	9.2	7.4	4.2	1.5	4.7	2.2	0.5
	15～17歳 (n=417)	12.7	14.6	6.0	8.2	11.3	11.3	7.4	3.4	1.7	1.7	7.0	2.6	0.0
18～19歳 (n=124)	11.3	12.9	3.2	3.2	8.1	9.7	5.6	3.2	0.8	0.8	10.5	1.6	0.0	

7 相談支援について

(1) 周囲の人との関わり方(問 24)

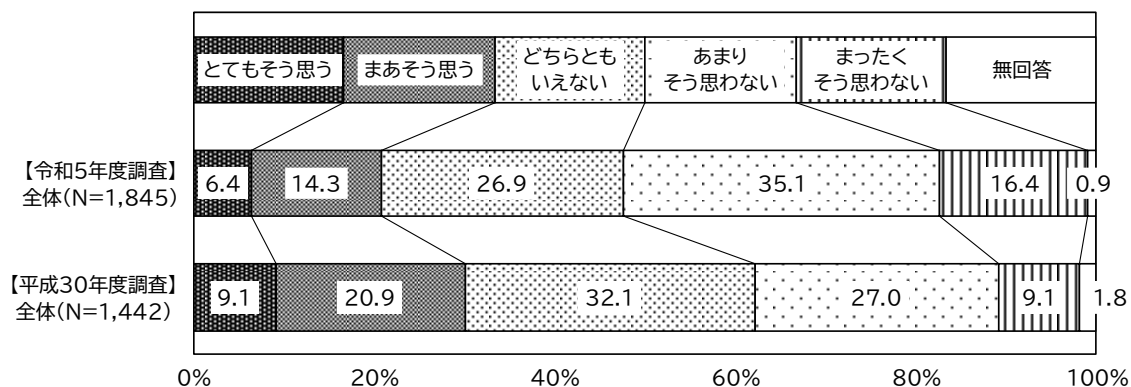
周囲の人との関わり方は、《そう思う・計》(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計)の割合が『(6)自分にはわからないことがあったら、誰かに教えてほしい(81.4%)』で最も高く、『(5)忙しいときには誰かに手伝ってほしい(75.1%)』、『(4)何かやろうとするときには、誰かにはげまされたり、気づかってもらいたい(37.2%)』が続いている。



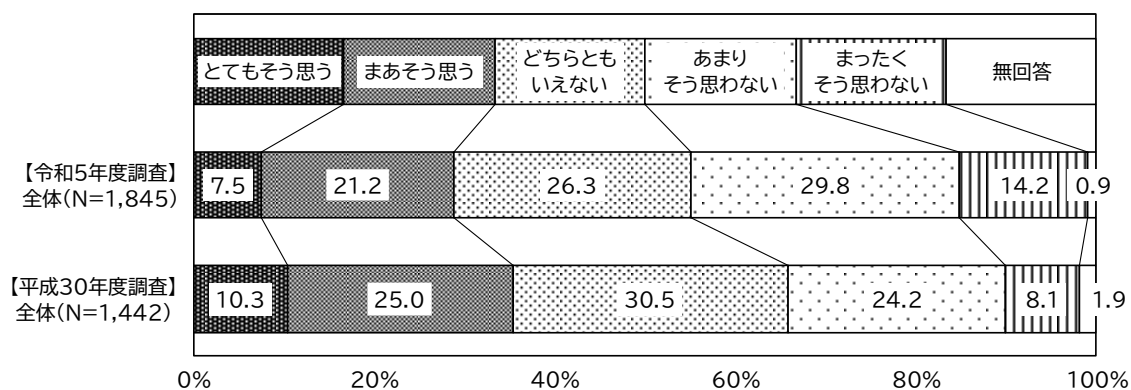
第2章 調査結果

平成30年度調査と比較すると、令和5年調査では《「そう思わない・計」(「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」の合計)が『できることなら、いつも誰かと一緒にいたい(36.1%→51.5%)』で15.4ポイント、『いつも誰かに見守っててもらいたい(32.3%→44.0%)』で11.7ポイント高くなっている。

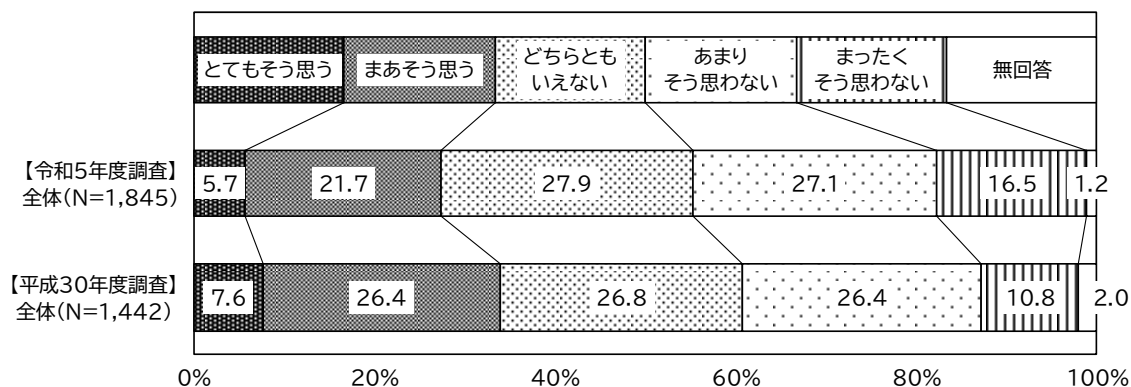
周囲の人との関わり方『できることなら、いつも誰かと一緒にいたい』(全体)【経年比較】



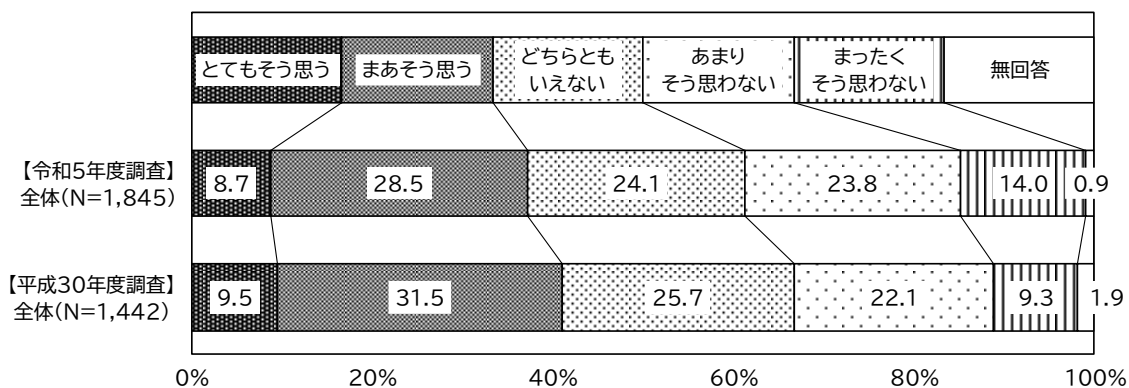
周囲の人との関わり方『いつも誰かに見守っててもらいたい』(全体)【経年比較】



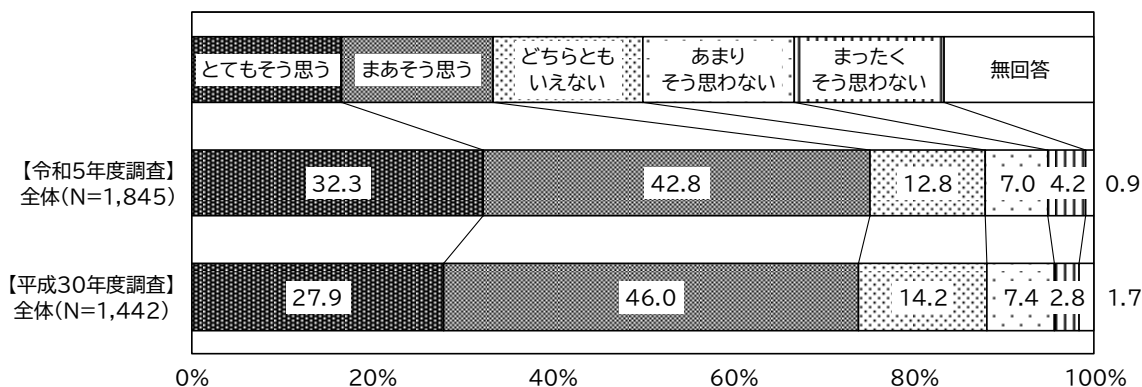
周囲の人との関わり方『人から「元気？」などの気くばりの言葉がほしい』(全体)【経年比較】



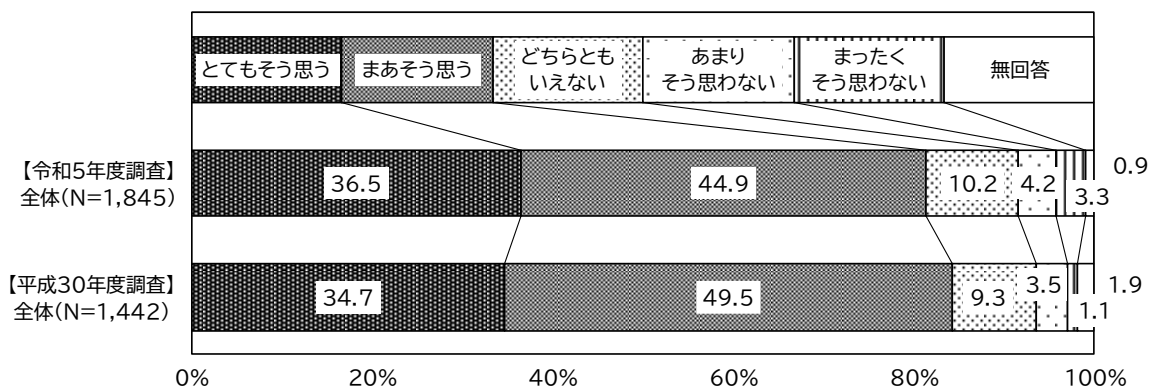
周囲の人との関わり方『何かやろうとするとともに、誰かにはげまされたり、
気づかってもらいたい』(全体)【経年比較】



周囲の人との関わり方『忙しいときには誰かに手伝ってほしい』(全体)【経年比較】



周囲の人との関わり方『自分にはわからないことがあったら、誰かに教えてほしい』(全体)
【経年比較】

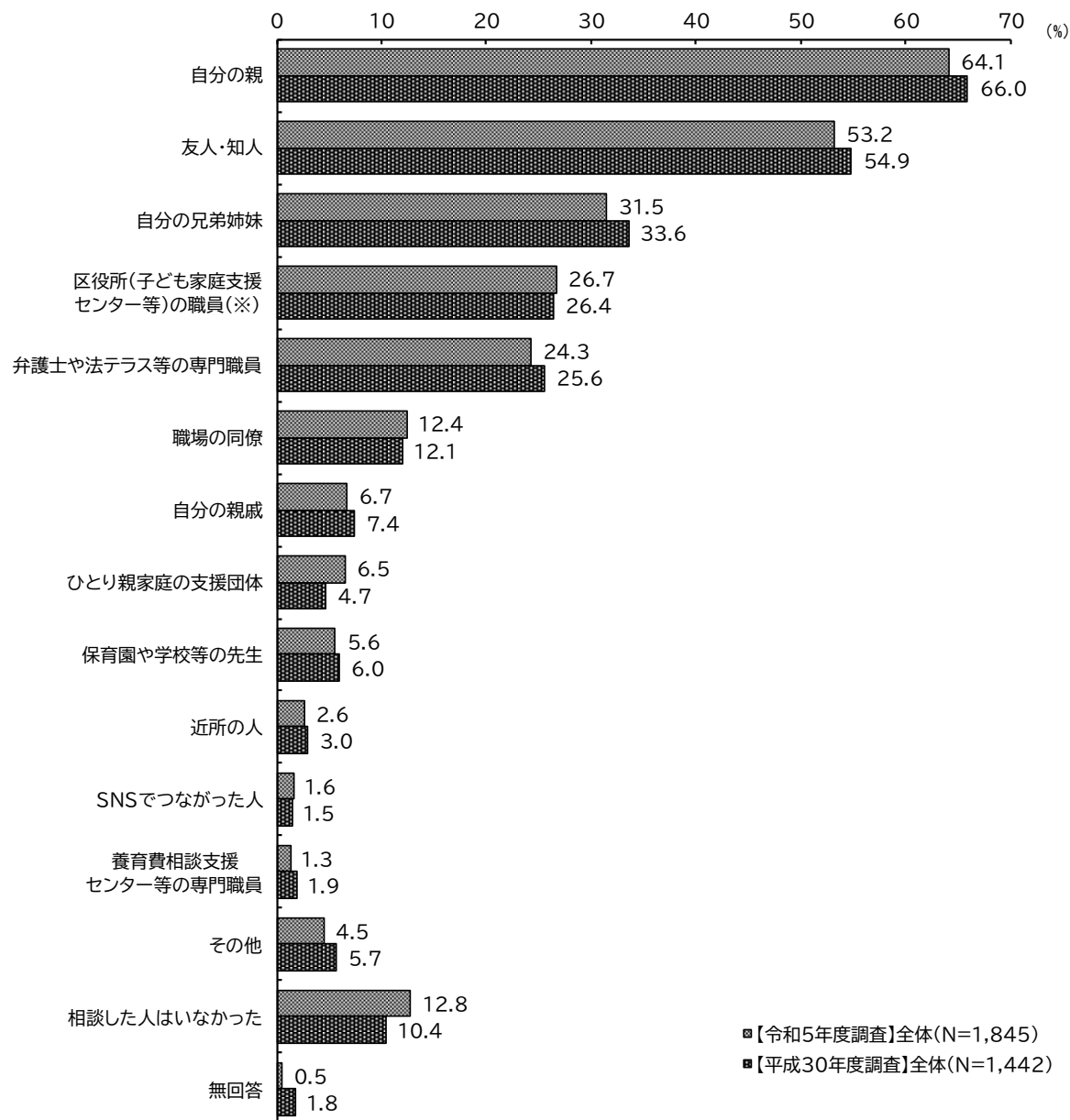


(2)ひとり親になる前後の悩みごとの相談先(問 25)

ひとり親になる前後の悩みごとの相談先は、「自分の親(64.1%)」が最も高く、「友人・知人(53.2%)」、「自分の兄弟姉妹(31.5%)」が続いている。

平成 30 年度調査も令和5年度と上位は同様である。

ひとり親になる前後の悩みごとの相談先(全体):複数回答【経年比較】



※平成 30 年度は、選択肢が「区役所(子ども家庭支援センター)の職員」となっている。

回答者別(問1)にみると、父親は母親と比べて、「相談した人はいなかった(23.9%)」の割合が高く、「自分の親(44.3%)」、「友人・知人(31.8%)」、「自分の兄弟姉妹(14.8%)」、「弁護士や法テラス等の専門職員(6.8%)」の割合が10ポイント以上低くなっている。

ひとり親になる前後の悩みごとの相談先:(全体、回答者別)

										(%)
		自分の親	友人・知人	自分の兄弟姉妹	区役所(子ども家庭支援センター等)の職員	弁護士や法テラス等の専門職員	職場の同僚	自分の親戚	ひとり親家庭の支援団体	
全	体 (N=1,845)	64.1	53.2	31.5	26.7	24.3	12.4	6.7	6.5	
回答者別	父親 (n= 88)	44.3	31.8	14.8	26.1	6.8	6.8	5.7	2.3	
	母親 (n=1,745)	65.5	54.6	32.6	26.8	25.1	12.8	6.7	6.7	
	養育者(祖父母等) (n= 9)	0.0	0.0	11.1	22.2	44.4	0.0	11.1	0.0	

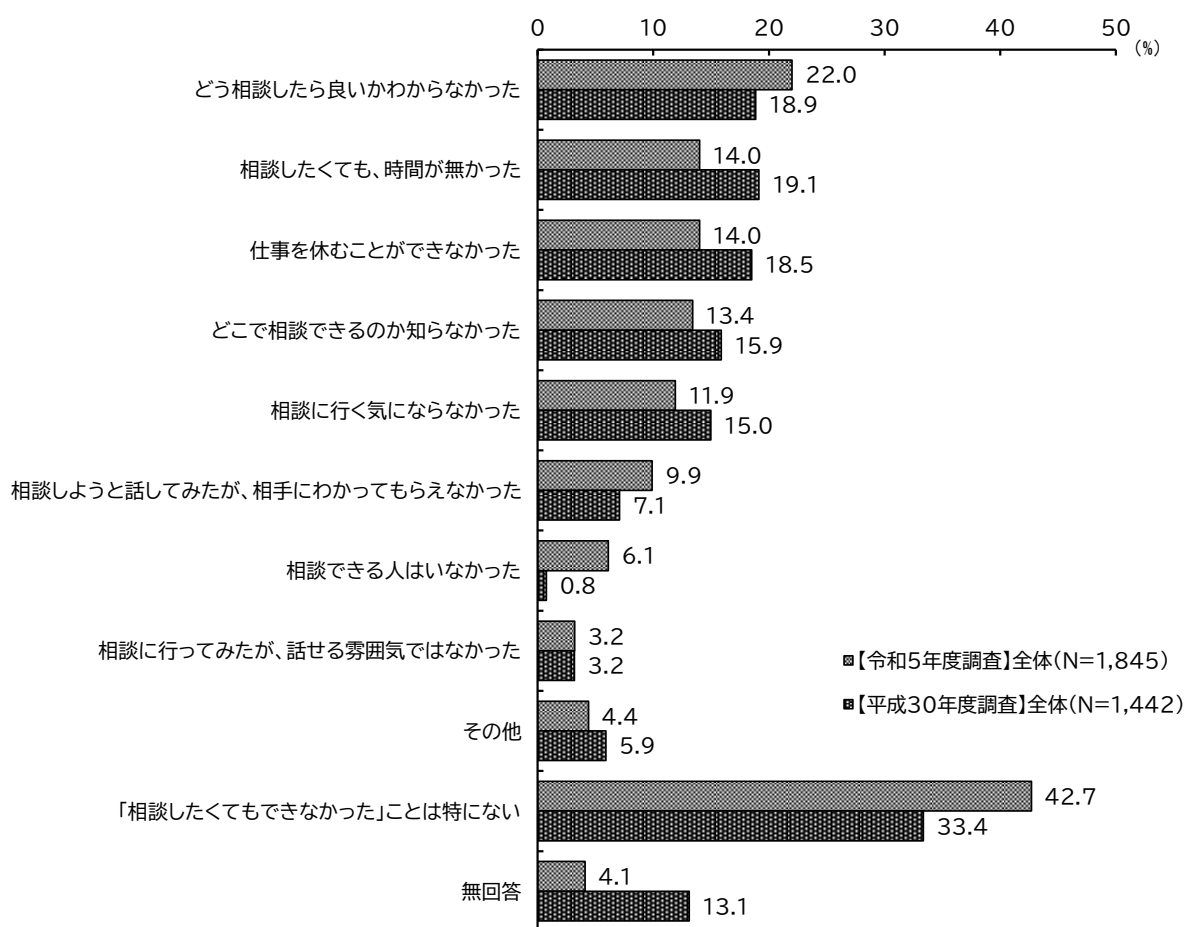
		保育園や学校等の先生	近所の人	SNSでつながった人	養育費相談支援センター等 の専門職員	その他	相談した人はいなかった	無回答
全	体 (N=1,845)	5.6	2.6	1.6	1.3	4.5	12.8	0.5
回答者別	父親 (n= 88)	8.0	1.1	1.1	0.0	4.5	23.9	3.4
	母親 (n=1,745)	5.5	2.7	1.7	1.4	4.4	12.2	0.2
	養育者(祖父母等) (n= 9)	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	33.3	11.1

(3)相談したくてもできなかった理由(問 26)

相談したくてもできなかった理由は、「どう相談したら良いかわからなかった(22.0%)」が最も高く、「相談したくても、時間が無かった」、「仕事を休むことができなかった」が各 14.0%、「どこで相談できるのか知らなかった(13.4%)」が続いている。なお、「相談したくてもできなかった」ことは特にない」が 42.7%となっている。

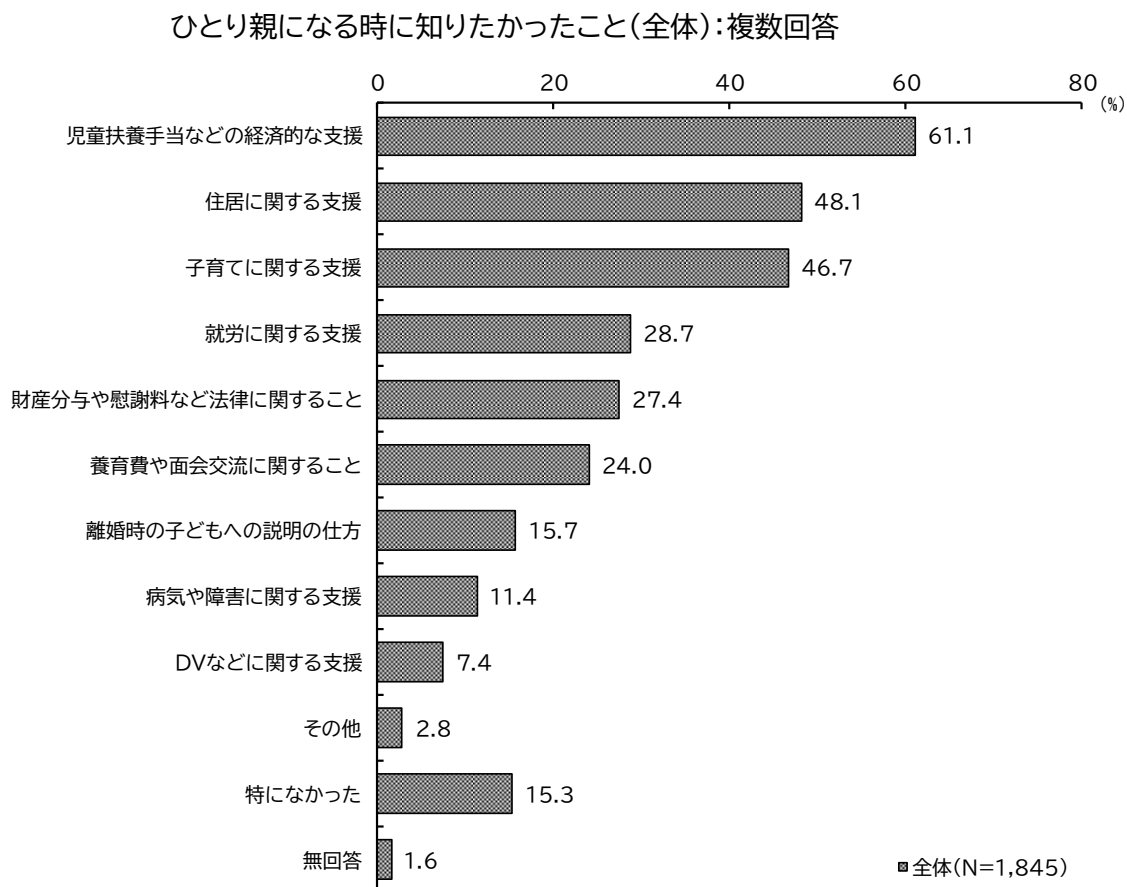
平成 30 年度調査では、「相談したくても、時間が無かった(19.1%)」が最も多く、「どう相談したら良いかわからなかった(18.9%)」、「仕事を休むことができなかった(18.5%)」が続いている。

相談したくてもできなかった理由(全体):複数回答【経年比較】



(4)ひとり親になる時に知りたかったこと(問 27)

ひとり親になる時に知りたかったことは、「児童扶養手当などの経済的な支援(61.1%)」が最も高く、「住居に関する支援(48.1%)」、「子育てに関する支援(46.7%)」が続いている。



第2章 調査結果

回答者別(問1)にみると、父親は母親と比べて、「児童扶養手当などの経済的な支援(67.0%)」、「子育てに関する支援(56.8%)」の割合が5ポイント以上高くなっている。母親は父親と比べて、「住居に関する支援(48.7%)」、「就労に関する支援(29.3%)」、「財産分与や慰謝料など法律に関すること(28.6%)」、「養育費や面会交流に関すること(24.8%)」、「離婚時の子どもへの説明の仕方(16.0%)」、「DVなどに関する支援(7.7%)」の割合が5ポイント以上高くなっている。

ひとり親になる時に知りたかったこと(全体、回答者別)

		(%)											
		的児童扶養手当などの経済	住居に関する支援	子育てに関する支援	就労に関する支援	財産分与や慰謝料など法律に関すること	養育費や面会交流に関すること	離婚時の子どもへの説明の仕方	病気や障害に関する支援	DVなどに関する支援	その他	特になかった	無回答
全	体 (N=1,845)	61.1	48.1	46.7	28.7	27.4	24.0	15.7	11.4	7.4	2.8	15.3	1.6
回 答 者 別	父 親 (n= 88)	67.0	40.9	56.8	19.3	8.0	11.4	9.1	8.0	2.3	0.0	15.9	4.5
	母 親 (n=1,745)	60.8	48.7	46.2	29.3	28.6	24.8	16.0	11.6	7.7	3.0	15.3	1.4
	養育者(祖父母等) (n= 9)	66.7	22.2	44.4	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1

ひとり親になったときの年齢別(問7)にみると、20～24歳では「住居に関する支援(54.0%)」が最も高く、それ以外の10歳代をのぞく年代では「児童扶養手当などの経済的な支援」が最も高くなっている。

また、25～29歳でも「住居に関する支援(57.5%)」が高く、全体より9.4ポイント高くなっている。35～39歳では「就労に関する支援(35.1%)」が高く、全体より6.4ポイント高くなっている。

ひとり親になる時に知りたかったこと(全体、ひとり親になったときの年齢別)

		(%)											
		的児童扶養手当などの経済	住居に関する支援	子育てに関する支援	就労に関する支援	財産分与や慰謝料など法律に関すること	養育費や面会交流に関すること	離婚時の子どもへの説明の仕方	病気や障害に関する支援	DVなどに関する支援	その他	特になかった	無回答
全	体 (N=1,845)	61.1	48.1	46.7	28.7	27.4	24.0	15.7	11.4	7.4	2.8	15.3	1.6
ひ と り 親 に な っ た と き の 年 齢 別	10歳代 (n= 11)	27.3	27.3	18.2	27.3	0.0	18.2	9.1	0.0	9.1	0.0	54.5	0.0
	20～24歳 (n= 87)	52.9	54.0	44.8	28.7	26.4	21.8	6.9	10.3	4.6	3.4	18.4	1.1
	25～29歳 (n=181)	60.8	57.5	50.3	31.5	24.3	21.0	9.9	13.3	7.2	0.6	14.4	1.7
	30～34歳 (n=385)	60.0	49.9	48.3	30.4	30.9	27.3	19.0	11.2	9.4	3.4	16.4	0.8
	35～39歳 (n=439)	62.6	51.0	50.6	35.1	28.2	26.7	19.6	12.3	8.4	2.7	14.8	1.6
	40～44歳 (n=406)	61.6	44.8	46.3	24.4	29.1	26.4	16.0	10.3	6.7	2.5	14.5	1.7
	45～49歳 (n=221)	63.3	46.6	43.9	24.0	22.2	18.6	13.1	13.1	7.2	3.2	12.7	1.4
50～59歳 (n=100)	63.0	31.0	32.0	20.0	28.0	13.0	10.0	8.0	3.0	6.0	18.0	3.0	
60歳代以上 (n= 11)	81.8	9.1	36.4	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0

ひとり親になった理由別(問9)にみると、離婚では全体と同様に「児童扶養手当などの経済的な支援(61.4%)」が最も高く、「住居に関する支援(51.4%)」、「子育てに関する支援(45.3%)」が続いている。

未婚では「児童扶養手当などの経済的な支援(61.4%)」が最も高く、「子育てに関する支援(52.5%)」、「住居に関する支援(51.7%)」が続いている。

死別では「児童扶養手当などの経済的な支援(60.9%)」が最も高く、「子育てに関する支援(49.2%)」が続き、次いで「住居に関する支援(21.8%)」と「就労に関する支援(21.8%)」が同率となっている。

ひとり親になる時に知りたかったこと(全体、ひとり親になった理由別)

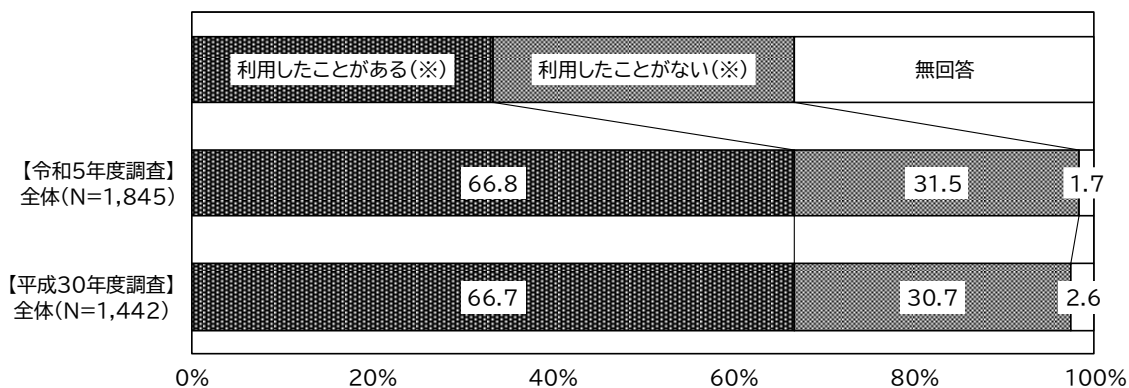
		(%)											
		的児童扶養手当などの経済	住居に関する支援	子育てに関する支援	就労に関する支援	財産分与や慰謝料など法律に関すること	養育費や面会交流に関すること	離婚時の子どもへの説明	病気や障害に関する支援	DVなどに関する支援	その他	特になかった	無回答
全	体 (N=1,845)	61.1	48.1	46.7	28.7	27.4	24.0	15.7	11.4	7.4	2.8	15.3	1.6
ひとり親になった理由別	死別 (n=197)	60.9	21.8	49.2	21.8	17.8	1.5	0.5	9.1	1.5	3.6	20.3	3.6
	離婚 (n=1,361)	61.4	51.4	45.3	29.9	32.2	29.8	20.1	10.7	9.0	2.6	14.0	1.2
	未婚 (n=236)	61.4	51.7	52.5	28.4	10.6	11.0	3.4	15.3	2.1	3.0	19.9	0.8
	遺棄・行方不明 (n=8)	37.5	50.0	50.0	25.0	37.5	50.0	37.5	12.5	25.0	12.5	12.5	0.0
	その他 (n=36)	58.3	44.4	47.2	25.0	11.1	8.3	5.6	19.4	11.1	5.6	13.9	5.6

(5)総合支所の子ども家庭支援センター窓口の利用の有無(問 28)

総合支所の子ども家庭支援センター窓口の利用の有無は、「利用したことがある」が 66.8%、「利用したことがない」が 31.5%となっている。

平成 30 年度調査も同様の傾向となっている。

総合支所の子ども家庭支援センター窓口の利用の有無(全体)【経年比較】

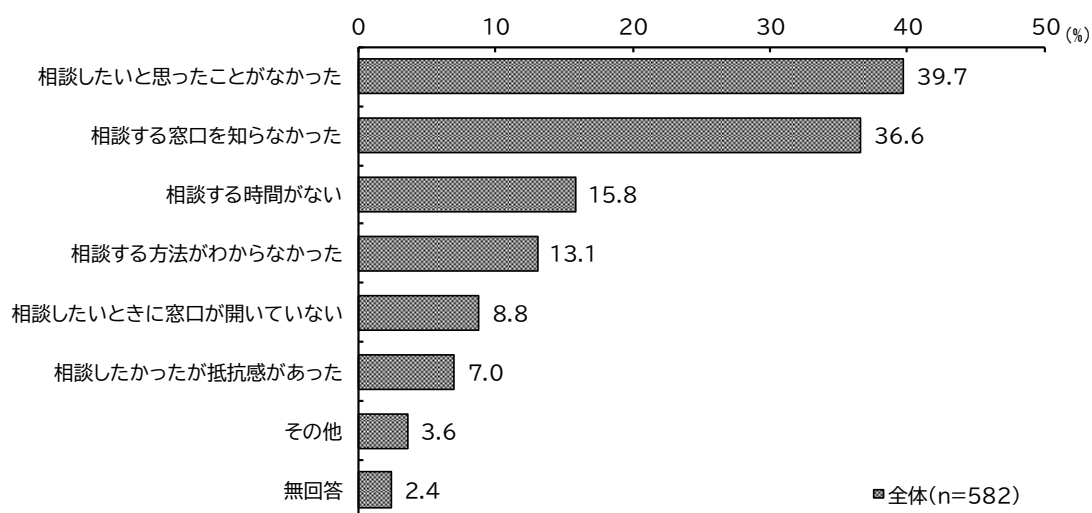


※平成 30 年度は、選択肢が「ある」、「ない」となっている。

(6)総合支所の子ども家庭支援センター窓口を利用しなかった理由(問 28-1)

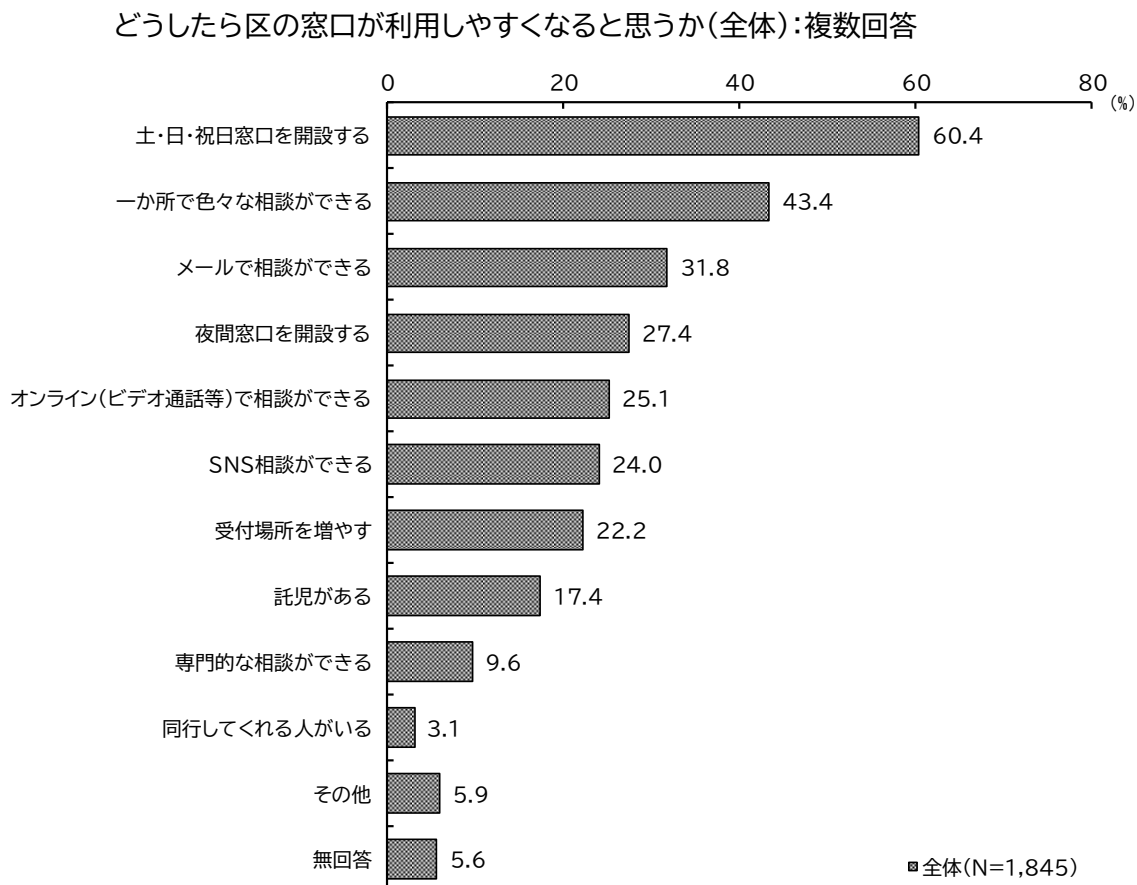
問 28 で「2. 利用したことがない」と回答した人に、総合支所の子ども家庭支援センター窓口を利用しなかった理由についてたずねたところ、「相談したいと思ったことがなかった(39.7%)」が最も高く、「相談する窓口を知らなかった(36.6%)」、「相談する時間がない(15.8%)」が続いている。

総合支所の子ども家庭支援センター窓口を利用しなかった理由(全体):複数回答
<問 28 で「2. 利用したことがない」と回答した人>



(7) どうしたら区の窓口が利用しやすくなると思うか(問 28-2)

どうしたら区の窓口が利用しやすくなると思うかは、「土・日・祝日窓口を開設する(60.4%)」が最も高く、「一か所で色々な相談ができる(43.4%)」、「メールで相談ができる(31.8%)」が続いている。

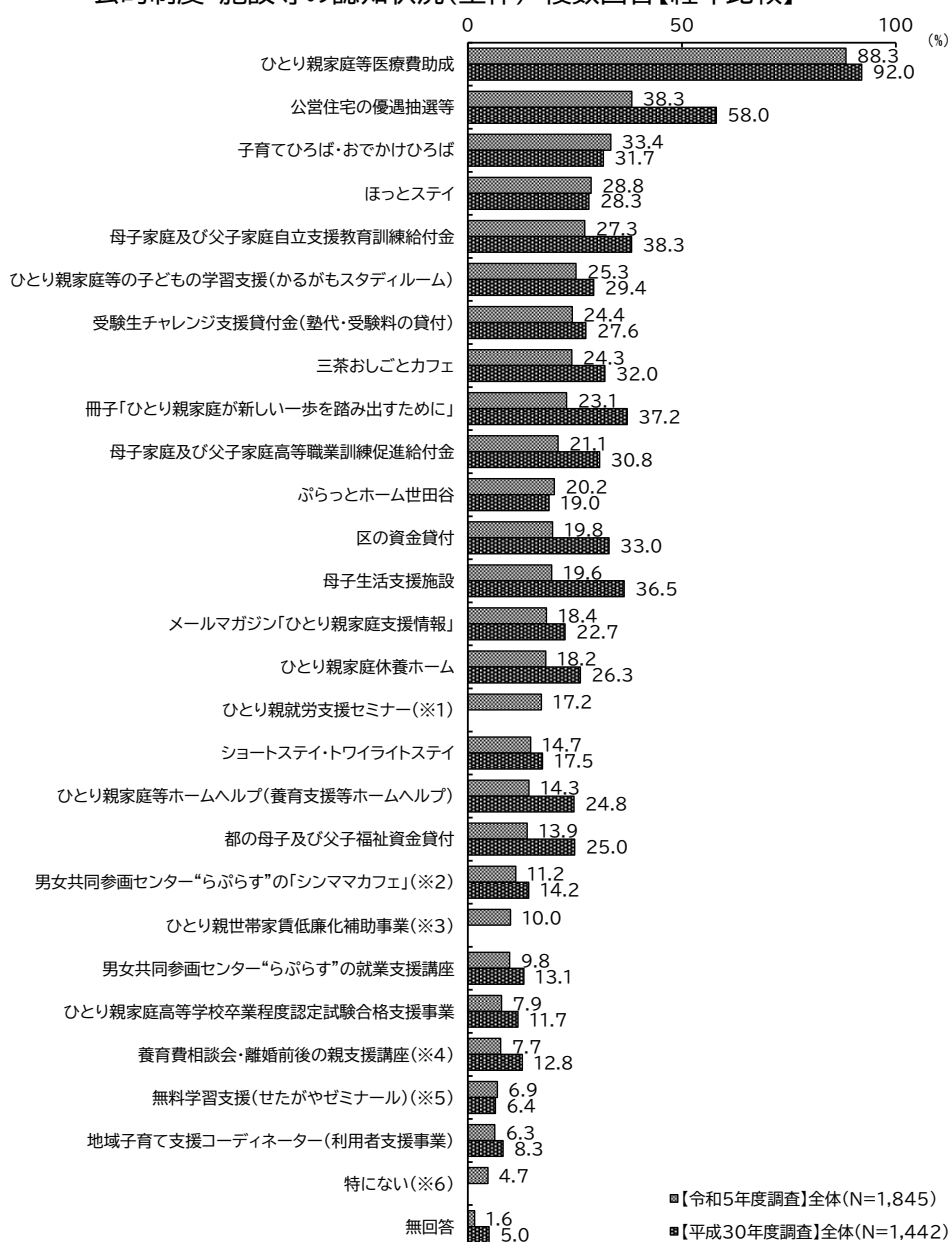


(8) 公的制度・施設等の認知状況(問 29)

公的制度・施設等の認知状況は、「ひとり親家庭等医療費助成(88.3%)」が最も高く、「公営住宅の優遇抽選等(38.3%)」、「子育てひろば・おでかけひろば(33.4%)」が続いている。

平成 30 年度調査と比較すると、令和5年調査で認知度が 10 ポイント以上下がったものは、「公営住宅の優遇抽選等(58.0%→38.3%)」、「母子家庭及び父子家庭自立支援教育訓練給付金(38.3%→27.3%)」、「冊子「ひとり親家庭が新しい一歩を踏み出すために」(37.2%→23.1%)」、「区の資金貸付(33.0%→19.8%)」、「母子生活支援施設(36.5%→19.6%)」、「ひとり親家庭等ホームヘルプ(養育支援等ホームヘルプ)(24.8%→14.3%)」、「都の母子及び父子福祉資金貸付(25.0%→13.9%)」と7項目ある。

公的制度・施設等の認知状況(全体):複数回答【経年比較】



平成 30 年度は、選択肢が以下のとおりとなっている

※2:男女共同参画センター「らぶらす」の「シングルマザーのほっとサロン」、※4:養育費相談会、

※5:子どもの居場所(せたがやゼミナール)

また、平成 30 年度は※1、※3、※6は非聴取

第2章 調査結果

回答者別(問1)にみると、父親は母親と比べて、すべての公的制度・施設等の認知の割合が低い。特に、「ひとり親家庭等医療費助成」、「子育てひろば・おでかけひろば」の割合は 20 ポイント以上低くなっている。

公的制度・施設等の認知状況:(全体、回答者別)

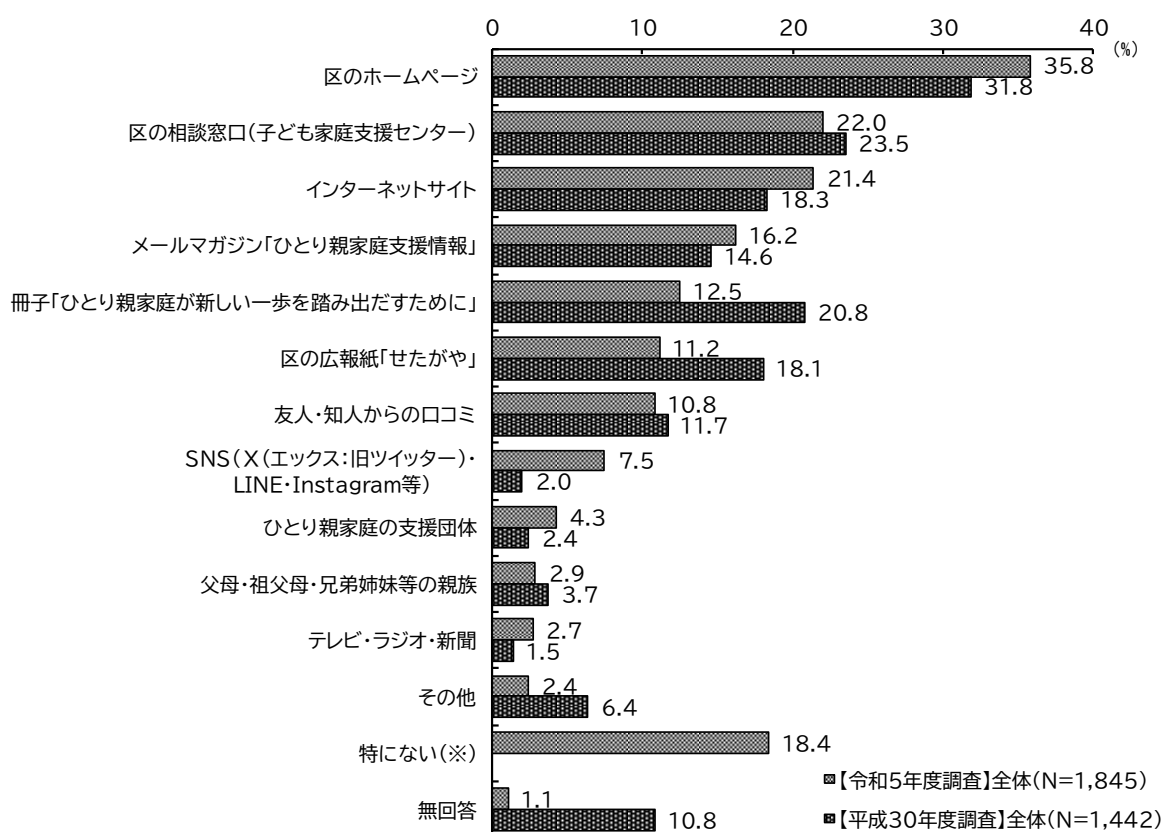
		ひとり親家庭等医療費助成	公営住宅の優遇抽選等	子育てひろば・おでかけひろば	ほっとステイ	母子家庭及び父子家庭自立支援教育訓練給付金	ひとり親家庭等の子ども学習支援(かかるがもスタディールーム)	受験生チャレンジ支援貸付金(塾・受験料の貸付)	三茶おしごとカフェ	冊子「ひとり親家庭が新しい一歩を踏み出すために」	母子家庭及び父子家庭高等職業訓練促進給付金	ぶらっとホーム世田谷	区の資金貸付	母子生活支援施設	メールマガジン「ひとり親家庭支援情報」
全	体 (N=1,845)	88.3	38.3	33.4	28.8	27.3	25.3	24.4	24.3	23.1	21.1	20.2	19.8	19.6	18.4
回答者別	父親 (n= 88)	63.6	20.5	6.8	12.5	9.1	12.5	12.5	10.2	4.5	8.0	13.6	11.4	2.3	8.0
	母親 (n=1,745)	89.6	39.4	34.8	29.7	28.4	25.9	25.1	25.0	24.2	21.8	20.5	20.2	20.5	19.0
	養育者(祖父母等) (n= 9)	77.8	11.1	22.2	0.0	11.1	22.2	11.1	22.2	0.0	11.1	11.1	11.1	22.2	0.0
		ひとり親家庭休養ホーム	ひとり親就労支援セミナー	ティョートステイ・トワイライトス	ひとり親家庭等ホームヘルプ(養育支援等ホームヘルプ)	都の母子及び父子福祉資金貸付	男女共同参画センター「らぶらす」の「シンママカフェ」	ひとり親世帯家賃低廉化補助事業	男女共同参画センター「らぶらす」の就業支援講座	ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業	養育費相談会・離婚前後の親支援講座	無料学習支援(せたがやセミナー)	地域子育て支援コーディネーター(利用者支援事業)	特になし	無回答
全	体 (N=1,845)	18.2	17.2	14.7	14.3	13.9	11.2	10.0	9.8	7.9	7.7	6.9	6.3	4.7	1.6
回答者別	父親 (n= 88)	4.5	6.8	4.5	8.0	9.1	0.0	1.1	0.0	3.4	0.0	3.4	1.1	23.9	5.7
	母親 (n=1,745)	19.0	17.8	15.3	14.7	14.2	11.8	10.5	10.3	8.1	8.1	7.1	6.5	3.7	1.3
	養育者(祖父母等) (n= 9)	11.1	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	11.1

(9) 支援情報の入手先(問 30)

支援情報の入手先は、「区のホームページ(35.8%)」が最も高く、「区の相談窓口(子ども家庭支援センター)(22.0%)」、「インターネットサイト(21.4%)」が続いている。

平成 30 年度調査では、令和5年度と上位2位は同様に「区のホームページ(31.8%)」が最も高く、「区の相談窓口(子ども家庭支援センター)(23.5%)」が続いているが、第3位は「冊子「ひとり親家庭が新しい一歩を踏み出すために」(20.8%)」となっている。

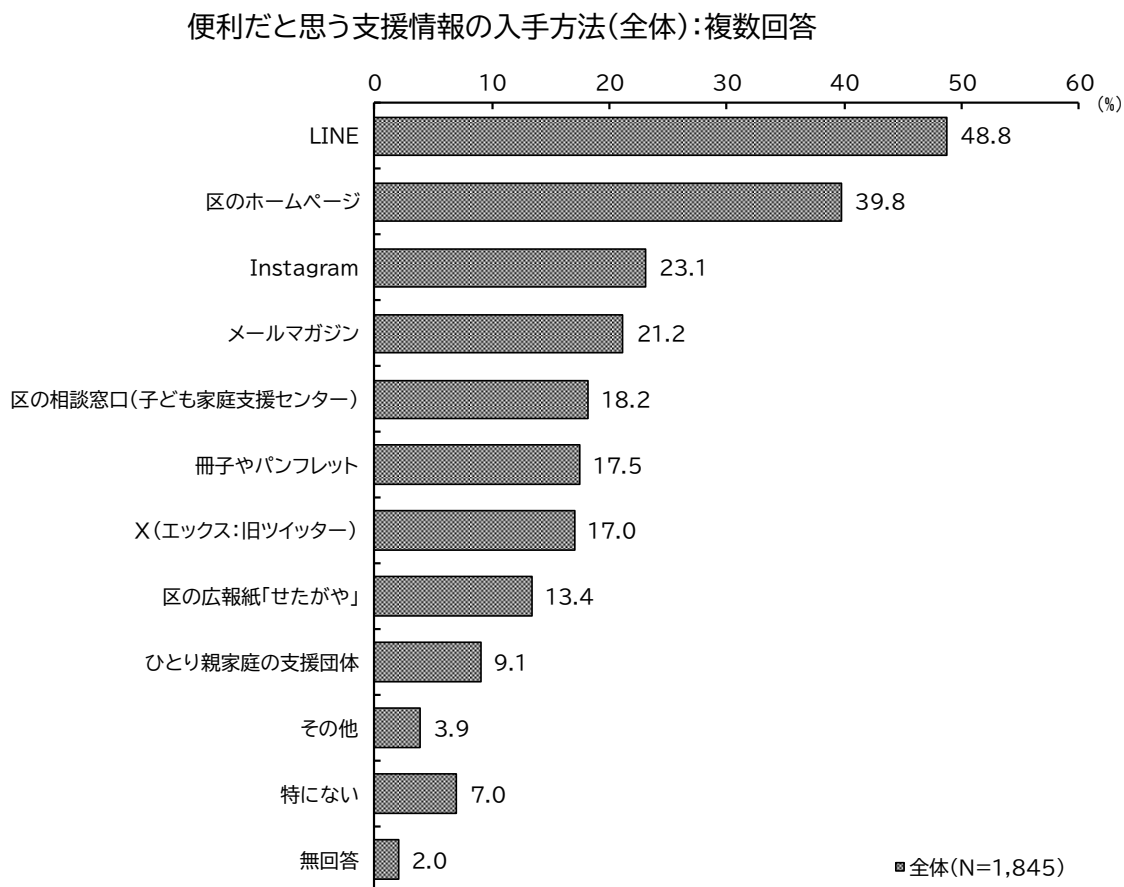
支援情報の入手先(全体):複数回答【経年比較】



※平成 30 年度は、「特にない」は非聴取となっている。

(10)便利だと思う支援情報の入手方法(問 31)

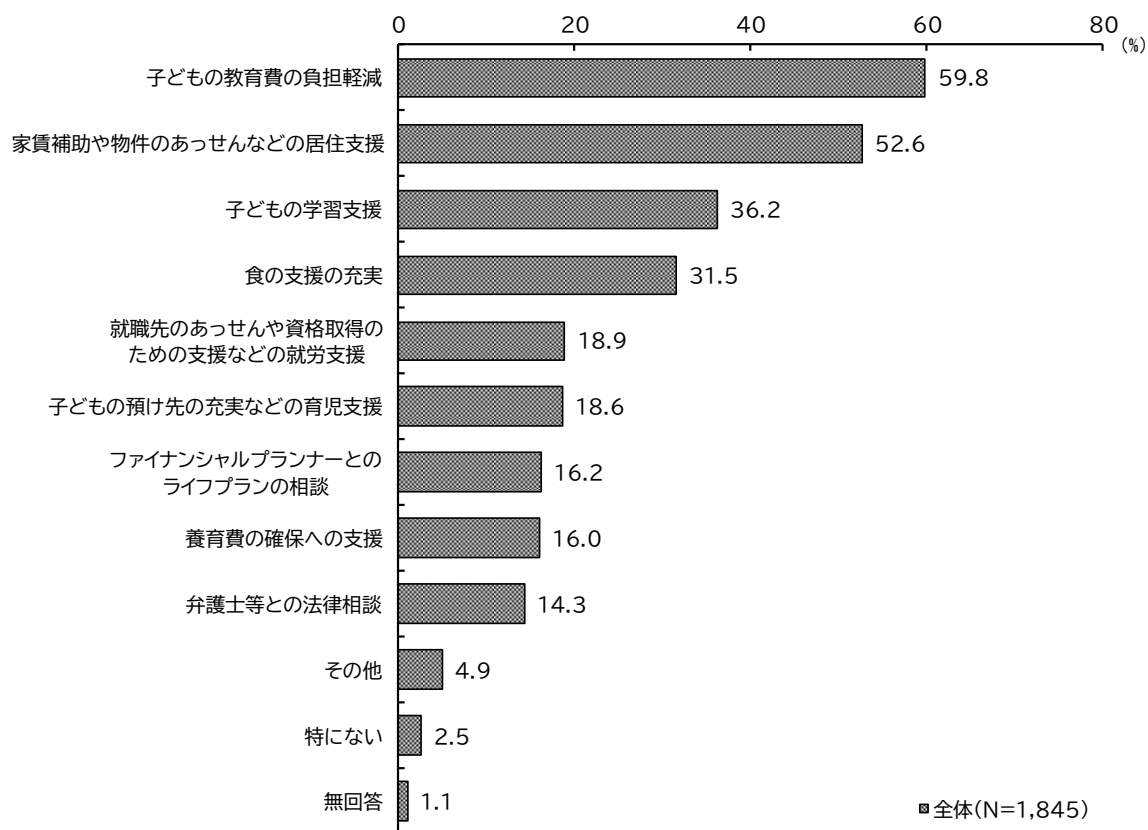
便利だと思う支援情報の入手方法は、「LINE(48.8%)」が最も高く、「区のホームページ(39.8%)」、「Instagram(23.1%)」が続いている。



(11)ひとり親施策の中で、区に特に取り組んでほしいこと(問 32)

ひとり親施策の中で、区に特に取り組んでほしいことは、「子どもの教育費の負担軽減(59.8%)」が最も高く、「家賃補助や物件のあっせんなどの居住支援(52.6%)」、「子どもの学習支援(36.2%)」が続いている。

ひとり親施策の中で、区に特に取り組んでほしいこと(全体):3つまで複数回答



8 自由意見

(1) 悩みや不安、必要と感じる支援等(自由回答)(問 33)

悩みや不安、必要と感じる支援等に関して、自由記述形式でたずねたところ、全体で1,153件の回答があった。以下、分類して一部を紹介する。

1. 経済面のひっ迫や困りごとについて(263件)

◇全般(106件)

- ・ 経済的な不安が常にあります。(母親)
- ・ お金が足りません。体力も足りません。時間も足りません。一番はお金があれば解決します。今後の日本のためには、子ども達にお金をかけてほしいです。(母親)
- ・ 実際は土地建て物のローン返済で利益がでていないのに収入とされ、世帯として母の収入となり、扶養手当が受け取れていない。(母親)
- ・ 子どもを通院させるときに、どちらか1人を留守番させることが難しくタクシーを利用しなければならず経済的につらい。(母親)
- ・ ファミリーサポートはとても助かりましたが その費用の支出は収入が少ない中から捻出するのが大変でした。(母親)
- ・ 離婚に対しての取組はいろいろあるが、死別に対しての取り込みが不足しているように感じている。特に遺族年金は受給しているものの、生前の収入とは雲泥の差である。遺族年金を受給しているから児童扶養手当等が受給できないのはつらいです。(母親)
- ・ 毎日使う洗剤やカイロ、ティッシュ、トイレットペーパーや毎月大きな負担となる生理用品やおりものシートなど日用品の援助があると大変助かります。(母親)

◇所得制限(79件)

- ・ ひとり親の補助金を決めるボーダーラインが低すぎると感じる。臨時で支給される特別給付金も含め、ギリギリで受け取れないことが多い。(母親)
- ・ 収入によって補助が受けられないが、収入のある分、支出もそれなりにあり、税金も多く納めているのに補助が受けられないのは不公平感しか感じない。(母親)
- ・ 住民票の住所が同じ姉妹とは世帯を分けているのに、姉妹の前年の所得が多かったため児童扶養手当が受け取れず大変困った。(母親)
- ・ 自分が年収を頑張ってあげたら、すべてのサポートは対象外になった。むしろ引かれる社会保険料だけ増えて還元されない。(父親)
- ・ 離婚当時は手当を満額もらっていたが、5年で収入をだいぶ増やしたので今は手当はほぼもらっていない。(母親)
- ・ ひとり親になって児童手当の額を知り、あまりの少なさに驚きました。その後、仕事を頑張って給与が上がると手当が減っていくのはとても悲しかった。(母親)

◇養育費(36件)

- ・ 養育費の8割を収入に加えるのをやめるなど対策してほしいです。(母親)
- ・ 確実とも言えない養育費を計算に入れると、収入減による支援金ももらえなくなる。(母親)
- ・ 養育費について。裁判で養育費を取り決めても、支払いがないため、強制執行を何度かしています。小さい子どもがいる家庭が自力で手続きを行うのは、正直難しいと感じました。(母親)
- ・ 区の窓口で養育費(家庭裁判所など)の件で、マンツーマンで相談させていただきました。分からないことだらけでしたので、教えていただき心強かったです。(母親)

◇食(24件)

- ・ 食への支援が必要。以前は知り合いの紹介でフードパントリーへ食材を持っていた。(母親)
- ・ 食事を買うための支援。現金ではなく、牛乳1Lパック。食パン〇袋。玉子10ヶ入〇パック。など、チケットでスーパーで使えたりするといいなと思います。(母親)
- ・ コロナ禍の食の配給はとても助かりました。(母親)
- ・ 現地に取りに行くのではなく、配達ですとさらに助かります。(母親)
- ・ お米の定期便は助かりました。ありがとうございました。(母親)

◇物価高(18件)

- ・ 物価が上がり経済がどんどん厳しくなっている。この先生活できるのか不安になる。(母親)
- ・ 物価高でいろいろ値上がりしてる中で収入も限られているのに年間の収入オーバーで手当がもらえないのは非常にきつい。(母親)

2. 学費・教育費に関して(146件)

- ・ 子どもの進路(高校)今の状況では、都立しか行かせられません。いくら高校無償とはいえ、私立は制服代、部費等すべてが高額なので無理です。(母親)
- ・ 大学受験にむけての費用。塾なども行かせてあげたいが、高すぎて行っていいよと言ってあげられない。(母親)
- ・ 離婚したときに子どもが中高大学生だったので、子どもの教育費が1番の問題でした。親の経済的理由に左右されずに子どもが教育を受けられる仕組みがあればと切に願います。(母親)
- ・ 受験生チャレンジ支援貸付金に問い合わせしましたが、“該当しない”とのことでした。収入面の要件はクリアでしたが、子どもの進学のために節約をかさねた結果、貯金で該当なしとなりました。これには正直ショックでした。(母親)
- ・ 児童手当等には非常に感謝している。すべて教育費に使用することで十分な機会を与えられていると思う。(母親)

3. 住宅・ライフラインに関して(138件)

- ・ 学校を変わず、引っ越しがしたい。でも土地柄、安い賃貸物件がない。多少なら、学区外に引っ越しても、学校を転校せず通わせてほしい。(母親)
- ・ 家賃の負担が苦しいです。都営団地、区営団地を応募してありますがなかなか当たらず貯蓄も無くなりそうです。(母親)
- ・ 区営に住みたいのに当選しない。アパート補助の充実を切に願う。家賃の半分など。(母親)
- ・ 現在、家賃低廉化補助事業対象住宅に住んでいます。支援いただいていることで、実家の近くで生活に不便のない環境に住まいを確保することができ、大変ありがたく、感謝の気持ちが尽きません。(母親)
- ・ 都営住宅などは“18歳”など子どもの年齢が決められていますが、大学進学してからも一緒に住めるようにしていただけるとうれしい。経済的負担の都営・区営も申ししたが当たらなかった。一般の不動産屋なども紹介していただきたい。(母親)
- ・ 母子でシェルターに約1ヶ月半入ったあと母子生活支援施設で次の居所が見つかるまで生活できたことが、自立した生活を安定して送るための土台となったことに感謝しかありません。(母親)

4. 区への対応への感謝(89件)

- ・ 子ども家庭支援センターのワーカーさん、保健師さんにとってもお世話になり、なんとか子どもは高校生になりました。精神的に不安定な状態は続いているのですが、なんとか、日々暮らせています。(母親)
- ・ 世田谷区の援助(お金、医療、食事等々)。本当にありがたく、心が支えられています。心から感謝申し上げます。(母親)
- ・ 子育て支援の窓口で親身になって話を聞いていただいた事、知らなかった支援を教えていただいたので、もっと早く相談に行っていたら良かったと思いました。(母親)
- ・ 離婚届を出した当日、同じ建物内の子ども家庭課に行き、『今自分が受けられる支援は何か』をすべて教えていただき、その場で手続きしました。対応して下さった職員さんには、とても感謝しております。(母親)
- ・ 子どもとの関係の悪化や虐待がエスカレートしていくのでは…と、どうにもならなかった気持ちを優しく聞いてくれた職場の人や学童クラブの先生が子ども家庭支援センターにつなげてくれた。私自身を否定されることなく、話を最後まで聞いてくれたことが冷静に自分のことを見つめ直すきっかけになった。(母親)

5. 就労・キャリアに関して(83件)

- ・ 仕事を変えるにしても、現在の職場のように柔軟に対応してくれる所は少ないので収入アップは見込めない。(母親)
- ・ 仕事のできる制限がかなりかかるので、なかなかキャリアアップは難しいと感じています。(母親)

- ・ 仕事が忙しく様子も勉強もみてあげられない罪悪感があります。(母親)
- ・ 職業資格取得で、ハローワークまで別に行く必要があり、手続きに時間と手間がかかり、初回の講座受講料の負担も大きかったため、時間をかけ独学で資格を取得した。(母親)
- ・ 高等職業訓練促進給付金の制度があったことで今後の自分と子どもの人生について方向転換することができました。(母親)

6. (親と子どもの)病気・医療に関して(78件)

- ・ 自分が病気で倒れたら…子ども一人でどう生きていくのかなといつも不安です。(母親)
- ・ コロナ感染時誰も助けに来れない中、子を見ながら生活することがとても大変で苦労した。(母親)
- ・ 子どもが病気になったときは、睡眠不足や疲れがひどく仕事に障ることがあります。人手があればいいと思います。(母親)
- ・ 必要と感じる施設として病児保育室がもっとあると良いと感じています。区内に施設が少なく予約ができないことがありましたので、施設が増えたら安心と考えます。(父親)
- ・ 医療的ケア児のひとり親は想像を絶する状況です。医療費が無償であっても受診することはできないほど、子育て(子から目を離せない)、サービス時間内に受診できず母子ともに我慢しておりました。(母親)

7. 窓口対応、相談等への希望(66件)

- ・ 役所に連絡、相談したくても、平日の9時から 17 時の間は基本仕事で、連絡ができず、公的手続きがしたいのに全然進みませんでした。(母親)
- ・ 気軽に相談できる窓口が、対面だけでなくオンラインや SNS でもあるといいですね。(母親)
- ・ 世田谷地域でも区役所まで遠いので他の窓口でも受付できたり土曜もやっていたりするとありがたい。(母親)
- ・ 今年、私は、一人で子育てをしている中でガンに罹患しました。そのときにこの相談員は「うそでしょ〜？」と軽い調子で言い、サポートできる支援を調べて連絡がほしいと伝えていましたが、2週間も放置されました。(母親)
- ・ 精神的、肉体的、経済的にも暴力を振るう前夫から子ども3人抱えて逃げたくて必死な思いで相談しているのに、「あなたに働くことは無理だ、一人でそのまま耐えて婚姻関係を続ける」と言われました。もっとおぞましい言葉も言われました。(母親)
- ・ 児童相談所のお世話になってきましたが、担当者が代わってから一度も面談してもらっていない。電話でのやり取りはあるが、疎遠になり、ほぼやり取りがなくなった。(父親)

8. 保育所・保育園・預け先に関して(49件)

- ・ ひとり親なのに保育園に入れず本当に困った。(母親)
- ・ 夜間保育がほしいです。(母親)
- ・ ほっとステイができる場所を増やしてほしい。(母親)

第2章 調査結果

- ・ 18時～20時まで、預かってくれる無料、施設みたいのがあると、ひとり親も気持ちにゆとりが生まれる。(母親)
- ・ ベビーシッターを土日に使いたいと思ったときに国の支援に世田谷区が入っておらずショックでした。(母親)
- ・ 子どものショートステイには大変助けられました。また日中の預け先まで送迎して下さるサービスが普段行き慣れた保育園で過ごせることがとても気が紛れて良かったと思っています。(母親)

9. 子どもの発達に関して(34件)

- ・ ひとり親でとくに子どもに発達障害や精神障害がある場合、フルタイム勤務を諦めてしまう。(母親)
- ・ 子どもが発達障害かもしれないと思ったりするのでそういう支援や相談窓口があるととても助かる。(母親)
- ・ まだ小さく発達が遅い子なので、他人に助けを求めることができない。自分が絶対に倒れてはいけないので常に心配、不安。(母親)

10. 情報提供への希望(31件)

- ・ 子どもを出産して、しばらくは区の支援があることを知りませんでした。離婚してからも、ひとり親に対して知りませんでした。(母親)
- ・ 子どもがひとり親家庭だという理由で悲しむことのないように安価で様々な経験をできるようなイベントには積極的に参加したいと思っはいるが、情報をどう探せばよいのかわからない。(母親)
- ・ 税金のことがよくわからない。ひとり親になったらやるべき手続きが1つにまとまっている情報サイトや本(冊子)がほしい。(母親)

11. 学校に関して(29件)

- ・ 小学校のクラスの人数が多すぎて(40人超え)学校生活できめ細やかな生徒の変化が追えていないような気がする。(母親)
- ・ 子どもが不登校なので心配している、区のほっとスクールに時々参加しているが、これからは心配。(母親)
- ・ ほっとスクールは充実した施設で、スタッフの方もとても細やかなケアをして下さり、安心して通えています。お友達もできて、毎回とても楽しそうに通っていますが、距離が遠くて通室頻度に影響が出てしまうので、小さな通学バスなど通しやすい仕組みがあれば、距離が遠くても安心して通えるかもしれません。(母親)
- ・ PTA 役員辞退の理由に「ひとり親だから」「介護があるから」などが理由にならないというのはどうなのかと毎年思っています。なので「ひとり親で精神疾患があるためできません」という書き方をしますが、細かいパーソナル情報をなぜ開示しなければいけないのかと思います。(母親)

12. その他必要な支援(21件)

- ・ひとり親の支援だけでなく、離婚調停中の隠れひとり親といえる期間の支援がなさすぎる。(父親)
- ・いらなくなった服や子ども用品をもらえる施設を近場に作ってほしい。(母親)
- ・外国籍への子どもたちの支援やコミュニティのサポートなど、もう少し広げてくれたらうれしいです。(父親)
- ・産後ケアセンターがとてもありがたかったので、持ち出しなしでもう少し利用できたらよかった。世田谷子育て利用券だけだとまかなえなかったため。(母親)
- ・ファミリーサポート事業を希望し、手続きも大変だったのですが結局サポートする方がいないと簡単に言われ、では今までの時間を返してほしいと思いました。(母親)
- ・自分はマイノリティーの中でもさらにマイノリティーだと感じる。シングルは圧倒的に女性が多い中、自分は男性である。(父親)
- ・子どもの環境変化のフォローのため学習相談室を就学前と就学後に利用しましたが、平日の日中で予約できる時間も限られているため、土日もやっている小児科にもう少しライトに通えるプレイセラピーやカウンセリングがあるとよいと思います。(母親)
- ・人の手をかりたいことが多々ある。でも近所付き合いなどが上手くできないためそういう関係作りができるような機会があるといいです。(母親)
- ・公的な支援はムダな人やサービスが多い。もっと現実的なサービスが必要。(母親)

13. 放課後の居場所(20件)

- ・ひとり親に限ったことではないですが BOP があるうちは良いが、4年生以上は？(母親)
- ・帰宅時間が遅い時の預け先に困ります。保育園に通っている間は延長保育で過ごせましたが、小学生になると学童に行くにしても時間が早い。(母親)
- ・子どもの預け先の育児支援を増やしてほしいです。世田谷区の学童保育は通常小学校3年生までとなっていますが、希望により、6年生まで延長できると、助かります。夏休みなどの長期休みの間、お仕事があると、長時間1人で留守番させることに不安を感じます。(母親)

14. 親の精神的不安、悩み(19件)

- ・一人ですべての事がかかっていると、時々理由はなくともしんどいと感じることがあるが、常に何かに追われているので、なかなか休んだりホッとすることがない。(母親)
- ・一人で子育てをしていると、自分のことを話せる相手がいなく孤独を感じます。子どもを過度に叱ってしまったり、自己嫌悪に陥ったり、仕事と家事と子どもとの時間を両立させるためにいっぱいいっぱいにもなります。(母親)
- ・自分は、離婚で双極性障害になりました。そういった精神的な支援をしてほしいです。(父親)
- ・実家の親に理解されず関係が断たれ、孤立している人は多い。自分もその一人であり常に緊張と不安の中で生きている。そのような人たちのサポートとなるようなサービスは絶対

第2章 調査結果

に必要と感じる(父親)

15. 虐待・DV に関して(15 件)

- ・ 夫の DV からの避難のためシェルターを利用したかったのですが、職場を変えられないため利用できませんでした。ひとり親になる場合は、正社員の仕事を辞めることはできないので、実家にもつきまといがあり、避難のために新居へ入居できるまでホテルを転々と子連れでするのは精神的金銭的に大変でしたので、親子で避難できる場所があるとよかったです。(母親)
- ・ 交際相手にDV傾向がありひとり親になりましたが、その頃から区の相談窓口には大変お世話になりました。(母親)

16. 交流できる場・当事者団体など(14 件)

- ・ ひとり親家庭の方とのコミュニティがあればうれしいです。シングルマザーの友人が何人かおり、そこから人を紹介してもらって友人が増えたりしたので、心強かったです。(母親)
- ・ みんなで子どもの世話をできるようなひとり親シェアハウスがあると楽しそう。なかなか車が必要なキャンプなど電車を使う以外のレジャーが難しいので、地域から出発するバスツアーの企画があれば参加したい。(母親)

17. ひとり親の差別や偏見に対する支援(11 件)

- ・ ひとり親であることがまわりに知れた際に、「ふれてはいけないこと」のようにされたり、子どもが登校をしづったりすると、「親が離婚してるから」などと言う人がいたり、差別や偏見を感じます。学校での教育も含め、そういった偏見をなくしてほしいです。(母親)
- ・ シンママばかりがフォーカスされ、あまりに父子家庭との不平等がある。父子家庭は相談できない。仕事も当たり前にする。サポートもシンママカフェだの名称を付けていたりするが、ママに限る必要性は何か。(父親)

18. 子どもの孤独に関して(10 件)

- ・ ひとり親のため、学校イベントがお互い寂しい思いをする、などひとり親ならではの悩み。(母親)
- ・ フルタイムで働いているので、帰宅が18:30頃になることが日常のため、娘がよく「帰って来て家に誰もいないことがさみしい。」と言います。とはいえ仕事をしないと生活できないので、勤務時間を短くすることもできずかわいそうだと思っています。(母親)
- ・ 子育ての時間が持てず後悔ばかりしている。子どもたちが大きくなりもう取り戻せないと無力感ばかりが残る。(父親)

19. 周囲への感謝(10 件)

- ・ 保育園のママ友・パパ友が状況を理解してくれて何かと助けてくれるような言葉をかけてくれるのはうれしいです。(母親)

- ・ 離婚してすぐ初めての民生委員の方に精神的にお世話になりました。(母親)
- ・ 世田谷区はひとり親に対してのシステムがしっかりしてありがたいです。それをシングルマザーの友人から聞いて、一步踏み出す決断ができました。(母親)

20. 介護に関して(8件)

- ・ ひとり親でなおかつ両親の介護でストレスと体力の限界。このままだと自分が倒れてしまい、すべてできなくなりそうで怖い。(母親)
- ・ 実家や周りの人に助けてもらってますが、上の世代の人が多いので、これから逆に介護などになったときに私1人で両親を支えながら就業と子育てができないときにどうしたらいいのかなと思っています。(母親)

21. 柔軟な制度運営を望むもの(5件)

- ・ 「ひとり親」との表現をやめてほしいです。離婚しても父も母も親なので、どうすれば別れても2人で育児にしろ金銭的な負担にしろ分担できるのか、そのサポートをする「ふたり親」支援に力を入れてほしいです。(母親)
- ・ 家族と同居していても世帯が別なら完全に別で考えてほしい。(母親)
- ・ 子どもを2人育てていますが1人は大学生(21歳)のため、様々な支援や控除の対象外になってしまう事に社会と実際とのズレを感じます。学生は就労していないので、「子ども」として18歳未満の子と何ら変わらない費用や手がかかり、また、一緒に住めば部屋も必要になります。未就労の子を2人扶養しているのに計算上は「1人」ということにいつも違和感があります。(母親)

22. アンケート(4件)

- ・ 年齢、住んでいる地域、子どもの生年月日、これらを問うたら、個人が特定されるのは明白であまり気持ちの良いものではないように思います。(母親)
- ・ 子どもの成長に合わせて、困ったことがないかを今回のようにアンケートがあると違うと思う。(父親)

23. 面会交流(2件)

- ・ 相手(父親)との面会交流が、日常の中で一番ストレスに感じることです。(母親)
- ・ 父子の交流をもっとさせてあげたいと思うものの相手とのやりとりがうまくいかず、離婚後も大きな負担となりました。(母親)

24. その他(8件)


- ・ 路上喫煙をしている人が世田谷区は多すぎる。子どもの顔に近いのでどうか対策をしてほしい。(母親)
- ・ もっと子育てしやすい社会になってもらいたい。(母親)

資料編

ひとり親家庭アンケート

【ご回答にあたってのお願い】

1. 調査票には、必ずあて名の方が回答してください。
2. 該当する質問には、すべてお答えください。質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、質問文をお読みいただき、ご回答ください。
3. 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。質問によって、○をつける数を（1つ）（いくつでも）などと指定していますので、その範囲内でお答えください。
4. 「父親」や「母親」などの続柄に関する質問は、お子さんとの日常的な関係において、ご回答いただく方が主観的に選びご回答ください。
5. 回答は郵送またはインターネットで行うことができます。

<p>郵送での 回答方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。 2. 回答のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストに投函してください。（切手は不要です。差出人名は無記名で結構です。）
<p>インターネット での回答方法</p>	<p>■パソコン、スマートフォンからご回答いただけます。</p> <p>URL : https://rdc.dstyleweb.com/pwy3/xxmktx/</p> <p>※IDとパスワードは本紙右下に記載があります。</p>  <ol style="list-style-type: none"> 1. 回答内容は自動で保存されるため、回答を途中で中断しても再度ID・パスワードでログインすると、続きから回答できます。 2. インターネットでご回答した場合は調査用紙の提出は不要です。 3. IDは無作為に配布していますので、個人を特定するものではありません。どなたがどのID・パスワードであるかは照合できません。

11月22日（水）までに、ご回答いただくようお願いいたします。

調査の内容などについては下記へお問い合わせください。

せたがやコール 電話 03-5432-3333
午前8時～午後9時（年中無休）

調査主体 世田谷区 子ども・若者部 子ども家庭課

区ホームページ：<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kodomo/010/d00205627.html>

<区ホームページ>



■調査実施機関（調査方法、インターネット回答等に関するお問い合わせ）

株式会社 生活構造研究所

電話：03-6261-7304

（土日、祝日を除く午前10時から午後5時まで）

ID：

パスワード：

資料編

かいとうしゃ うかが

回答者についてお伺いします。

問1 お子さんからみて、あなた(あて名の方)は次のどの立場にあたりますか。(〇は1つ) (N=1,845)

1. 父親	4.8%	3. 養育者(祖父母等)	0.5%	無回答	0.1%
2. 母親	94.6%	4. その他(具体的に:)	0.1%		

問2 あなたの年齢は現在何歳ですか。(〇は1つ) (N=1,845)

1. 10歳代	0.1%	4. 30~34歳	6.6%	7. 45~49歳	26.9%	無回答	0.2%
2. 20~24歳	0.6%	5. 35~39歳	15.2%	8. 50~59歳	22.5%		
3. 25~29歳	2.9%	6. 40~44歳	23.4%	9. 60歳代以上	1.6%		

問3 あなたがお住まいの地域はどこですか。(〇は1つ) (N=1,845)

地域	(参考) 町名
1. 世田谷 29.8%	世田谷、若林、上馬、三軒茶屋、太子堂、野沢、下馬、三宿、池尻1-3丁目、池尻4丁目(1~32番)、駒沢1-2丁目、弦巻、桜、桜丘、経堂、宮坂
2. 北沢 13.5%	北沢、代沢、池尻4丁目(33~39番)、大原、羽根木、代田、松原、梅丘、豪徳寺、赤堤、桜上水
3. 玉川 22.7%	上用賀、用賀、桜新町、新町、駒沢3-5丁目、駒沢公園、深沢、等々力、中町、玉川台、瀬田、玉川、上野毛、野毛、玉堤、尾山台、玉川田園調布、奥沢、東玉川
4. 砧 20.9%	船橋、千歳台、祖師谷、砧、成城、喜多見、大蔵、砧公園、岡本、鎌田、宇奈根
5. 烏山 12.9%	北烏山、南烏山、給田、上祖師谷、粕谷、八幡山、上北沢

無回答 0.2%

問4 あなたが同居している家族はどなたですか。(〇はいくつでも) (N=1,845)

1. 自分子ども	96.9%	3. 自分母	18.6%	5. その他(具体的に)	2.4%
2. 自分父	10.8%	4. 自分兄弟姉妹	4.3%	無回答	0.2%

じゅうきょ うかが

住居についてお伺いします。

問5 あなたの住居は次のうちどれですか。(〇は1つ) (N=1,845)

1. 自分名義の持ち家	} → 問6へ	14.0%
2. 自分の親族名義の持ち家		23.1%
3. 賃貸マンション・アパート	} → 問5-1へ	45.6%
4. 都営または区営住宅		8.7%
5. 公社・公団住宅		2.0%
6. 給与住宅(社宅・公務員住宅など)		1.5%
7. 母子生活支援施設		0.7%
8. その他(具体的に:)	→ 問6へ	4.2%
無回答		0.3%

問5の「3」「4」「5」「6」「7」を選ばれた方にお伺いします。

問5-1 住居を借りる際に最も必要とする設備はありますか。(○は1つ) (n=1,079)

1. エアコン	49.1%	5. お風呂の追いだき機能	10.6%
2. オートロック	5.4%	6. 浴室乾燥機	1.3%
3. モニター付きインターフォン	11.2%	7. その他(具体的に:)	8.6%
4. ガスコンロ	5.6%	8. 特にない	6.8%
		無回答	1.5%

問5-2 住居を借りる際に希望する間取りはありますか。(○は1つ) (n=1,079)

1. 1DK	1.1%	5. 3LDK以上	19.7%
2. 1LDK	7.7%	6. その他(具体的に:)	1.6%
3. 2DK	18.2%	7. 特にない	2.1%
4. 2LDK	48.7%	無回答	0.9%

問5-3 住居を借りる際に困っていること(困ったこと)はありますか。(○はいくつでも)
(n=1,079)

1. 保証人がいないことを理由として契約にいたらない	21.9%
2. 緊急連絡先がないことを理由として契約にいたらない	6.3%
3. 転居費用を支出する経済的余裕がない	57.8%
4. 転居先を探す時間的余裕がない	20.5%
5. 条件(場所、間取り、賃料等)に合った住宅が見つからない	66.1%
6. その他(具体的に:)	12.0%
7. 特にない	8.2%
無回答	0.7%

問5-4 今後、どのような居住に関する支援が必要だと思えますか。(○はいくつでも)
(n=1,079)

1. 家賃に対する経済的補助	87.7%
2. 保証人(保証会社を含む)に関する制度の充実	38.4%
3. 緊急連絡先のない場合に対応できる仕組み	18.7%
4. 今後のあなたとお子さんの暮らし方を想定した住宅に関する相談	30.9%
5. その他(具体的に:)	8.0%
6. わからない	2.5%
無回答	0.8%

→問6へ

すべての方にお伺いします。

問6 住居を選択する際に優先することは何ですか。(〇はいくつでも) (N=1,845)

1. 子どもの学校・保育園が近い	62.7%	8. 以前住んでいた時の良い体験や思い出がある	8.7%
2. 職場に近い	36.3%	9. 子どもの学校や保育園などが変わらないで済む	41.6%
3. 立地条件が良い(駅やスーパーが近等)	47.8%	10. 家賃が安い	55.1%
4. 親や親戚が近くに住んでいる	25.8%	11. 住宅設備	46.6%
5. 親等の介護のため	5.5%	12. 間取り	52.8%
6. 子どもが遊びに行く場所が近くにある	17.8%	13. その他(具体的に:)	8.5%
7. あなたや子どものことを 気にかけてくれる人が近くにいる	24.6%	14. 特にない	1.0%
		無回答	2.4%

問6-1 家賃や住宅ローン代など、あなたが毎月負担している住居費はいくらですか。(〇は1つ)

(N=1,845)

1. 負担額なし	18.9%	6. 11万円～14万円未満	14.8%
2. 2万円未満	4.8%	7. 14万円～17万円未満	5.9%
3. 2万円～5万円未満	15.0%	8. 17万円～20万円未満	1.4%
4. 5万円～8万円未満	15.8%	9. 20万円以上	0.9%
5. 8万円～11万円未満	21.8%	無回答	0.8%

ふだんの生活についてお伺いします。

問7 ひとり親になったとき、あなたの年齢は何歳でしたか。(〇は1つ)

年齢がはっきりしないときは、おおよその年齢を選択してください。(N=1,845)

1. 10歳代	0.6%	4. 30～34歳	20.9%	7. 45～49歳	12.0%
2. 20～24歳	4.7%	5. 35～39歳	23.8%	8. 50～59歳	5.4%
3. 25～29歳	9.8%	6. 40～44歳	22.0%	9. 60歳代以上	0.6%
				無回答	0.2%

問8 ひとり親になったとき、一番下のお子さんは何歳でしたか。年齢がはっきりしないときは、おおよその年齢をご記入ください。(〔 〕に数字を記入) (N=1,845)

末子の年齢 → [] 歳 平均4.7歳

問9 ひとり親になった理由は何ですか。(〇は1つ)

(N=1,845)

1. 死別	→ 問12へ	10.7%
2. 離婚	→ 問10へ	73.8%
3. 未婚	→ 問9-1へ	12.8%
4. 遺棄・行方不明	→ 問12へ	0.4%
5. その他(具体的に:)	→ 問12へ	2.0%
無回答		0.4%

問9の「3. 未婚」を選ばれた方にお伺いします。

問9-1 子どもの認知はされていますか。(〇は1つ) (n=236)

1. 認知されている	} → 問10へ	39.4%
2. 認知されていない		55.1%
3. その他(具体的に:)	→ 問12へ	2.1%
無回答		3.4%

問9の「2」または問9-1の「1」「2」を選ばれた方にお伺いします。

問10 養育費についてお伺いします。

お子さんの親(相手方)から養育費を受け取っていますか。(〇は1つ) (n=1,584)

1. 受け取っている → 問10-1へ	30.1%	2. 受け取っていない → 問10-4へ	53.9%
		無回答	16.1%

問10の「1. 受け取っている」を選ばれた方にお伺いします。

問10-1 養育費は月額に換算すると、総額でおおよそいくらになりますか。(〇は1つ)

(n=476)

1. 1万円未満	2.5%	5. 7万円～9万円未満	11.3%
2. 1万円～3万円未満	16.2%	6. 9万円～11万円未満	10.7%
3. 3万円～5万円未満	28.4%	7. 11万円～13万円未満	4.4%
4. 5万円～7万円未満	18.9%	8. 13万円以上	7.4%
		無回答	0.2%

問10-2 養育費について何か取り決めをしていますか。(〇は1つ)

(n=476)

1. 調停や審判など、裁判所における取り決めをしている	34.9%
2. 公正証書により取り決めている	30.9%
3. 上記1・2以外の書面で取り決めている	14.3%
4. 口頭で取り決めている(口約束)	16.0%
5. 取り決めをしていない	3.6%
6. その他(具体的に:)	0.4%
無回答	0.0%

問10-3 養育費の支払いは約束どおり履行されていますか。(〇は1つ)

(n=476)

1. 定期的に全額履行されている	77.1%	4. 不定期ながら一部履行されている	6.5%
2. 定期的に一部履行されている	9.2%	5. ほとんど履行されていない	1.1%
3. 不定期ながら全額履行されている	5.9%	無回答	0.2%

→ 問11へ

問10の「2. 受け取っていない」を選ばれた方にお伺いします。

問10-4 養育費を受け取っていない理由は何ですか。(〇はいくつでも) (n=853)

1. 養育費について取り決めをしていなかった	17.0%
2. 養育費について取り決めをしたが、履行されていない	26.0%
3. 養育費を請求できることを知らなかった	1.3%
4. 自分の収入金額から、養育費をもらう必要は無いと判断した	1.9%
5. 相手方に支払い能力がない・なかった	36.6%
6. 相手方が支払いを拒否した	21.6%
7. (自分が)もう相手方と関わりたくなかった	34.5%
8. 養育費をもらうことで、相手方に子どもと関わってほしくなかった	17.7%
9. 相手方と連絡がとれない	14.3%
10. その他 (具体的に:)	11.3%
11. 特にない	5.2%
無回答	0.2%

→問11へ

問11 お子さんと、お子さんの親(相手方)との面会等の状況についてお伺いします。(〇は1つ)

(N=1,845)

1. 子どもだけ、相手方と会っている	→ 問11-2へ	22.8%
2. 子どもと自分が一緒に、相手方と会っている		14.3%
3. 子どもは、相手方と会ってはいないが、電話やメール、SNS等で連絡をしている	→ 問11-1へ	2.5%
4. 子どもも自分も、相手方と会ってはいないが、電話やメール、SNS等で連絡はしている		6.8%
5. 子どもも自分も、相手方と会っていないし、電話やメール、SNS等で連絡もしていない		33.8%
6. その他 (具体的に:)		5.6%
無回答		14.2%

問11の「3」「4」「5」を選ばれた方にお伺いします。

問11-1 お子さんの親（相手方）と会っていない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

(n=795)

1. 相手が養育費を支払わない又は支払えないから	22.3%
2. 相手と関わりたくないから	55.2%
3. 子どもが会いたがらないから	34.3%
4. 相手が会うことを求めているから	44.0%
5. 塾や学校の行事で子どもが忙しいから	4.7%
6. 面会することによって子どもが精神的又は身体的に不安定になるから	18.5%
7. 相手に暴力などの問題行動があるから	18.2%
8. 子どもの連れ去りや虐待の可能性があるから	11.6%
9. 自分の親や兄弟姉妹が反対しているから	4.3%
10. 会うための安全な場所がないから	5.4%
11. 相手が結婚したから	8.9%
12. 面会の日時や場所等を相手方と調整することが大変だから	9.6%
13. その他（具体的に：)	12.8%
14. 特にない	3.4%
無回答	1.6%

→問11-2へ

問11の「1」「2」「3」「4」「5」「6」を選ばれた方にお伺いします。

問11-2 面会交流について、何か取り決めをしていますか。（〇は1つ） (n=1,583)

1. 調停や審判など、裁判所における取り決めをしている	16.0%
2. 上記1以外の書面で取り決めている	16.0%
3. 口頭で取り決めている(口約束)	11.4%
4. 取り決めをしていない	49.4%
5. その他（具体的に：)	3.2%
無回答	4.0%

仕事についてお伺いします。

問12 現在、仕事をしていますか。(○は1つ) (N=1,845)

- | | | | |
|--------------------|-------|---------------------|-------|
| 1. 仕事をしている →問12-1へ | 87.7% | 2. 仕事をしていない →問12-5へ | 11.4% |
| | | 無回答 | 0.9% |

問12の「1. 仕事をしている」を選ばれた方に、現在の就業状況をお伺いします。

問12-1 どのような雇用形態ですか。(○はいくつでも) (n=1,618)

- | | | | |
|--------------|-------|--------------------|-------|
| 1. 正社員・正規職員 | 42.2% | 4. 自営業 (フリーランスを含む) | 16.5% |
| 2. 契約社員・派遣社員 | 15.5% | 5. その他 (具体的に:) | 1.8% |
| 3. パート・アルバイト | 27.4% | 無回答 | 0.2% |

問12-2 就業時間等はどのくらいですか。(〔 〕に数字を記入) (n=1,618)

※仕事を掛け持ちしている場合は、合計時間を記入してください。

※シフト勤務などの場合は、直近1か月間で最も多い時間(日数)をご記入ください。

- | | | | |
|---------------|---|--------|---------|
| ・ 1日の就業時間 | → | [] 時間 | 平均7.7時間 |
| ・ 1週間あたりの就業日数 | → | [] 日 | 平均5.5日 |
| ・ 平均的な帰宅時間 | → | [] 時 | |
- ※24時間表記でご記入ください。(例：午後7時→19時)

問12-3 現在の仕事を選んだとき、何を優先して決めましたか。(○は3つまで) (n=1,618)

- | | | | |
|-----------------|-------|---------------------|-------|
| 1. 労働時間が希望に合うこと | 43.1% | 6. 資格や技術を生かせること | 26.8% |
| 2. 収入額 | 24.6% | 7. 社会保険等が完備されていること | 21.4% |
| 3. 勤務地が自宅から近いこと | 39.4% | 8. 子どもが病気のとき休みやすいこと | 30.3% |
| 4. 在宅で勤務できること | 11.6% | 9. その他 (具体的に:) | 7.7% |
| 5. 仕事内容 | 36.8% | 無回答 | 0.1% |

問12-4 現在の仕事を今後も続けたいと考えていますか。(○は1つ) (n=1,618)

- | | | | | | |
|---------|-------|--------------|-------|---------------|------|
| 1. 続けたい | 70.0% | 2. できれば転職したい | 28.5% | 3. 今後は就業したくない | 1.1% |
| →問14へ | | →問12-6へ | | →問14へ | |
| | | | | 無回答 | 0.5% |

問12の「2. 仕事をしていない」を選ばれた方にお伺いします。

問12-5 現在の状況をお伺いします。(○はいくつでも) (n=211)

- | | | | |
|------------------|-------|---------------------|-------|
| 1. 就職活動中 | 35.1% | 5. 親等の介護に専念中 | 8.5% |
| 2. 資格等を取得するため勉強中 | 15.2% | 6. 同居の親や兄弟姉妹の家事手伝い中 | 5.7% |
| 3. 学業に専念中 | 4.7% | 7. 病気療養中 | 41.2% |
| 4. 育児に専念中 | 29.9% | 8. その他 (具体的に:) | 15.2% |
| | | 無回答 | 1.9% |

→問12-6へ

問12の「2. 仕事をしていない」または問12-4で「2. できれば転職したい」を選ばれた方にお伺いします。

問12-6 今後、希望する就業状況についてお伺いします。どのような雇用形態を希望しますか。

(○は1つ) (n=672)

1. 正社員・正規職員	58.6%	4. 自営業	9.5%
2. 契約社員・派遣社員	5.7%	5. その他 (具体的に:)	4.0%
3. パート・アルバイト	14.4%	無回答	7.7%

→問13へ

問12-4の「2」または問12-6の「1」「2」「3」「4」「5」を選ばれた方にお伺いします。

問13 新しく仕事を始めようとするとき、必要だと感じる支援は何ですか。(○はいくつでも)

(n=653)

1. 条件に合う仕事のあっせん	61.4%	7. ハローワーク等への同行	2.9%
2. 職業訓練の機会が増えること	26.3%	8. 就職まで寄り添ってサポートしてくれる相談員	21.3%
3. 職業訓練中の経済的支援	39.8%	9. 今後の子育てと暮らしと仕事のことであなたと一緒に考えてくれる支援	36.4%
4. 就職活動や職業訓練中の子どもの保育	13.9%	10. その他 (具体的に:)	5.7%
5. 就職のための適性診断	14.5%	11. 必要だと感じる支援はない	9.8%
6. 履歴書の書き方の指導など	8.1%	無回答	2.5%

→問14へ

すべての方にお伺いします。

問14 あなたの最終学歴を教えてください。(○は1つ)

(N=1,845)

1. 中学校	1.4%	4. 高等専門学校	1.5%	7. 大学	33.0%
2. 高校中退	3.0%	5. 専修学校・各種専門学校	20.8%	8. 大学院	2.5%
3. 高校	20.1%	6. 短期大学	15.6%	9. その他 (具体的に:)	1.5%
				無回答	0.7%

資料編

問15 ①現在所持している資格又は技術と、②これから取得したい資格又は技術は何ですか。
 下の選択肢から4つまで選んで、数字で回答してください。
 特にない方は「22」とご記入ください。(N=1,845)

①現在所持している資格又は技術

--	--	--	--

②これから取得したい資格又は技術

--	--	--	--

《選択肢》

	現在所持している資格又は技術	これから取得したい資格又は技術		現在所持している資格又は技術	これから取得したい資格又は技術
1. 看護師・准看護師	3.7%	2.9%	12. 介護支援専門員(ケアマネジャー)	0.7%	3.1%
2. 介護福祉士	3.6%	3.2%	13. 薬剤師	0.3%	2.0%
3. 保育士	6.4%	4.2%	14. 医療事務	5.3%	9.1%
4. 理学療法士・作業療法士	0.2%	1.6%	15. 教員免許(幼稚園教諭含む)	6.8%	1.4%
5. 保健師・助産師	0.5%	0.8%	16. 宅地建物取引士	1.8%	5.5%
6. 理容師・美容師	3.5%	0.9%	17. パソコン	7.9%	13.1%
7. 社会福祉士・精神保健福祉士	0.8%	5.3%	18. 大型・第2種自動車免許	1.5%	1.3%
8. 歯科衛生士	0.8%	1.5%	19. 簿記	10.0%	7.8%
9. 調理師・製菓衛生師	3.4%	3.3%	20. 社会保険労務士	0.3%	3.5%
10. 栄養士	1.8%	4.3%	21. その他(具体的に: 修了(旧ホームヘルパー1級・2級)	13.7%	7.3%
11. 実務者研修・介護職員初任者研修課程	6.7%	1.2%	22. 特にない 無回答	36.0%	38.7%
				8.1%	14.1%

経済状況についてお伺いします。

問16 現在、どのような収入等で生計を立てていますか。また、収入等のうち、大きな割合を占めるものは何ですか。
 下の選択肢から割合の高い順に5つまで選んで、数字で回答してください。(N=1,845)

割合の高い順

--	--	--	--

《選択肢》 ※割合の高い順に関係なく選ばれた割合を掲載

1. 就労収入	86.8%	8. 母子・父子福祉資金等の公的な福祉資金の貸付	2.6%
2. 子どもの親(相手方)からの養育費	30.6%	9. 金融機関からの借り入れ	5.3%
3. 児童扶養手当等の公的手当	75.0%	10. 親・兄弟姉妹からの支援	20.8%
4. 高等職業訓練促進給付金等の公的支援	1.8%	11. 友人・知人からの支援	1.6%
5. 生活保護	4.0%	12. 蓄えを取り崩す	50.3%
6. 年金(遺族年金を含む)	10.6%	13. その他(具体的に: 無回答	6.7%
7. 生命保険	3.8%		0.9%

問17 年間の世帯の総収入（養育費や児童手当・児童扶養手当等全ての収入を含みます。税入）はどのくらいですか。また、年間の総収入のうち、就労収入はどのくらいですか。下の選択肢から1つだけ選んで、数字で回答してください。（N=1,845）

①年間の世帯の総収入	②年間の総収入のうち、就労収入

《選択肢》

	年間の世帯の総収入	就労収入	年間の総収入のうち、	年間の世帯の総収入	就労収入	年間の総収入のうち、	年間の世帯の総収入	就労収入	年間の総収入のうち、
1. 0～50万円未満	2.8%	11.3%	7. 300～350万円未満	12.1%	9.6%	13. 600～650万円未満	2.1%	1.3%	
2. 50～100万円未満	3.8%	6.3%	8. 350～400万円未満	10.5%	7.7%	14. 650～700万円未満	1.4%	0.4%	
3. 100～150万円未満	5.0%	10.0%	9. 400～450万円未満	8.0%	4.9%	15. 700～750万円未満	0.7%	0.2%	
4. 150～200万円未満	9.8%	10.7%	10. 450～500万円未満	5.6%	3.4%	16. 750～800万円未満	0.7%	0.2%	
5. 200～250万円未満	12.1%	12.5%	11. 500～550万円未満	4.0%	3.1%	17. 800万円以上	0.9%	0.3%	
6. 250～300万円未満	14.5%	10.9%	12. 550～600万円未満	2.4%	1.7%	無回答	3.6%	5.3%	

問18 ①家計の中で多くを占める費用は何ですか。また、②もっとお金をかけたいと思う費用は何ですか。下の選択肢から選んで、数字で回答してください。（N=1,845）

①家計の中で多くを占める費用 (割合の高い順)	②もっとお金をかけたいと思う費用 (優先順位の高い順)

《選択肢》 ※割合の高い順で一番目に選ばれた割合を掲載

	占める費用	家計の中で多くを占める費用	もっとお金をかけたいと思う費用	占める費用	家計の中で多くを占める費用	もっとお金をかけたいと思う費用
1. 食費	28.2%	17.0%	7. 子どもの塾・習い事代など	6.1%	36.3%	
2. 家賃（住宅ローン含む）	49.0%	5.9%	8. レジャー・娯楽費	0.2%	16.0%	
3. 光熱水費（電気・ガス・水道）	1.2%	0.3%	9. 通信費（電話・インターネット等）	0.4%	0.1%	
4. 衣服費	0.1%	4.5%	10. ローンや借金など（住宅ローンを除く）	1.1%	0.3%	
5. 医療費	0.1%	0.4%	11. その他(具体的に：)	1.0%	1.6%	
6. 育児費・教育費* (幼稚園・保育・託児費保育施設・ベビーカー等)学費(小・中学校、高校、大学等)	12.0%	15.2%	無回答	0.5%	2.5%	

*…育児費・教育費は、学校の制服・体操着代などを含む

子育てについてお伺いします。

問19 お子さんは何人いらっしゃいますか。数字で回答してください。
(20歳未満のお子さんについてお答えください。)

お子さんの人数 → [] 人 平均1.4人

問19-1 お子さんの生年月を数字で回答し、性別、同居の有無、学齢・就学・就労状況等について、あてはまる答えの番号に○をつけてください。
(20歳未満のお子さんについてお答えください。)

※専修学校・各種専門学校、短大に在籍しているお子さんがいる場合は、「6. 大学生等」に○をつけてください。

	性別	生年月・同居	就学・就労状況等
1 ひとり 目 (n=1,831)	1. 男 47.8% 2. 女 50.4% 無回答 1.7%	西暦 ____年 ____月 生 1. 同居 94.7% 2. 別居 3.2% 無回答 2.1%	1. 未就学児 14.2% 2. 小学生 28.6% 3. 中学生 20.4% 4. 高校生 25.7% 5. 高等専門学校 0.9% 6. 大学生等 6.1% 7. 就労 1.9% 8. その他 () 1.5% 無回答 0.7% ※上記2～4と回答した方は、次のあてはまるものに○をつけてください。 (学校の種類 A. 公立 (区立、都立) 64.3% B. 私立 25.2% C. 国立・公立中高一貫校 1.3%) (n=1,368) 無回答 9.1%
2 ふたり 目 (n=675)	1. 男 50.5% 2. 女 47.4% 無回答 2.1%	西暦 ____年 ____月 生 1. 同居 93.3% 2. 別居 2.5% 無回答 4.1%	1. 未就学児 11.3% 2. 小学生 37.3% 3. 中学生 28.0% 4. 高校生 19.0% 5. 高等専門学校 0.7% 6. 大学生等 1.3% 7. 就労 0.7% 8. その他 () 0.4% 無回答 1.2% ※上記2～4と回答した方は、次のあてはまるものに○をつけてください。 (学校の種類 A. 公立 (区立、都立) 70.3% B. 私立 16.7% C. 国立・公立中高一貫校 0.4%) (n=569) 無回答 12.7%
3 さんにん 目 (n=124)	1. 男 50.8% 2. 女 46.8% 無回答 2.4%	西暦 ____年 ____月 生 1. 同居 94.4% 2. 別居 4.0% 無回答 1.6%	1. 未就学児 18.5% 2. 小学生 52.4% 3. 中学生 18.5% 4. 高校生 8.1% 5. 高等専門学校 0.0% 6. 大学生等 0.8% 7. 就労 0.8% 8. その他 () 0.8% 無回答 0.0% ※上記2～4と回答した方は、次のあてはまるものに○をつけてください。 (学校の種類 A. 公立 (区立、都立) 81.6% B. 私立 6.1% C. 国立・公立中高一貫校 0.0%) (n=98) 無回答 12.2%
4 よにん 目 (n=14)	1. 男 57.1% 2. 女 35.7% 無回答 7.1%	西暦 ____年 ____月 生 1. 同居 92.9% 2. 別居 0.0% 無回答 7.1%	1. 未就学児 42.9% 2. 小学生 28.6% 3. 中学生 7.1% 4. 高校生 7.1% 5. 高等専門学校 7.1% 6. 大学生等 0.0% 7. 就労 0.0% 8. その他 () 7.1% 無回答 0.0% ※上記2～4と回答した方は、次のあてはまるものに○をつけてください。 (学校の種類 A. 公立 (区立、都立) 50.0% B. 私立 16.7% C. 国立・公立中高一貫校 0.0%) (n=6) 無回答 33.3%

5人目以降のお子さんについては、こちらの欄に記入をお願いします。

未就学児のお子さんがいる方にお伺いします。(→該当しない場合は問21へ)

問20 (1) お子さんを定期的に預けているところがありますか。(○はいくつでも) (n=328)

1. 認可保育所・認定こども園・地域型 保育事業に預けている	77.4%	5. ベビーシッター等を利用している	2.7%
2. 認証保育所・保育室・保育ママなど の認可外保育施設に預けている	7.0%	6. 友人・知人に預けている	1.2%
3. 幼稚園に通園している	8.5%	7. 仕事場に連れて行く	3.4%
4. 親や兄弟姉妹に預けている	7.9%	8. その他(具体的に:)	2.7%
		9. 定期的に預けているところはない	7.0%
		無回答	0.0%

問20 (2) お子さんの体調が悪い時に、お子さんを預けているところがありますか。(○はいくつでも) (n=328)

1. 病児・病後児保育施設に預けている	11.6%	4. 友人・知人に預けている	1.8%
2. 自分の親や兄弟姉妹に預けている	29.6%	5. その他(具体的に:)	2.7%
3. ベビーシッター等を利用している	4.0%	6. 預けているところはない	58.8%
		無回答	0.3%

→問21へ

小学生のお子さんがいる方にお伺いします。(→該当しない場合は問22-2へ)

問21 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

(n=714)

(A～Eについてそれぞれ1つに○)

	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	めったにない	無回答
A お子さんと食事をする →	85.4%	8.3%	3.5%	1.4%	0.7%	0.7%
B お子さんとテレビをみる →	54.1%	10.6%	15.8%	4.8%	13.9%	0.8%
C お子さんと一緒に遊ぶ →	25.5%	10.9%	37.8%	16.4%	8.5%	0.8%
D お子さんと学校生活の話をする →	71.8%	17.9%	6.2%	1.5%	1.1%	1.4%
E お子さんの勉強をみる →	36.4%	18.5%	18.3%	9.4%	16.7%	0.7%

→問22-1へ

小学生のお子さんがいる方にお伺いします。(→該当しない場合は問22-2へ)

問22-1 経済的な理由でできていないことはありますか。(○はいくつでも) (n=714)

1. 毎月おこづかいを渡す	35.2%	6. 1年に1回程度家族旅行に行く	50.3%
2. 毎年新しい洋服・靴を買う	22.3%	7. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	14.4%
3. 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	35.7%	8. 遊園地やテーマパークに行く	39.9%
4. 学習塾に通わせる(家庭教師・オンライン含む)	46.5%	9. 経済的な理由でできていないことはない	17.4%
5. お誕生日のお祝いをする	4.6%	10. その他(具体的に:)	6.4%
		無回答	2.5%

資料編

中学生のお子さんがいる方にお伺いします。(→該当しない場合は問22-3へ)

問22-2 経済的な理由でできていないことはありますか。(○はいくつでも) (n=549)

1. 毎月おこづかいを渡す	37.7%	6. 1年に1回程度家族旅行に行く	57.4%
2. 毎年新しい洋服・靴を買う	23.9%	7. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	18.0%
3. 習事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	39.7%	8. 遊園地やテーマパークに行く	42.3%
4. 学習塾に通わせる(家庭教師・オンライン含む)	40.1%	9. 経済的な理由でできていないことはない	16.8%
5. お誕生日のお祝いをする	6.6%	10. その他(具体的に:)	6.2%
		無回答	2.2%

→問22-3へ

高校生世代のお子さんがある方にお伺いします。(→該当しない場合は問23へ)

問22-3 経済的な理由でできていないことはありますか。(○はいくつでも) (n=593)

1. 毎月おこづかいを渡す	40.6%	6. 1年に1回程度家族旅行に行く	62.6%
2. 毎年新しい洋服・靴を買う	30.0%	7. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	18.4%
3. 習事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	42.3%	8. 遊園地やテーマパークに行く	37.3%
4. 学習塾に通わせる(家庭教師・オンライン含む)	46.4%	9. 経済的な理由でできていないことはない	12.6%
5. お誕生日のお祝いをする	10.5%	10. その他(具体的に:)	6.9%
		無回答	3.7%

→問23へ

すべての方にお伺いします。

問23 現在、お子さんやあなた自身のことで、どんな心配ごとや悩みごとがありますか。

(○はいくつでも) (N=1,845)

1. 家計について経済的な負担	73.1%	14. 子どもの健康状態	20.1%
2. ローンや借金など	13.9%	15. 子どもの学力・進路	60.1%
3. 育児・子育ての負担	30.3%	16. 子どもの友人関係	21.2%
4. 家事の負担	27.6%	17. 子どもの不登校・ひきこもり	10.6%
5. 仕事の負担	31.4%	18. 子どもの暴言・暴力	5.6%
6. 親等の介護	17.7%	19. 子どもの親(相手方)との関わり方	10.9%
7. 子どものしつけや接し方	32.2%	20. 子どもの親(相手方)からのつきまとい・暴力	1.9%
8. 子どもとコミュニケーションをとる時間の不足	32.5%	21. 周囲のひとり親家庭への理解不足	10.8%
9. 子どもを虐待してしまうことへの懸念	5.4%	22. 社会からの孤立感	9.2%
10. 自分の求職・就職	22.3%	23. 子どもへ精神的負担をかけていること	34.4%
11. 再婚・恋愛	15.4%	24. 子どもへ家事等の負担をさせてしまっていること	9.9%
12. 自分の健康状態	41.9%	25. その他(具体的に:)	6.3%
13. 自分が倒れたときの子どもの将来	71.3%	26. 特にな	2.7%
		無回答	0.3%

相談支援についてお伺いします。

問24 あなたの周囲の人との関わり方について、普段どのようなことを考えていますか。
(N=1,845) (A～Fについてそれぞれ1つに○)

	とても 思う	まあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	まったく 思わない	無回答
A できることなら、いつも誰かと一緒にいたい	6.4%	14.3%	26.9%	35.1%	16.4%	0.9%
B いつも誰かに見守ってもらいたい	7.5%	21.2%	26.3%	29.8%	14.2%	0.9%
C 人から「元気？」などの気くばりの言葉がほしい	5.7%	21.7%	27.9%	27.1%	16.5%	1.2%
D 何かやろうとするときには、誰かにはげまされたり、 気づかってもらいたい	8.7%	28.5%	24.1%	23.8%	14.0%	0.9%
E 忙しいときには誰かに手伝ってほしい	32.3%	42.8%	12.8%	7.0%	4.2%	0.9%
F 自分にはわからないことがあったら、誰かに教えてほしい	36.5%	44.9%	10.2%	4.2%	3.3%	0.9%

問25 ひとり親家庭になる前後で、以下の人たちに相談しましたか。(○はいくつでも)

(N=1,845)

1. 自分の親	64.1%	9. 保育園や学校等の先生	5.6%
2. 自分の兄弟姉妹	31.5%	10. 養育費相談支援センター等の専門職員	1.3%
3. 自分の親戚	6.7%	11. 弁護士や法テラス等の専門職員	24.3%
4. 友人・知人	53.2%	12. SNSでつながった人	1.6%
5. 職場の同僚	12.4%	13. その他(具体的に:)	4.5%
6. 近所の人	2.6%	14. 相談した人はいなかった	12.8%
7. ひとり親家庭の支援団体	6.5%	無回答	0.5%
8. 区役所(子ども家庭支援センター等)の職員	26.7%		

問26 ひとり親家庭に関することで、今まで「相談したくてもできなかった」ということは
ありますか。理由もあわせてお伺いします。(○はいくつでも) (N=1,845)

1. 相談したくても、時間が無かった	14.0%	6. 相談しようと話してみたが、 相手にわかってもらえなかった	9.9%
2. 仕事を休むことができなかった	14.0%	7. どう相談したら良いかわからなかった	22.0%
3. どこで相談できるのかわからなかった	13.4%	8. 相談できる人はいなかった	6.1%
4. 相談に行く気にならなかった	11.9%	9. その他(具体的に:)	4.4%
5. 相談に行ってみたが、 話せる雰囲気ではなかった	3.2%	10. 「相談したくてもできなかった」ことは特 にない	42.7%
		無回答	4.1%

資料編

問27 ひとり親になる時に知りたかったことはありますか。(〇はいくつでも) (N=1,845)

1. 児童扶養手当などの経済的な支援	61.1%	7. 離婚時の子どもへの説明の仕方	15.7%
2. 住居に関する支援	48.1%	8. DVなどに関する支援	7.4%
3. 子育てに関する支援	46.7%	9. 病気や障害に関する支援	11.4%
4. 就労に関する支援	28.7%	10. その他(具体的に:)	2.8%
5. 財産分与や慰謝料など法律に関すること	27.4%	11. 特になかった	15.3%
6. 養育費や面会交流に関すること	24.0%	無回答	1.6%

問28 総合支所保健福祉センターの子ども家庭支援課(子ども家庭支援センター)窓口を利用したことがありますか。(〇は1つ) (N=1,845)

1. 利用したことがある →問28-2へ	66.8%	2. 利用したことがない →問28-1へ	31.5%
		無回答	1.7%

問28の「2. 利用したことがない」を選ばれた方にお伺いします。

問28-1 総合支所保健福祉センターの子ども家庭支援課(子ども家庭支援センター)窓口を利用したことがない理由は何ですか。(〇はいくつでも) (n=582)

1. 相談したいと思ったことがなかった	39.7%	5. 相談する方法がわからなかった	13.1%
2. 相談したかったが抵抗感があった	7.0%	6. 相談する窓口を知らなかった	36.6%
3. 相談する時間がない	15.8%	7. その他(具体的に:)	3.6%
4. 相談したいときに窓口が開いていない	8.8%	無回答	2.4%

→問28-2へ

問28-2 どうしたら区の窓口が利用しやすくなると思いますか。(〇はいくつでも)

(N=1,845)

1. 夜間窓口を開設する	27.4%	7. 専門的な相談ができる(具体的に:)	9.6%
2. 土・日・祝日窓口を開設する	60.4%	8. オンライン(ビデオ通話等)で相談ができる	25.1%
3. 受付場所を増やす	22.2%	9. メールで相談ができる	31.8%
4. 託児がある	17.4%	10. SNS相談ができる	24.0%
5. 一か所で色々な相談ができる	43.4%	11. その他(具体的に:)	5.9%
6. 同行してくれる人がいる	3.1%	無回答	5.6%

問29 以下のひとり親の方への支援策等のうち知っている事業はどれですか。(〇はいくつでも)

(N=1,845)

1. ひとり親家庭等医療費助成	88.3%
2. ひとり親家庭等ホームヘルプ(養育支援等ホームヘルプ)	14.3%
3. ひとり親家庭休養ホーム	18.2%
4. 母子家庭及び父子家庭自立支援教育訓練給付金	27.3%
5. 母子家庭及び父子家庭高等職業訓練促進給付金	21.1%
6. ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業	7.9%
7. 区の資金貸付	19.8%
8. 都の母子及び父子福祉資金貸付	13.9%
9. 母子生活支援施設	19.6%
10. 公営住宅の優遇抽選等	38.3%
11. ひとり親世帯家賃低廉化補助事業	10.0%
12. ひとり親就労支援セミナー	17.2%
13. ひとり親家庭等の子どもの学習支援(かるがもスタディルーム)	25.3%
14. 無料学習支援(せたがやゼミナール)	6.9%
15. 受験生チャレンジ支援貸付金(塾代・受験料の貸付)	24.4%
16. メールマガジン「ひとり親家庭支援情報」	18.4%
17. 冊子「ひとり親家庭が新しい一歩を踏み出すために」	23.1%
18. 養育費相談会・離婚前後の親支援講座	7.7%
19. 子育てひろば・おでかけひろば	33.4%
20. ほっとステイ	28.8%
21. 地域子育て支援コーディネーター(利用者支援事業)	6.3%
22. ショートステイ・トワイライトステイ	14.7%
23. 男女共同参画センター“らぷらす”の就業支援講座	9.8%
24. 男女共同参画センター“らぷらす”の「シンママカフェ」	11.2%
25. 三茶おしごとカフェ	24.3%
26. ぷらっとホーム世田谷	20.2%
27. 特にない	4.7%
無回答	1.6%

資料編

問30 あなたは、ひとり親家庭への支援情報をどこから入手していますか。(〇はいくつでも)
(N=1,845)

1. 区の広報紙「せたがや」	11.2%	8. 友人・知人からの口コミ	10.8%
2. 区のホームページ	35.8%	9. テレビ・ラジオ・新聞	2.7%
3. 区の相談窓口(子ども家庭支援センター)	22.0%	10. SNS(X(エックス:旧ツイッター)・LINE・Instagram等)	7.5%
4. 冊子「ひとり親家庭が新しい一歩を踏み出すために」	12.5%	11. インターネットサイト	21.4%
5. メールマガジン「ひとり親家庭支援情報」	16.2%	12. その他(具体的に:)	2.4%
6. ひとり親家庭の支援団体	4.3%	13. 特にない	18.4%
7. 父母・祖父母・兄弟姉妹等の親族	2.9%	無回答	1.1%

問31 ひとり親家庭への支援情報の入手方法として、どのようなものから情報を得られると便利だと思えますか。(〇はいくつでも)
(N=1,845)

1. 区の広報紙「せたがや」	13.4%	7. X(エックス:旧ツイッター)	17.0%
2. 区のホームページ	39.8%	8. LINE	48.8%
3. 区の相談窓口(子ども家庭支援センター)	18.2%	9. Instagram	23.1%
4. 冊子やパンフレット	17.5%	10. その他(具体的に:)	3.9%
5. メールマガジン	21.2%	11. 特にない	7.0%
6. ひとり親家庭の支援団体	9.1%	無回答	2.0%

問32 ひとり親家庭への支援として、手当などの経済的な支援のほかに、あなたが世田谷区に特に取り組んでほしいと思う支援は何ですか。(〇は3つまで)
(N=1,845)

1. 食の支援の充実	31.5%
2. 家賃補助や物件のあっせんなどの居住支援	52.6%
3. 就職先のあっせんや資格取得のための支援などの就労支援	18.9%
4. 弁護士等との法律相談	14.3%
5. ファイナンシャルプランナーとのライフプランの相談	16.2%
6. 子どもの預け先の充実などの育児支援	18.6%
7. 子どもの学習支援	36.2%
8. 子どもの教育費の負担軽減	59.8%
9. 養育費の確保への支援	16.0%
10. その他(具体的に:)	4.9%
11. 特にない	2.5%
無回答	1.1%

問33 悩みや不安、必要と感じる支援等がありましたら、ご自由にお書きください。
また、これまで子育てをしながら生活してきた中で、助けられたり、役に立ったと実感できた支援や出来事などについて、ご自由にお書きください。

質問は以上です。お忙しいところ、ご回答いただきまして、ありがとうございました。

同封の返信用封筒で、**11月22日（水）**までにご返送ください。

世田谷区
ひとり親家庭調査
調査報告書

令和6年3月発行

発行:世田谷区 子ども・若者部 子ども家庭課

〒154-8504

東京都世田谷区世田谷 4丁目 21番 27号

電話 03-5432-2569

調査:株式会社生活構造研究所

〒102-0083

千代田区麴町2丁目5番地4

電話番号 03-5275-7861